

経済学部
2019 年度
第 2 回入ゼミ説明会

Keio University



2018 年 11 月 10 日(土)

慶應義塾大学

経済学部ゼミナール委員会

Keio University



2019 年度 経済学部第 2 回入ゼミ説明会

-目次-

- p2 慶應義塾大学経済学部 学習指導主任 挨拶
- p3 経済学部ゼミナール委員会 委員長 挨拶
 - p4-5 研究会(ゼミナール)とは
- p6 ゼミ選びにおける三田祭の活用方法
- p7-8 経済学部ゼミナール委員会とは
- p9-10 全塾ゼミナール委員会とは・他学部入ゼミについて
 - p11 業界講演会について
 - p12-14 分野別研究会総覧・目次
 - p15-172 各研究会紹介
 - p173-180 For PEARL Students
 - p181-183 ゼミ説明会 会場全体図

第 2 回ゼミ説明会に寄せて

経済学部学習指導主任 駒形 哲哉

研究会は、皆さんにかけがえのない機会を与えてくれます。

第 1 に、自分自身で能動的に学ぶ機会を得られます。大学ではさまざまな分野における高度な知識を身につけなければなりません。それ自体が非常に大変であることは、皆さんもすでに強く実感していることと思います。しかしせっかく大学に進んだからには、そうして得た知識も生かしながら、自分自身で問題を見出して課題を設定し、文献・資料を見つけ、あるいは自ら調査を行ない、自分自身の結論を出す、そうした経験をぜひ積んでください。研究会での三田祭論文や卒業論文の作成は、その絶好の機会となります。研究会は、皆さんの取り組み次第で、オリジナルな知的経験を作り出す、貴重な場となりうるのです。

第 2 に、能動的に研究をするプロセスで試行錯誤を繰り返せる機会です。自分でテーマを選び問題を設定するまでには、たいてい、想定外の高いハードルがいくつもあります。通常科目のレポート課題や試験問題には基本的に模範解答の存在が想定されていますが、皆さんが社会に出てから直面する問題には解答がないかもしれませんし、問題があることは直感的に感じられてもそれがどのような問題であるかを認識すること自体がとても難しい、ということがよくあります。そうした事態に対処できるようになるためには試行錯誤を繰り返し、経験を積み重ねる以外に方法がありません。研究会では、卒業論文や三田祭論文を完成させるまでに、自分次第で何度でも担当教員に提出し、その指導を受けては改善し、最終的にこれで OK というお墨付きをもらうプロセスを実体験することになります。それは、自身による能動的な取り組みを基本としつつも、教員とのキャッチボールで学問的な成果を達成していくプロセスです。それは換言すれば、授業で提供されたヒントにもとづいてそつなく解答を仕上げるクレーバースを發揮することとはまた別の、むしろ失敗を恐れずやってみる勇気を持ち、失敗を重ねて成功への糧とすることのできる自分を発見するプロセスとなることでしょう。

第 3 に、研究会では、能動的な知的経験を同期のゼミ生を中心とした学生同士で共有する機会も得られます。三田祭論文は、その好例といえるでしょう。試験の準備をクラスの友人等と行なうこともあるでしょうが、この場合は、担当教員によって定められた問題とその正解を皆で見つけることが実質的に唯一の目的となります。これとは異なり、研究会での共同作業は自分たちで問題を定め、自分たちの答え・結論を求める作業です。そこでは、互いの意見がぶつかりあうことも少なからず起こります。それを乗り越えながら準備することはたしかに大変です。全員一致の結論を得られない場合があるかもしれません。しかし、困難のなかでも結論を導こうと試行錯誤するプロセスそれ自体が、将来にも有益な、貴重な経験となり、そうした経験を共有した仲間は大切な存在となるはずです。

こうしたかけがえのない機会を、皆さんが十二分に生かし、三田での勉学をより実り豊かなものとするのを、心より願っています。

経済学部ゼミナール委員会委員長より

経済学部ゼミナール委員長
尾崎裕之研究会
経済学部3年 小林 北斗

空が深く澄みわたる季節。ジメジメとした夏が終わり、過ごしやすい気候になってきました。まず、第二回の入ゼミ説明会を無事に開催することができたことに、この場を借りて御礼申し上げたいと思います。

さて、第一回説明会で私は、入るゼミを決めつけることなく、色々なゼミを見て回ってくださいと申し上げました。今回もそれに関して少しだけ述べたいと思います。

前回、私の話を聴いてくださった方の中には、自分が思いもしなかった分野のゼミに興味を持つこともあったのではないのでしょうか。ゼミを選ぶ際に、皆さんが1番に考えるであろうことは、何でしょうか。おそらく、「自分が学問のどの分野に興味があるか」ということなのではないかと考えます。具体的には、入学以前から興味があった分野、大学の授業で興味を抱いた分野、課外活動を通して興味を持った分野の中から入りたいゼミを決めるのではないのでしょうか。多くの方は、上にあげた3つから自分の興味を決めつけてしまうと思います。もちろん、自分の「学びたいこと」がはっきりしているということは、悪いことではなく、そういった人は、強く素晴らしいと思います。しかし、不思議なもので、自分のことを正確に知ることとは、大変難しいことです。たとえば、好きだと思っていることを突き詰めていくと、本当に好きなのか分からなくなってしまうことがよくあります。だからこそ、見逃して欲しくないのは、入ゼミ活動をする上で見つけた興味分野です。それを無視することで、わざわざ自分の可能性を狭めるのはもったいなく思います。自分が何に興味があるのか考えるのは、難しく悩むものではありませんが、せつかく整った環境があるので、真剣に考えてみるのも悪くないかもしれません。もちろん、ゼミは勉強だけをするのではなく、生涯付き合うような仲間と出会う場でもありますので、ゼミの教授や先輩の人間性、全体の雰囲気といったところを大切な基準としている人もいるでしょう。人によってはソフトボールの強さやゼミの時間割りも関係してくるかもしれません。いずれにせよ、噂を鵜呑みにするのではなく、自分の足で正確な情報を集めるようにしてください。

長くなりましたが、以上のことを踏まえて、前回同様に、色々なゼミを見て回ってくださいとアドバイスさせていただきます。最後までお読みいただき、ありがとうございました。また、何時でもご相談承りますので、経済学部ゼミナール委員会にお気軽にお声かけください。

研究会(ゼミナール)とは

これから2年生の皆さんが志望を検討する「研究会」(ゼミナール)は、担当の教授の下で2年間に渡り専門的な研究、学習を行う三田ならではの専門教育課程です。慶應義塾大学経済学部のカリキュラムの中では研究プロジェクトやPCP、少人数セミナーと並び、少人数制の特色ある教育として挙げられています。また三田での生活は日吉での生活とは多少趣が変わり、ゼミナール活動が学習と生活の中心となるという学生が多くなるのも特徴です。この冊子をよく読み、ゼミ選びの参考としてください。以下は研究会(ゼミナール)の特徴となります。

1. 少人数制であり、選考試験がある

各研究会には定員数が設けられており、授業は少人数制です。学生同士、そして学生と教授の距離が近いことが特徴だと言えます。研究会は必修科目ではなく、また少人数制で履修生に限りがあるため、入会に際し選考試験があります。入ゼミ説明会の個別ブースなどで情報を収集し、準備はしっかりと行うように心がけてください。

2. 分野に特化しており、2年間に渡り履修をする

各研究会にはそれぞれの専攻分野があり、自分の興味や関心のある内容をより深く学ぶことが可能です。基本的に2年連続で同じ研究会に所属・履修し、第3学年末に4単位、第4学年末に8単位を取得することになります。研究会は必修科目ではなく、三田で履修することができる「専門教育科目」の中の「特殊科目」にあたる専門科目となります。

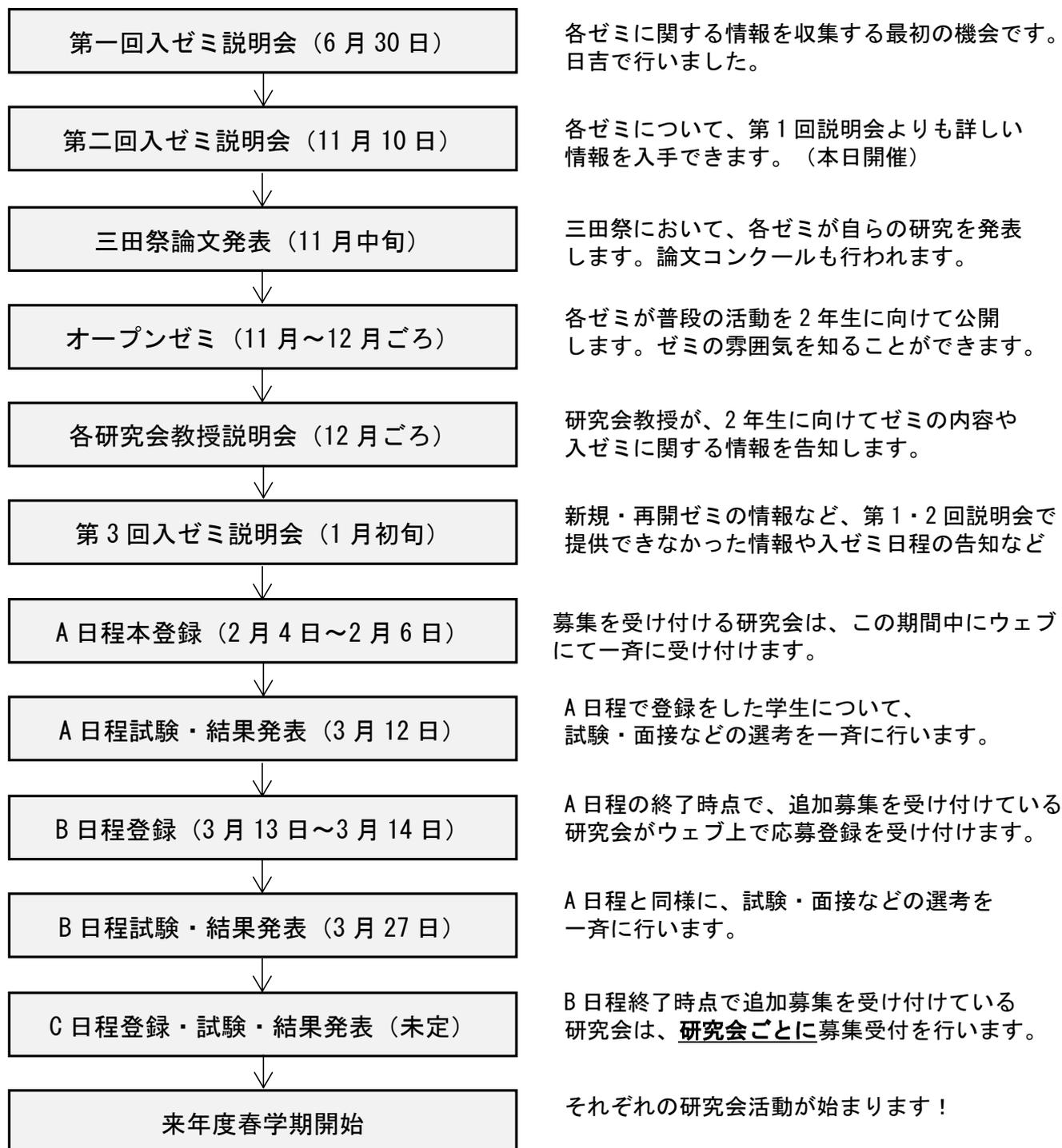
3. 4・5限にある研究会が多く、その時間の他講義が少ない

研究会の特徴からは少し離れますが、三田での生活についてです。三田の時間割を見たことがある方はさほど多くはないかと思います。三田で履修する科目のほとんどが日吉で学んだ経済学をさらに発展させた内容となる「専門教育科目」となります。その専門教育科目の講義型科目を担当している教員の方々が研究会を受け持っています。その研究会が4・5限に集中しているため、三田の通常講義の時間は1限から3限に非常に集中しています。ゼミによっては個別ゼミ必修科目を設けている場合がある為、自然と研究会中心の生活になる学生が多いようです。

☑ 入ゼミスケジュール予定(参考)

* 具体的な入ゼミ日程については当冊子作成段階では未定となっています。確定次第 Web で発表します。

【重要】本年度から入ゼミ登録方法がウェブ形式になります。



ゼミ選びにおける三田祭の活用方法

研究会に入りたい2年生の方へ

三田祭論文のブースを上手く活用しよう！



* 三田祭論文とは？

各研究会で進めた研究について、三田祭で論文を執筆し発表することです。また、三田祭論文コンクールは慶應義塾大学内で最大規模かつ、多くの研究会が一同に会し論文を発表する貴重な場でもあります。

* ブースに行くと…

- ・自分の行きたい研究会が実際にどのような勉強をしているのか知ることができる！
- ・常に研究会員がブースに待機しているので説明会以上に詳しい話をゆっくり聞くことができる！
- ・活動内容を掲示しているゼミが多くあるので、実際に活動の内容を知ることができる！

経済学部三田祭論文コンクール

三田祭論文について詳しくは、
<http://keizemikeio.info/wp/mitaron/> まで

各研究会の三田祭論文について助教授に査定していただき、優秀な論文を執筆した研究会を表彰するコンクールです。ゼミ選びの一つの指標として参考してください！（以下昨年度受賞ゼミ）

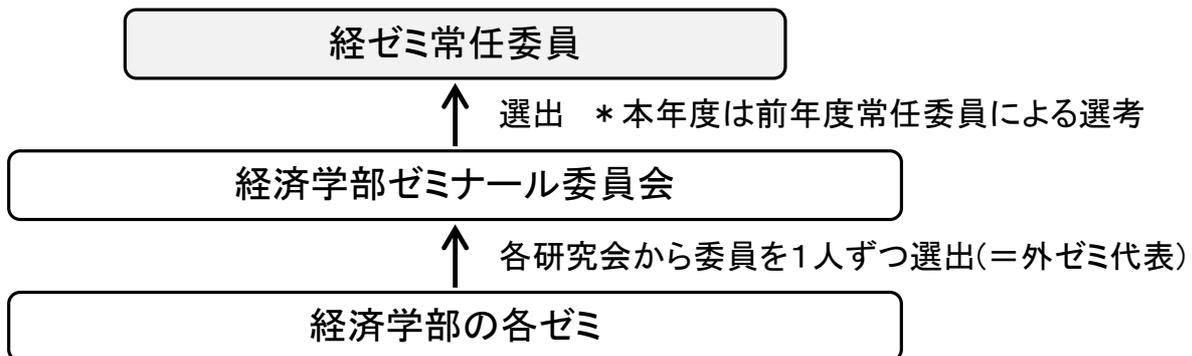
- ・金賞 赤林英夫研究会 : 大学間で教育の付加価値に差はあるのか？-大学別収益率の決定要因に関する実証分析-
- 井深陽子研究会 : 地域要因が病院の経営収支に与える影響の研究
- ・銀賞 中西聡研究会 : 明治期日本の経済政策と企業行動-財閥系企業と非財閥系企業の比較-
- 星野崇宏研究会 : 購買行動及びブランド選択に対する広告の外部効果:マイクロデータによる消費者行動理論の解明
- ・銅賞 坂井豊貴研究会 : フランス大統領の選挙制度について
- 廣瀬康生研究会 : 日本における財閥支配の可能性～DSGEモデルによる分析～

経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会(略称:経ゼミ)は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

☑ 経済学部ゼミナール委員会 構成

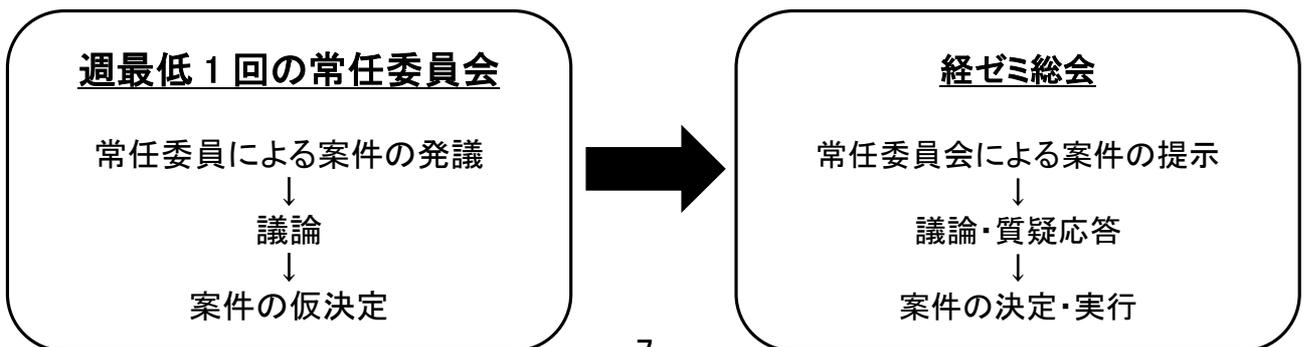
- ・会長 : 駒形哲哉 教授
- ・構成員 : 経済学部各研究会からの代表者
- ・常任委員: 構成員の中から選出された16名



☑ 経済学部ゼミナール委員会 目的・意義

- ・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
- ・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
- ・月1回、全構成員による総会を開く。
- ・週1回、常任委員による常任委員会を開く。

☑ 経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係

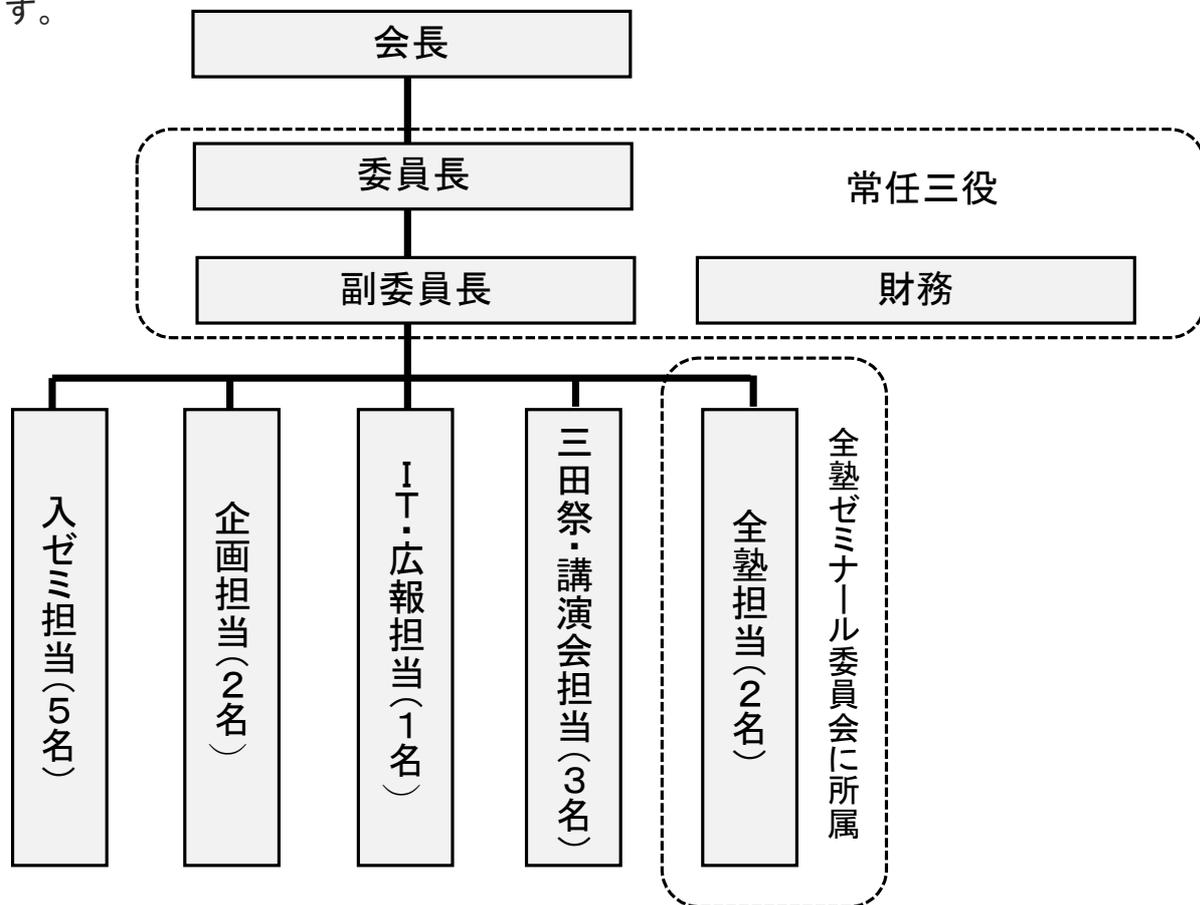


☑ 経ゼミは何をしているのか

- ・入ゼミの運営、開催(説明会の実施、資料作成、オープンゼミなどの実施、試験の管理)
- ・各研究会の三田祭における論文発表の場所確保、運営
- ・ゼミ内ゼミ間親睦の為にソフトボール大会など企画の運営
- ・各種講演会の企画、運営
- ・研究会活動の促進の為に問題提議と解決

☑ 経ゼミ常任委員とは

各研究会の外ゼミ代表より組織される経済学部ゼミナール委員会の委員から、それぞれの役職を持った常任 15 名が選出されます。それぞれの担当が経ゼミ内の企画の仕事に責任を持ち、活動しています。伝統を守り、数多くのルーティンワークをこなしながら新しい企画の導入も検討し、現状の活動に問題がないかを常に考えていく姿勢が求められます。



経ゼミの常任委員になりたいという方は、まずは各ゼミの外ゼミ代表を目指してください。

Web サイトに入ゼミ関連情報を掲載しています。

経済学部ゼミナール委員会 Web サイト: <http://keizemi-keio.info/wp/>

経済学部ゼミナール委員会 Twitter: @2018keizemi

経ゼミに興味がある方、質問等は経ゼミブース(108 教室)へ

また、入ゼミに関するお問い合わせ等は keio.eco.nyuzemi2018@gmail.com まで

全塾ゼミナール委員会

【委員会構成】

全塾ゼミナール委員会は慶應義塾大学の公認団体であり、200 余りのゼミから成る各学部のゼミナール委員会を統括し、研究会活動に関する学生自治を任されています。当委員会は、下記の 6 つのゼミナール委員会からそれぞれ選出された 10 名により運営されています。

経済学部・商学部・法学部法律学科・法学部政治学科(各 2 名)

文学部人文社会学科社会学専攻・文学部人文社会学科人間科学専攻(各 1 名)

【意義】

本会は、各委員会に所属する研究会生の学術的活動並びに友好的交流支援により他学部他学科間の相互理解・相互連携を通して慶應義塾大学のアカデミズムの興隆に寄与することを目的とする。

(全塾ゼミナール委員会規約第 1 章第 1 条より)

【主な活動内容】

他学部入ゼミ支援

6 月下旬より、2 年生に対して各学部で入ゼミ説明会が行われます。学生は基本的に所属する学部のゼミに入会しますが、他学部生を受け入れている一部のゼミに入会することも可能です。そこで、学部を超えたゼミの情報収集の負担を軽減すべく、全塾ゼミナール委員会が情報提供をサポートします。

具体的には各学部の入ゼミ説明会でブースを出展、他学部入ゼミ説明会の開催、他学部入ゼミ冊子の作成、Twitter、Facebook ページ、ホームページを通じて支援致します。

業界講演会

塾生の皆さまが将来の進路を決定する際の一助となれるよう、多岐に渡る業界で活躍するOBOG の方々の講演を、全塾ゼミナール委員会は企画・運営しております。毎年秋学期に開催しており、本年度も皆様からのアンケートに基づき講演会の企画を進めております。

全塾ソフトボール大会

毎年、各学部でソフトボール大会が行われます。そしてこのソフトボール大会で勝ち上がったゼミが、学部を超えて対戦するのが全塾ソフトボール大会であり、全塾ゼミナール委員会は大会の企画運営を行います。本年度は 6 月下旬に実施します。

・全塾 HP: <http://www.zenjuku-seminar.com>

・Twitter: @zenjuku_keio(全塾ゼミナール委員会)

@zenjuku_nyuzemi(全塾ゼミナール委員会 他学部入ゼミ)

・Facebook: <https://www.facebook.com/zenjuku.nyuzemi/>

・問い合わせ: zenjuku.seminar.nyuzemi2018@gmail.com

他学部入ゼミについて

全塾ゼミナール委員会では、学部を超えて他学部のゼミで学びたいという意欲的な方を応援しています。下記に各学部の入ゼミの簡単な予定とFAQを載せておきますので、興味のある学部の説明会に足を運んでみてください。詳細は全塾HPに随時掲載致します。

	文学部 人間学 科	文学部 社会学	経済学 部	法学部 法律学 科	法学部 政治学 科	商学部	他学部 入ゼミ
第一回 説明会	7/2	6/13	6/30	9/29	6/30	6/23	7/7
第二回 説明会	11月下 旬	11月上 旬	11/10	なし	10/6	10/20	10/13
第三回 説明会	なし	なし	1月 中旬	なし	なし	1月下旬	なし
試験	1月 下旬	12月上 旬	3月 上旬	12月上 旬	2月 上旬	3月 中旬	—

* 上記は現段階で各学部ゼミナール委員会が発表しているものであり、今後日程が変わる場合があります。詳しくは各学部ゼミナール委員会のHP等で日程をご確認ください。

FAQ

Q.他学部のゼミに所属することはできるのでしょうか？

A. 入会したいゼミが他学部生を受け入れており、入会課題や面接などを受け、入会を認められた場合、他学部のゼミに所属することが出来ます。

他学部入ゼミは基礎学力の違い、単位上の問題などある程度リスクを伴うものです。しかし、全塾ゼミナール委員会は他学部のゼミを志望する学生に情報提供し、サポートを行っていきたいと思いますので、どんな些細なことでもお気軽にお尋ねください。

Q.全塾ゼミナール委員会ではすべての学部・学科のゼミに関して相談に乗ってもらえるのですか？

A. 当委員会は、慶應義塾大学の三田キャンパスに所属する6つのゼミナール委員会(経済学部、商学部、文学部人文社会学科社会学専攻、文学部人文社会学科人間科学専攻、法学部法律学科、法学部政治学科の各ゼミナール委員会)から2人ずつ(文学部は1人ずつ)選出され、計10人で組織されています。そのため、上記以外の学部・学科については情報を提供できません。湘南藤沢キャンパス(SFC)、理工学部、医学部はもちろんですが、文学部教育・心理・美術その他専攻もこれに当たります。これらのゼミに興味のある方は直接そのゼミに連絡をとって頂くこととなります。

Q.自分の所属している学部のゼミと他学部のゼミの両方に所属することは可能ですか？

A. 可能です。ただし、2つのゼミを受験され両方入会を許可された場合、片方を辞退する行為は極めて失礼に当たるため、必ず両方に所属し全うして頂くようお願い致します。ゼミの活動は、予想以上に内容の濃いものです。時間的拘束など複数のゼミに所属するメリット、デメリットの両方を熟考の上、後悔しないゼミ選びをして下さい。

2018年度業界講演会

【飛び立て、無限に広がる世界へ、自分だけの舞台を求めて】

業界講演会とは、社会で活躍されている企業の方々に、その業界や社会の実情についてのお話をしていただくというイベントです。22回目となる本年度は、「様々な業界の講演に参加し、今まで知らなかった世界へと視野を広げることで、自分の可能性もより広げていってほしい」という願いを込めました。本年度は、以下26企業の方々にご講演をお願いしております。

【ご案内】

場所：南校舎ホール(三田キャンパス) 時間 18:30～20:00 ※申込不要・参加無料

11/27	海運	日本郵船株式会社
11/28	エンタメ	ソニーミュージックグループ
11/29	不動産	三菱地所株式会社
12/4	広告	株式会社電通
12/5	食品	味の素株式会社
12/6	映画	東宝株式会社
12/7	出版	株式会社講談社
12/11	飲料	サントリーホールディングス
12/12	化粧品	株式会社資生堂
12/13	銀行	株式会社三菱 UFJ 銀行

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。 全塾ゼミナール委員会一同

※業界講演会とは、塾生の将来の展望を定め、学問研究の充実を図ることを目的としております。企業の採用活動とは一切関係ございません。

分野別研究会総覧・目次

分野	研究会名	詳細な専攻	他学部	PEARL
理論経済	大西広研究会	マルクス経済学	○	○
	尾崎裕之研究会	「不確実性」の数理モデルの構築	○	○
	栗野盛光研究会	マーケットデザイン	○	○
	坂井豊貴研究会	社会的選択理論、マーケットデザイン	×	×
	塩澤修平研究会	理論経済学、金融経済学	○	○
	須田伸一研究会	理論経済学(マクロ経済学、ミクロ経済学)	×	×
	玉田康成研究会	応用ミクロ経済学: インセンティブ・契約理論・産業組織論	○	○
	津曲正俊研究会	ゲーム理論、産業組織論、情報の経済学、組織の経済学など	○	○
	中村慎助研究会	理論経済学・公共経済学	○	○
	廣瀬康生研究会	金融経済学、マクロ経済学、ミクロ経済学	○	×
	藤原一平研究会	マクロ経済学・国際金融論	○	○
	藤原グレーヴァ香子研究会	ゲーム理論・ミクロ経済学	×	○
	穂刈亨研究会	ミクロ経済学、ゲーム理論	○	○
	石橋孝次研究会	ミクロ経済学・産業組織論	×	×
	金融	新井拓児研究会	確率論・数理ファイナンス	○
伊藤幹夫研究会		ファイナンス、計量経済学	×	×
小林慶一郎研究会		金融・マクロ経済学	○	○
佐藤祐己研究会		金融論・日本経済の応用ミクロ経済学	○	○
中妻照雄研究会		データサイエンス(ベイズ統計学)とファイナンスなどへの応用(機械学習、フィンテックなどに関する最先端の研究ができます)	○	○
国際経済	大久保敏弘研究会	国際経済学、海外直接投資・新経済地理学(空間経済学)・都市・地域経済	○	×
	嘉治佐保子研究会	国際マクロ経済学・欧州経済論	○	○
	木村福成研究会	国際貿易論・開発経済学	○	○
	駒形哲哉研究会	東アジア・中国・新興国経済	○	○
	白井義昌研究会	国際経済学(国際貿易・国際金融・開発経済)	×	○
	竹森俊平研究会	国際経済、国際金融	○	○
	秋山裕研究会	経済発展論、計量経済学	○	○

経済史	飯田恭研究会	経済史・社会史・環境史	○	×
	太田淳研究会	経済史(東南アジア経済史、社会史)	○	○
	神田さやこ研究会	経済史(南アジア中心)	○	○
	中西聡研究会	日本経済史	○	×
	松沢裕作研究会	日本社会史	○	×
計量経済・統計	河井啓希研究会	応用ミクロ理論に基づく実証分析、産業組織論、医療経済学	×	×
	田中辰雄研究会	計量経済学・IT産業の実証分析	○	×
	長倉大輔研究会	計量経済学 Econometrics	○	×
	星野崇宏研究会	統計学・行動経済学とその応用(マーケティング・ビッグデータ解析など)	○	○
	宮内環研究会	市場の数量分析	○	×
産業・労働経済	植田浩史研究会	産業調査・産業史・経営戦略・経営史・中小企業論	×	×
	太田聡一研究会	労働経済	○	○
制度・政策	駒村康平研究会	社会保障制度・社会政策・福祉	○	×
	寺井公子研究会	公共経済学・政治経済学	○	○
	山田篤裕研究会	社会政策論(社会保障、雇用政策、医療経済)	○	○
経済学史・思想史	池田幸弘研究会	経済学史・経済思想史	○	○
	川俣雅弘研究会	理論経済学、経済学史	○	○
	高草木光一研究会	社会思想史	○	×
社会思想史	坂本達哉研究会	社会思想史および経済思想史	○	○
	壽里竜研究会	社会思想史	○	○
経済地理	河端瑞貴研究会	空間社会経済研究・地理情報システム(GIS)	○	×
	武山政直研究会	サービスデザイン	○	×
開発経済学	大平哲研究会	開発経済学・地域経済学	○	○
	山田浩之研究会	国際開発経済学・計量経済学	○	×
応用ミクロ経済学	中嶋亮研究会	経済実証分析の基礎的な手法を身に付けることで、データの背後にある経済原理を論理的に身に付けることを目的とします。	○	×
	藤田康範研究会	応用ミクロ経済学	○	○
	赤林英夫研究会	教育・労働・家族の応用ミクロ計量経済学	○	○
財政社会学	井手英策研究会	財政社会学	○	○
医療経済学	井深陽子研究会	医療経済学	○	○
行動経済学	大垣昌夫研究会	行動経済学	○	×

環境経済学	大沼あゆみ研究会	環境経済学	○	×
都市計画	長谷川淳一研究会	都市計画	○	×
PCP	PCP	英語による実践的な経済学	○	○
	研究プロジェクト	経済学に限らず、自分が興味のある学問・分野	---	×
PEARL	Asei Ito Seminar	The Chinese and Asian Economies	×	---
	Fukuhara Masahiro Seminar	People Analytics and Fintech	×	---
	Tatsuma Wada Seminar	Macroeconomics, Empirical studies, International Finance	×	---

* 各ゼミ記載内容は以下の通りになっています。

研究会名

研究分野

1. 各ゼミの詳細な分野・専攻・領域
2. 各ゼミに入ゼミを希望する学生への要望
3. 入ゼミの選考形式について
4. ゼミ員人数構成
5. ゼミの活動についての紹介
6. 本年度秋学期に開講されている、各研究会の教授ご担当の講義
7. ゼミ生の連絡先(外ゼミ代表・入ゼミ担当など)

注)以下の研究会の1)詳細な分野 2)学生への要望 2)選考形式は昨年度のものです。

大久保敏弘研究会

井手英策研究会

注)以下の研究会は個別説明会のブースを設置しておりません。

須田伸一研究会

井手英策研究会

理論經濟

大西広研究会

尾崎裕之研究会

栗野盛光研究会

坂井豊貴研究会

塩澤修平研究会

須田伸一研究会

玉田康成研究会

津曲正俊研究会

中村慎助研究会

廣瀬康生研究会

藤原一平研究会

藤原グレーヴァ香子

研究会

穂刈亨研究会

石橋孝次研究会

大西広研究会

—近代経済学を基礎とするマルクス経済学—

1. 研究分野

指導教員は「近代経済学を基礎とするマルクス経済学」を構築するために長らく作業をしてきた。近代経済学はマルクスのアイデアの多くを受け継ぎ発展をしてきたというのがひとつの理由であるが、それと同時に、では何が「マルクス経済学」であるのかも問われなければならない。世界経済危機や原発危機は近代経済学の危機でもあり、社会の在り方と経済学の在り方は根本的に問われている。研究会では、この大きな課題を正面に据え、2年間をともに歩みたい。簡単な課題でなくとも、まずは挑戦することが重要であり、案外ポイントは単純なところにあるかも知れないからである。

なお、この目的のために、ここ3年間は盛山和夫『社会を数理で読み解く』有斐閣を教科書として使ってきた。ゼミ生がこれを基礎に様々なマルクス的なアイデアを数理化する工夫をするための良書だからである。内容的には、格差の問題、権力の問題、互酬性の問題、社会的ジレンマの問題、教育機会の不平等問題、差別の問題、集散的決定が引き起こす問題など多様な内容を含んでいる。ただ、ここでの内容をゼミ論に発展させるには多少種切れの感もあるので、今のところ、この教科書と日吉の「マルクス経済学」で使っている教科書『マルクス経済学(第二版)』のどちらかから各自が独自に発展させる論点を探すのもOKとする予定である。

なお、研究会には、こうした研究の発展を経て大学院進学している学生も多い。このようなスタイルで、各人の研究テーマを開拓してくれることを期待している。

なお、以上のテキストで3,4年生全員で開催する「本ゼミ」以外に、『資本論』を学年ごとに開催するサブ・ゼミで読んでもらっている。『資本論』は学生時代でしか本物を読めないなので、このようにしている。読み込む中で自分なりの考えを形成してほしい。

最後に、新研究生の中には指導教員の日吉での講義を受講していない君もいると思うので、その場合は、三年生向けに三田

で開講する「現代資本主義論」と独学で努力されたい。ただし、入ゼミ選考の際にはもちろん差別しない。

2. 学生への要望

慶應の学生諸君に大きな期待を持って京都からやってきている。指導教員は「就職に役立つ研究会」をやる気はない。それより、真のエリートとは自分のことより社会のこと他人のことに気を配り、それに貢献しようとする人間だと言っている。世の政治、経済は混乱の極みであり、こんな時こそ真のエリートが求められている。生き方に迫る新しい経済学を学生諸君とともに作り上げたいと考えている。

3. 選考について

- ① 募集人数: A-B日程合わせて10名以内。
- ② 選考内容: 「マルクス経済学を学びたいと思う理由」とのタイトルでレポートを提出いただき、その上で面接を行う。
- ③ マルクス経済学を学ぶ意欲さえあるのであれば他学部生やPEARL生も歓迎である。ただし、ゼミは日本語で行う。
- ④ 選考基準: 近代経済学とマルクス経済学のどちらも学びたいとの意欲、ものごとを根本的に考え直してみたいという意欲を最も重視する。ただし、ゼミ生は「数理マルクス経済学」の分野での研究を頑張りたい。数学に苦手意識のある君もあろうが、意欲さえあれば君たちの年齢なら数学を初歩から勉強しなおすことも可能だ。問題はそこまでの意欲を持ってくれるかどうかだと考えている。

4. ゼミ員構成

- 4年生: 男子8人、女子1人
(他学部0人、留学中0人)
- 3年生: 男子7人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4,5限限)

当研究会ではマルクス経済学と近代経済学の融合を目指しています。そこで今年度は盛山和夫らの著書「社会を数理で読み解く」を輪読しています。(来年度は未定)。サブゼミでは毎年、当研究会の根幹ともいえるマルクスの著書「資本論」を輪読しています。マルクス経済学に興味のある人、大西先生の人柄に魅力を感じた人を募集します。皆様の入会を心待ちにしております。

② サブゼミ(月曜5限)

『資本論』の輪読を行います。また曜日、時限は年度によって異なります。

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

論文発表を行います。

⑦ 夏休み

合宿などを行い、三田論準備を進めます。

⑧ 合宿

例年9月に2泊3日で合宿を行います。今年度は伊豆熱川へ行きました。

⑨ ゼミ必修授業

今年度は大西先生の授業を取るよう指示されました。来年はそういった指示が出ない可能性もあります。

⑩ 経費

教科書代、合宿費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特に指定はありません。

7. 先生が担当している講義

日吉：マルクス経済学(火曜2限)

三田：現代資本主義論(水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

<https://keioseminar.wixsite.com/onishikenkyukai>

9. 連絡先

外ゼミ代表 湯谷 紘成

(hiroki1630225@gmail.com)

入ゼミ担当 阿賀谷 海斗

(agayakaito@gmail.com)

尾崎裕之研究会

—統計的意思決定論—

1. 研究分野

不確実性には2種類あり、各事象の生起確率が分かっているものが「リスク」、分かっているものが「真の不確実性」とか「ナイトの不確実性」と呼ばれます。ある人がナイトの不確実性に直面しているとします。このとき、「彼女の行動が一定のパターンに従っていることが観察できるのであるならば、彼女は各事象の確率を、あたかも知っているかのように行動していると考えてよい」という有名な結果があります。(つまり、ナイトの不確実性はリスクに還元できるということ。)ここに出てくる「パターン」のことを、「人々の行動に関する公理」(behavioral axiom)といいます。このような、公理を研究することによって人々の行動を分析する科学のことを、「公理的意味決定論」といいます。尾崎はこれまで、主にこれを研究してきました。

これに対して、統計学に基づいて人々の意思決定を分析する科学が「統計的意思決定論」です。特に、本ゼミでは、真理・真実があると仮定した上で、観察されたデータセットからこの真理・真実を演繹する方法としての「古典的統計学」を研究テーマとします。尾崎個人としては、実は、人々が真理・真実があると仮定すること「それ自身」(および、その形而上的意味)と、これを公理的意味決定論で特徴づけることに興味があるのですが、ゼミでは、素直に、「古典的統計学」を「回帰分析モデル」に重点に置いて研究したいと思っています。テキストは、浅野哲・中村二朗著『計量経済学(第2版)』(有斐閣)を使用する予定ですが、変更することもあり得ます。特に、「回帰分析モデル」には、幾つかの重要な仮定が存在することに注意を払います。

古典的統計学と並行して、本ゼミでは、「*Mathematica*」という数式処理ソフトと「*TeX*」という数式用ワープロソフトの習得にも力を入れます。

必ずしも、このゼミはそんなに勉強をするゼミではないと思いますが(笑)、毎年、東大・福田慎一ゼミ、阪大・二神孝一ゼミと

行っている3ゼミ合同インターゼミと卒業論文だけは真剣に行いますので注意が必要です。インゼミへの積極的な参加と、卒論の完成、この2つについては、まじめに取り組まないと単位はありません。

その他、ゼミ時間内での美術展の鑑賞会、下町散歩、など、勉強以外の行事もなるべく多く取り入れるつもりです。また、ゼミ員と教員間の交流にも力を入れています。合宿では、温泉と一緒に浸かるなど、「裸の付き合い」も心がけています。(思いっきり誤解されそうですが、今日が提出のデッドラインで、文章を吟味している余裕がありません。許せ。)

2. 学生への要望

映画好きであること。これに尽きます。というか、そうでないと、僕のゼミはまったく面白くないと思います。僕は、「学生は勉強をする暇があるのであれば、映画を一本でも多く見た方が良い」と半ば本気で思っています。僕自身、高校・大学と、勉強もしないで映画ばかり見ていました。それでも、今、何とかなっています。(そういうものです。)

トリュフォー、タルコフスキー、ヴィスコンティ、フェリーニ、ヴェンダース、黒澤といった映画作家たちの名品の数々に、若いときに触れておくことは、本当に大事だと思います。ヨーロッパ系が多いですね。ノーランでも、タランティーノでも何でもいいです。とにかく一本でも多く観てください。はなしはそれからです。

それと、2年間、教員と頻繁に顔を突き合わせるわけですから、教員の性格(良きにつけ、悪きにつけ)を知ったうえで、ゼミにアプライしてください。そのためにも、現役のゼミ生からお話をよく聞くことを薦めます。

3. 選考について

① 募集人数:A日程、B日程合わせて15名以内。募集人員をA日程で満たせばB日程選考は行いません。

- ② 選考内容:筆記試験と面接を行います。筆記試験では、あらかじめ出題範囲を指定します。ゼミツイッター、尾崎HPを確認してください。
- ③ 他学部生のゼミ受入れ可
PEARL生のゼミ受入れ可。ただし、ゼミ員間で、日本語によるコミュニケーションが可能であることが入ゼミ許可の必要条件です。
- ④ 選考基準:筆記試験、面接を総合的に評価します。

4. ゼミ員構成

4年生:男子9人、女子5人
(他学部0人、留学中1人)
3年生:男子7人、女子7人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4,5限)

415教室にて、ExcelやMathematicaといったソフトを用いた演習を行っています。多くのゼミは経済学自体の学習から始まりますが、尾崎ゼミではまずソフトの使い方を学習し、その後それをを用いて経済学を学んでいきます。一から着実に進めていけるのが特徴なので、理論経済学に難しいイメージをもっている方にもおすすめのゼミです。

また、尾崎先生は映画好きなことで有名な先生です。入ゼミ試験は計量経済学の問題を解くA問題だけでなく映画の評論をするB問題も選択可能です。ゼミ活動で映画鑑賞を行うこともあります。映画好きな方にもおすすめのゼミです。

② サブゼミ(金曜5限)

インゼミの準備期間のみ活動します。

③ パートゼミ

特にありません。

④ インゼミ

毎年1月に東京大学、大阪大学とのインゼミがあり、論文発表を行っています。

⑤ 課外活動

映画を観に行ったり美術館に行ったりします。

⑥ 三田祭

年度によりますが、主に班別で三田論執筆を行います。

⑦ 夏休み

ゼミのメンバーで合宿へ行きます。

⑧ 合宿

行き先は年度ごとに変わります。今年度は2泊3日で鬼怒川へ行きました。

⑨ ゼミ必修授業

特にありません。

⑩ 経費

ゼミ費2000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

昨年度は、

A問題選択者:計量経済学[第2版] 浅野哲・中村二郎・著、有斐閣

B問題選択者:尾崎先生のホームページに掲載されている映画を鑑賞

7. 先生が担当している講義

日吉: (曜 限)

三田: 数理経済学(大学院)(月曜3限)

8. ゼミHP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/ozaki/lectures.html>

Twitter: @ozaki2019

9. 連絡先

外ゼミ代表 小林北斗

(hokutok5884@gmail.com)

入ゼミ担当 河口泰子

(Y.Kawaguchi@keio.jp)

栗野盛光研究会

—マーケットデザイン—

1. 研究分野

本研究会では、ミクロ経済理論やゲーム理論を基礎として、広い意味での市場(マーケット)あるいは社会制度のデザインを研究します。純粋な経済理論と立場が少し異なり、マーケットデザインは、実際のマーケットをインセンティブ・効率性・公平性の観点から理論的に調べ、経済理論を実践し、より良いマーケットを考えます。

指導教員は、これまでマッチング理論を中心に、その実践を研究しています。例えば、現在研究しているのは、日本のドナー交換肺移植制度、大学入試制度、新卒一括市場、進学振り分け、スポーツのトーナメント、移住マッチングなどです。また、自動運転・燃料電池車・IT・シェアリング経済など自動車に関連するモビリティイノベーションが起こり、それを支える社会制度として次世代自動車交通基盤も研究しています。

本研究会では、経済制度を見る目を養い、デザインする能力を身につけることを目標とします。まず、マーケットデザインに関する学部生教科書を輪読して理論道具を身につけます。必要ならば、ゼミ生の平均的能力や関心に応じて、分析道具である数学、ゲーム理論、メカニズムデザイン等を学習します。同時に、少人数のグループに別れ、グループごとに研究する市場を決め、現制度を調べ、必要であれば新しい制度を提案してもらいます。2018年度のゼミでは、ブロックチェーン技術により可能となる制度について研究しています。

定期的に横浜国立大学や筑波大学と一緒にゼミを行う予定です。

2. 学生への要望

要望1: ある市場を良くしたい、あるいは現制度に不満を持っていて、ミクロ経済学やゲーム理論を使って分析したい学生を歓迎します。

要望2: 本研究会は、理論的に制度を分析します。自分自身で論理的に厳密に議論したい学生を歓迎します。現時点で高度な数学の知識(トポロジー、測度論、離散数学など)は必要ありませんが、必要に応じて、

数学の講義を受けたり、自習したりと学ぶ姿勢が大事になります。

要望3: 英語と日本語にこだわりませんが、ゼミでは日本語が中心になります。

要望4: 一ヶ月に一度くらい、パワーポイントを使って発表してもらいます。

要望5: 就職希望者と大学院進学希望者のどちらも歓迎します。

3. 選考について

① 募集人数

A・B日程で10名程度

② 選考内容

筆記試験(ミクロ経済学)、面接、日吉の成績。筆記試験ではあらかじめ問題が指定され、その中から出題されます。日本語で出題。持ち込み不可。B日程は筆記試験なしで、面接と成績のみ。

③ 他学部入ゼミ:不可

PERL生受け入れ:不可

④ 選考基準

数学とミクロ経済理論関係の成績、筆記試験、面接により総合的に判断します。

4. ゼミ員構成

3年生:男子8人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4, 5限)

教科書を輪読し、月に1~2回ほど自分の担当部分を報告します。本年度は、「Market Design(Guillaume Haeringer)」 「経済学・経営学のための数学(岡田章)」を輪読しています。

ゼミやインゼミでは、先生のお知り合いの研究者の方や、企業の方をお呼びし、お話やアドバイスを頂くことがあります。自分達が勉強していることが、モデルの中だけではなく、実際にどう社会に貢献を果たすことができるかを知る良い機会になると思います。

② サブゼミ(曜 限)

強制のものはありませんが、自分の興味があるテーマについて、先生と相談し

て少人数の勉強会を開いて頂けることがあります。本年度は、オークション理論や災害支援を想定した避難所と救援物資のマッチングなどをテーマに勉強しています。

③ **パートゼミ**

ありません。

④ **インゼミ**

横浜国立大学の熊野ゼミと、ブロックチェーンによる新しいビジネス創造を目的として1~2か月に1回インゼミを行っています。

⑤ **課外活動**

ソフトボール大会への参加(本年度は雨天中止でしたが)、OB・OG会、不定期の飲み会や、ワールドカップ決勝戦観戦会、豊洲市場の競売見学(予定)などがあります。

⑥ **三田祭**

ありません。

⑦ **夏休み**

合宿を行います。また、合宿での中間報告に向けてインゼミのメンバーで集まって研究を行います。

⑧ **合宿**

草津で合宿を行い、インゼミや各人の研究の中間報告を行います。

⑨ **ゼミ必修授業**

火曜2限のミクロ経済学中級1a1b(津曲先生担当)と、水曜2限のミクロ経済学中級2a(石橋先生担当)2b(玉田先生担当)を履修してください。

火曜日のミクロ経済学中級が履修できない場合は、水曜3限のミクロ経済学中級1aとメカニズムデザインa(坂井先生担当)を履修してください。

ただし、これらの情報は本年度のものであり、来年度は変更される可能性があります。

⑩ **経費**

合宿代、飲み会代、テキスト代などがあります。

6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**

演習ミクロ経済学(武隈慎一著 演習新経済学ライブラリ)
第二版を使用してください。

7. **先生が担当している講義**

日吉 : ミクロ経済学初級 I(春学期)(火曜2限)

三田 : Intermediate Microeconomics Ib(春学期)(金曜2限)

8. **ゼミHP・SNS**

ゼミのHP

<https://keiokurinoseminars.wixsite.com/keiokurinoseminars>

TwitterID: @econ_kurino

先生のHP

<https://sites.google.com/site/mkurino/japanese-site>

9. **連絡先**

外ゼミ代表 四倉拓馬

(behopemakehope@gmail.com)

入ゼミ担当 花里僚太

(r.873987310@keio.jp)

坂井豊貴研究会

—社会的選択理論・マーケットデザイン—

1. 研究分野

社会的選択理論：多数決は意思集約の仕組みとして性能が悪い。似た選択肢のあいだで票が割れ、不人気の選択肢が漁夫の利で勝つといったことがある。より性能のよい仕組みには、「1位に3点、2位に2点、3位に1点」といったスコア式がある。

マーケットデザイン：「市場の失敗」という言葉があるが、そもそも市場を成功させるのは大変だ。例えば机と椅子を上手く売るのは難しい。机と椅子を単独で欲しい客や、セットで欲しい客など、色んな客がいるなかで、利潤を最大化する売り方は何だろうか。パッケージ付き同時競り上げ式オークションはそのひとつの解答だ。これは周波数オークションで実用された。

どうすれば、より優れた投票や市場のルールが作れるか？ そもそも「優れた」とは何か？ こうした設計問題をゼミでは主に扱う。ゲーム理論を活用する。

2018年度は、私が新聞の書評を書いている特殊事情から、ゼミで「新書を読んで書評を書く訓練」も行っている。この訓練で文章力がかなり向上する。2019年度もこれを行う。

2. 学生への要望

私の名前で検索すると、新聞記事や雑誌原稿が見つかるので、それらを参考にしてください。ゼミは「学びの場」なので、志望者には「ゼミで学ぶ意欲」を強く求めます。ともに半学半教してくれるあなたの参加を歓迎します。

3. 選考について

① 募集人数

A-B 日程合わせて 15 名程度です。A 日程で十分な人数が集まった場合は、B 日程を開催しません。

② 選考内容

成績、本の論評(坂井『多数決を疑う』岩波新書)、願書、面接で総合的に評価します。筆記試験はなし。

③ 他学部入ゼミ: 不可

PEARL 生受け入れ: 不可

④ 選考基準

成績と本の論評を重視します。次いで、願書と面接で判断します。

願書では、遠慮なく、あなたの知性や関心についてアピールしてください。アルバイトとサークルに関する記述は避けてください。

もし「自分の成績の、ここを評価してほしい」という点がある場合は、それについて書いていただいても結構です。

もし「成績で自分を判断するのは不見識だ」と思う場合は、それについて書いていただいても結構です。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子11人、女子5人

(他学部0人、留学中0人)

3年生: 男子9人、女子9人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4・5限)

前期は『社会的選択理論への招待』の輪読や、メカニズムデザインに関する書物の輪読を行いました。後期は四年生による卒業論文に向けた研究報告を行います。

疑問点は各ゼミ生が自由に質問でき、議論を通じて全員で解決していきます。要所では先生が補足をしてくださいませ。

② サブゼミ(火曜4限)

三年生中心の活動になります。春学期はマーケットデザインの入門書を輪読し、その後グループに分かれて課題に取り組む形式をとっていました。秋学期は、三田祭論文についてグループごとに準備をしたり定期的に研究報告をしたりする予定です。

③ パートゼミ

今年度は行っていません。

④ インゼミ

11月に早稲田大学の船木ゼミと、お互いの研究結果を発表し合う予定です。

⑤ 課外活動

ゼミナール委員会主催のソフトボール大会への出場の他に、定期的な懇親会を行い、ゼミ生同士の親睦を深めています。

⑥三田祭

今年度は三つの班に分かれてそれぞれ論文を執筆し、発表を行う予定です。

⑦夏休み

夏休みは毎年合宿を行っています。今年度は、初日に三田祭論文の準備を行いました。

⑧合宿

新歓合宿(一泊)・夏合宿(二泊)

⑨ゼミ必修授業

解析学

ミクロ経済学中級 I

メカニズムデザイン

ゲームの理論

が指定されています

⑩経費

合宿費・必修授業のテキスト費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験は行いませんが、昨年度は事前課題として坂井豊貴(2015)『多数決を疑う』(岩波新書)の論評がありました。

7. 先生が担当している講義

日吉 : ミクロ経済学入門Ⅱ(火曜1限)

三田 : ミクロ経済学中級 I(水曜3限)

メカニズムデザイン(水曜3限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter : @sakai_seminar

1. 研究分野

理論経済学および金融論を含むその応用を対象とします。望ましい金融システムのあり方や、適正な消費税率、マイナス金利の意味など、現在まさに進行している問題についても取り上げます。

学生は理論パート、金融パート、応用パートの少なくともひとつに属し、与えられた課題についての共同研究を行います。本ゼミの内容は以下の通りです。

(1) 指定する基本文献の講読および問題演習

理論経済学の基礎となる英文文献について、3年生全員毎週課題レポートの提出、発表者は毎回ランダムに決定します。

(2) パート別課題報告

各パートによる課題の報告で、内容・発表者についてはパート内で決定します。

(3) 4年生卒業論文報告

個別の研究計画に基づいて、卒業論文を作成します。

3年生パートゼミ課題例は以下です。

理論: 動学マクロ理論、ゲーム理論とその応用

金融: REITの可能性、マイナス金利の効果

応用: 食糧安全保障と税制、企業の社会的貢献活動

1. 学生への要望

ゼミに相応な時間を割くことができ、2年間集中力を持続できる学生を前提とします。

精緻な理論的訓練と応用面での広範な論議を通じて、現実の経済社会を認識し評価する知性とバランス感覚を養うことがこの研究会の目的のひとつです。入会者は、研究報告・討論への積極的な参加が望まれ、現実との対応を念頭においた明晰な論理的分析が求められます。また、ISFJ (Inter-University Seminar for the Future

of Japan: 日本政策学生会議)参加など、他大学との交流も重視しています。

2. 選考について

① 募集人員: 15名

② 選考内容: 筆記試験(ミクロ経済学、マクロ経済学、英文和訳)、面接(担当者によるもの、および学生によるもの)、日吉の成績表

③ 他学部生、PERAL生受け入れ可

④ 選考基準: 上記の総合評価によります。経済学部以外の学生も同一基準です。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子14人、女子4人

(他学部0人、留学中0人)

3年生: 男子11人、女子7人

(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4,5限)

三年生は経済学に関する英語の文献(主にミクロ)の輪読、四年生は各パートの論文発表を行い、六月からは三年生も各パートによる研究課題の発表を行います。後期はパート発表のほかに三田祭論文や卒業論文などの研究発表を行います。

② サブゼミ(曜 限)

なし

③ パートゼミ

パートごとに自由にテーマを設定し、興味ある分野について研究、発表を行います。

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

各パートで

⑦ 夏休み

主に合宿や三田祭での発表の準備を行います。

⑧ 合宿

新歓合宿

ゼミ員同士での交流を深めることを主な目的に、一泊二日の合宿を行います。

夏合宿

こちらは二泊三日で行います。各パートの研究発表と、四年生の卒業論文の中間発表が中心となりますが、ソフトボール、バレーボール、サッカーなどのスポーツも行います。

⑨ゼミ必修授業

基本的にゼミ必修はありません。自由に時間割を組むことができます。

⑩経費

四月にゼミ費用として 3,000 円を集めます。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

演習ミクロ経済学(武隈慎一著 新世社)

7. 先生が担当している講義

日吉：マクロ経済学初級 I (春・火曜2限)

三田：金融論a(春・金曜2限)NPO経済論b(秋・火曜 3限)

8. ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/shiozawa/index.html>

須田伸一研究会

—理論経済学—

1. 研究分野

理論経済学は、複雑な現実経済を分析するために抽象的な理論モデルを構築し、そのモデルの性質を調べることによって、現実経済の動きに対する洞察を得ようとする学問である。つまり、複雑な現実経済を抽象化して捉えたものが理論であり、理論は現実経済を理解するための地図である。理論の理解ができてはじめて、経済現象を「説明」することができるようになる。モデルを構築する際の考え方の違いによって、理論経済学は伝統的にミクロ経済学とマクロ経済学に分類されているが、最近ではどちらの分野でも経済主体(家計、企業、政府などの意思決定主体)の最適化行動に基礎を置いてモデルが作成されるようになり、そのためミクロとマクロの方法論上の差異は縮まってきている。また、ゲーム理論、契約理論といった分析道具も、近年の理論経済学の研究には欠かせなくなってきた。私の専門分野は、ミクロ経済学の中の一般均衡理論という学問分野であるが、研究会では理論経済学一般の知識を身に付け、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。また理論経済学は前提となる仮定から推論を一つ一つ積み上げていくものなので、その学習は論理的な考え方を身に付けるためにも役立つだろう。

2. 学生への要望

必修科目のマクロ経済学初級、ミクロ経済学初級(入門)の単位は取っておいてもらいたい。また、数学アレルギーのある学生には向かない分野だと思うが、かといって高度な数学を知っている必要はない。数学については日吉設置の微分・積分や線形代数の内容を理解していれば、あとは研究会に入ってから勉強すれば何とかなる。それよりも重要なのは、理論経済学に対する(漠然としたものでよいから)興味と、論理的思考の癖であろう。

3. 選考について

選考について

- ⑤ 募集人数:10-15名程度
- ⑥ 選考内容:ミクロ経済学、マクロ経済学に関する筆記試験。成績表のコピー提出。面接。

なお筆記試験の準備としては、たとえば伊藤元重『ミクロ経済学 第3版』(日本評論社、2018年)の第1章から第10章、福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 第5版』(有斐閣アルマ、2016年)の第1章から第8章の内容を理解していれば十分である。

- ⑦ 他学部入ゼミ:なし
PERL生受け入れ:なし
- ⑧ 選考基準:筆記試験の点数、面接の印象、1、2年の成績、さらには入ゼミ願書の内容を考慮に入れて総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

4年生:男子11人、女子2人
(他学部0人、留学中1人)
3年生:男子13人、女子1人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4.5限)

本ゼミでは教科書の輪読を行っています。担当者が与えられた教科書の範囲のレジュメを作成し、ゼミ生に対してプレゼンを行います。そのプレゼンに対し教授がアドバイスやフィードバックをします。とりあげる内容は1年ごとにマクロ経済学とミクロ経済学を交互に扱っています。

② サブゼミ(金曜3.4限)

サブゼミでは、主に4年生の指導の下、本ゼミと同じような形で教科書の輪読、三田祭の準備などを行っています。

③ パートゼミ

グループに分かれ、グループごとに三田祭論文出展に向けて研究活動を行います。テーマは理論モデルを使ったものであれば自由に設定可能です。

④ インゼミ

行っていません。

⑤ 課外活動

行っていません。

⑥ 三田祭

各パートで論文を作成し、発表を行います。

⑦ 夏休み

三田論発表にむけて各パートで集まり、発表の準備をします。

⑧合宿

夏合宿:9月頃に2泊3日で行います。3年生は三田論の中間発表、4年生は卒業論文の中間発表を行います。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論

⑩経費

合宿代や教科書代がかかります。加えて経ゼミ費2000円がかかります。

6. ゼミ試験対策で使った参考書

ゼミ試験対策で使用するテキストについては、ゼミ試験前に指定する予定です。

7. 先生が担当している講義

日吉 : (曜 限)

三田 : (曜 限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter: @Sudazemi2019

9. 連絡先

外ゼミ代表 田中 愁真(best-smile.shuma0920@softbank.ne.jp)

入ゼミ担当 山本 篤

(yama1030cake@gmail.com)

玉田康成研究会

—ミクロ経済学, インセンティブ・契約理論, 産業組織論—

1. 研究分野

ゲーム理論や2016年のノーベル経済学賞受賞理由となった契約理論を分析ツールとして獲得したことでミクロ経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功した。そのキーワードとしては「インセンティブ」、「戦略」、「情報」、「競争と協調」などをあげることができる。これらが相互に密接に関連しているのはもちろんであるが、とくに、経済主体に適切なインセンティブを与える方法は何かという問題意識を設定し研究を行いたい。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードなどの問題が発生し、最近頻発している企業不祥事などを見ても分かるように経済活動を損なうことになる。上記キーワードを軸とした研究対象をより広範囲に考えると企業戦略・企業組織(産業組織論)、法と経済学、公共経済学、労働経済学などがある。ゼミ生は自らの関心に従って研究対象を選ぶことになる。広い意味では当研究会の研究分野はミクロ経済理論とその応用といえる。

研究会の目標は「専門的知識としての経済学の習得と現実経済の分析」にある。教養を人や社会とのかかわり方とすると、重要な柱は「視点の確立」と「視野の拡大」の2つに求められる。現実経済に対する視野を広げ問題意識を培うことは重要だが、視点の裏づけがない問題意識はしばしば直感のみに頼った結論や処方箋に帰結する。謎に満ちた現実経済から問題を見つけ分析するためには、謎を解き明かす視点の確立が不可欠である。他方、視点を確立したとしても、視野を広げ問題意識を持たなければ何も視ていないことと同じである。

2. 学生への要望

1. 学問に対する敬意と現実に対する関心、ゼミ活動への熱意のすべてを兼ね備えた学生の応募を望む。
2. 論理的思考に抵抗がないことが重要である。ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を「面白い」と思えることが必要条件である。
3. 経済学の知識をセールスポイントにしたいという意欲を持って欲しい。

3. 選考について

- ① 募集人数:17名。A日程のみ募集する。

- ② 選考内容:
筆記試験と研究プラン、および面接による。

筆記試験は60分の教室内試験。出題範

囲はミクロ経済学初級 I, II. Keio.jp 上の講義情報を参考にする。

研究プランでは問題意識と結論の展望をA4紙20行程度で事前に作成し、筆記試験時に提出。

- ③ 他学部入ゼミ:可
PEARL生受け入れ:可

- ④ 選考基準
筆記試験:60%。
研究プラン+入ゼミ願書+面接:40%

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子12人、女子11人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子13人、女子10人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4,5限)

テキスト(3,4年各1冊)の輪読が担当者によるプレゼンテーション形式で進められます。先生から適宜アドバイスをいただき、ゼミ生は理解を深めます。今年度春学期の輪読文献は、3年生『Introduction to Industrial Organization』、4年生『Who gets what and why?』です。

② サブゼミ(火曜4限)

3年生のみで、本ゼミとは違うテキストを輪読します。今年度の文献は『ゲーム理論入門』です。

③ パートゼミ

3年生がパートに分かれて自主的に進めます。今年は、企業戦略1、企業戦略2、行動経済学、インセンティブの4パートがあり、各パートで三田論に向けて論文を作成中です。

④ インゼミ

昨年と同様、今年度も大阪大学の安田ゼミと名古屋大学の花園ゼミとインゼミを行う予定です。

⑤ 課外活動

特になし

⑥ 三田祭

三田祭では、3年生がパートゼミで行った研究結果を発表します。

⑦夏休み

夏休みでは各自、夏合宿の中間報告に向けて準備をしていきます。

⑧合宿

夏合宿では、毎年三田祭論文と卒業論文の中間報告を行います。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級Ⅱa,Ⅱb(水曜2限)

⑩経費

合宿費30000円

6. ゼミ試験対策で使った参考書

玉田先生の授業のレジュメや期末テストの過去問、ゼミ試の過去問を利用している人が多いようです。

7. 先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級Ⅱ(火曜2限)

三田：ミクロ経済学中級Ⅱb(水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

ホームページ

<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/tamada/>

Twitter @tamada_2019

9. 連絡先

外ゼミ代表

須藤魁士(kaikai.soccer.ks10@gmail.com)

入ゼミ担当

黒田浩輝(koki.kuro.36@gmail.com)

津曲正俊研究会

— ミクロ経済理論 —

1. 研究分野

私個人は、ミクロ経済学、特に「契約理論」の分野を研究しております。契約理論は、2016年のノーベル経済学賞受賞対象となった非常にホットな研究分野です。人々の行動を織り込みながら制度・組織をどう設計したらよいかを検討する理論です。社会問題の多くは、人間行動を適切に制御できない制度・組織設計の失敗として説明できます。問題がなぜ発生するのか、解決策はあるのか、などを分析するために有用な理論です。

研究会では、特に契約理論に限定せずに、ゲーム理論を含む最先端のミクロ経済理論を幅広く学び、それをを用いて現実の経済問題を分析する能力を磨くことを目的に活動します。第一の柱は、皆さんが日吉時代に学んだミクロ経済学基礎の理解をさらに深めると同時に、「ゲーム理論」や「マーケットデザイン理論」など比較的新しいミクロ理論分野を専門書の輪読・議論を通じて学習することにあります。第二の柱は、経済理論の応用分野の文献を読むことで、理論が現実問題の分析にどう用いられているか学習することにあります。国際貿易論、産業組織論を含むミクロ経済理論を基礎として発展した研究分野の文献の輪読を考えております。2019年度に扱うテキストは未定ですが、研究会に在籍する2年間にミクロ経済理論とその応用を幅広く勉強できるように配慮したいです。3年生のときには、経済問題の分析に経済理論を応用する場としてパートごとの共同研究を推進してもらいます。また最終的な研究成果は、皆さんの関心に応じた研究テーマでの卒業論文として提出してもらいます。

2. 学生への要望

経済理論は、必死になって考えて習得できることが多く、忍耐強さが要求される研究分野です。経済理論に高い関心を持ち、さらに深く学習・研究する意欲をもった学生の参加を望みます。パート研究や卒業論文に関しては、テーマに強い制約をおかず、学生の関心をできるだけ尊重する形をとっていますので、経済理論の基礎研究と同時に、理論を用いた様々な応用研究に関心のある学生にも対応しうる研究会であると思います。ただし、円滑に運営する都合上、ミクロ経済学の基礎をしっかり理解している必要があるため、入会選考はその点を重視します。

3. 選考について

3. 募集人数： 10名程度
4. 選考内容： 筆記試験(ミクロ経済学初級程度の内容)、面接(面接時に1・2年の成績表のコピーを持参すること)
5. 他学部生、PERL生ともに入会可です。ただし、ゼミ活動は主に日本語で行います。

選考基準： 筆記試験によりミクロ経済学初級の内容を理解しているか評価します。面接では研究会に向けての意欲を評価します。成績表で日吉での全般的な学習成果を確認します。これらの総合評価に基づいて可否を判定します。

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子12人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子12人、女子1人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜5限)

契約理論を学習しています。2年生の秋学期に扱う、モラル・ハザード、アドバース・セレクション、シグナリングなど情報の非対称性があるときの経済分析をより深く学んでいます。

② サブゼミ(水曜4限)

マーケットデザイン理論を学習しています。経済学の知見を用いて市場や制度を設計・修正する学問であり、オークションとマッチングの学習を通して理解を深めています。

③ パートゼミ

3年生は各人の興味・関心に基づいて少人数のグループに分かれ、パートとして三田祭論文に取り組みます。今年度は「教育経済学」「行動経済学」「雇用体系」「オークション」の4つのパートに分かれています。

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

三田祭論文に参加します。パートゼミでの活動を通して論文を執筆します。

⑦夏休み

4年生は各自卒業論文を進めます。3年生はパートごとに分かれ、三田祭に向けての研究を進めます。

⑧合宿

毎年夏休みに実施しており、今年度は9月の下旬に秩父で二泊三日で行いました。4年生は卒業論文について、3年生はパートごとの研究について中間発表をして議論を深めました。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級 I a,b

⑩経費

今年度は、合宿費(13,000円)、ゼミTシャツ費(2,000円)等です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

参考書の指定はありませんが、ミクロ経済学の知識を確認できるものが良いと考えられます。

『ミクロ経済学の力』神取道宏(日本評論社)

7. 先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級 I (春)(木曜1限)

三田：ミクロ経済学中級 I a,b(火曜3限)

8. ゼミHP・SNS

ゼミHP

<https://tsumagarizemi.jimdo.com/>

ゼミTwitter

@tsumagari2018

9. 連絡先

外ゼミ代表 谷本平(taira1219@keio.jp)

入ゼミ担当 高谷康統

(yasu1996t@gmail.com)

中村慎助研究会

—理論経済学・公共経済学—

1. 研究分野

私の研究分野は厚生経済学、特にメカニズム・デザインや社会的選択の理論です。理想的な状態における完全競争市場は、参加者である各消費者や生産者が利己的で合理的な行動を行った場合に、パレート効率性を実現する事は「厚生経済学の基本定理」として広く知られています。また、不完全情報や公共財の存在等がある場合には市場がパレート効率性を実現出来ない現象は「市場の失敗」と呼ばれています。2007年にノーベル経済学賞を受賞したLeonid Hurwicz教授を嚆矢とするメカニズム・デザイン論は、このように市場が失敗する状況において、市場を補完あるいは代替する事によって、厚生上望ましいと判断されたターゲットを利己的で合理的な経済人が構成する社会において実現する事の出来る制度の設計を目的としています。この性質上、分析にはゲームの理論が多く用いられています。一方、最近の実験経済学の進展により、人は実際には必ずしも合理的に行動せず、他者に影響されたり、リスクを過小や過大に評価したりする事によって、従来ゲームの理論で前提とされてきたものとは異なった行動様式を持つことが明らかとなってきました。これを前提とした理論的、実証的な分析が行動経済学です。最近の関心は、人の限定合理性を前提とした経済モデルを用いて、制度設計論の再構築を行う事にあります。本研究会は、もう少し広く理論経済学及び公共経済学に関心のある学生を対象としています。諸君はマクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱ及びミクロ経済学初級Ⅰ、Ⅱを通じて理論経済学の初歩を学んだことと思います。当研究会の目的はその理論を更に深め、またその応用として経済政策論や財政論の基礎である公共経済学を研究することにあります。

2. 学生への要望

研究会の活動は、いわゆる本ゼミと3年次の共同論文の作成、4年次の卒業論文の作成、並びにゼミ生の自主性に任せるサブ

ゼミ、パートゼミに分かれます。本ゼミでは上記範囲より適宜、基本的な文献を選んで輪読します。通常は「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「公共経済学」の3分野より2分野の教科書を選び、それぞれ本ゼミないしサブゼミで読むこととなります。3年生及び4年生各2、3名ずつ計4、5名で一つのグループを作り、各グループが各回の報告を責任を持って行います。その際には、PowerPoint またはそれに相当するプレゼンテーションツールを用い、また、レジュメを配布することによる、分かりやすいプレゼンテーションが期待されます。そこでは、いかに積極的に討論に参加したか、又、いかに自分の理解したことや自分の考えたこと、意見を正確に得力を持って伝えられるかが問われます。また、3年生は、2ないし3つのテーマを選び、テーマごとのグループに分かれて共同研究を行います。夏合宿において中間報告を行いそこでの討論によってテーマを一つに絞り、三田祭において最終的な研究発表を行います。4年生の卒業論文のテーマは原則として自由とします。しかしながら論文は次の三点を目標とします。(1) いかに強いモチベーションを持っているか (2) 当該分野でどんな新しい事実あるいは結果を発見したか (3) 自分の興味ならびに発見をいかに正確に読者に伝えるか 3年次の冬休み明けに各自、卒業論文のテーマを決定・報告し、春休み明けに研究予定の提出、夏合宿において中間報告、4年次冬休み明けに最終提出し、卒業論文報告会を開催する予定です。本研究会に参加を希望する学生には積極的な態度での議論参加と不断の努力を期待します。

3. 選考について

- ①募集人員：15名程度
- ②選考内容：筆記試験(ミクロ経済学) 面接試験、成績表のコピー
- ③選考基準：上記を総合的に判断する。なお、A日程合格者数によってB日程の試験を行わないことがあります。

4. ゼミ員構成

4年生:男子16人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子11人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4~5限)

本研究会では、ミクロ経済学・マクロ経済学等の理解を深め、その応用として経済政策論や財政論の基礎である公共経済学を学習しています。本ゼミではPowerPointとレジュメを用いた輪読を行っています。中村教授の鋭いご指摘や解説を通じて基本的な事項から丁寧に学ぶことができます。自由度の高いゼミなので、サークル、バイト・資格試験など各々の活動との両立も可能です。教授との距離も近く、ゼミ生同士も仲のいいゼミです！ぜひ一度ブースにお越しください！

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

パートごとに論文を発表します。

⑦ 夏休み

9月中旬に合宿を行います。

⑧ 合宿

・新歓合宿(1泊2日) ゴールデンウィーク前後に都内で集まり、教授・ゼミ員同士の親睦を深めます。

・夏合宿(2泊3日)

3年生は三田論、4年生は卒論の中間発表を行います。今年の夏合宿は筑波に行きました。

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

新歓合宿費、夏合宿費など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

過去問演習が最も有効であり、基本的なミクロ経済学のテキストであれば対応でき

ます。以下の参考書を利用したゼミ員が多いです。『入門ミクロ経済学』ハル・R・ヴァリアン著 勁草書房『演習ミクロ経済学』武隈 慎一著 新生社

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学初級 I (日吉、木曜日2限)

長寿と金融a(寄附講座)(三田、春学期水曜日2限)、長寿と金融b(寄附講座)(三田、秋学期水曜日2限)、フィンテックとソーシャル・インフラストラクチャa(寄附講座)(三田、春学期金曜日2限)、フィンテックとソーシャル・インフラストラクチャb(寄附講座)(三田、秋学期金曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

HP :

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/nakamura/>

Twitter:@SeminarNakamura

twitter:

@SeminarNakamura

9. 連絡先

外ゼミ代表 飯島将之

(nrk.thmrtk@gmail.com)

入ゼミ担当 須賀玲和

(nakamurashinsuke.seminar@gmail.com)

廣瀬康生研究会

—マクロ経済モデル—

1. 研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するかの予測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、等を行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。

マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル(DSGEモデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model)」を研究対象とします。DSGEモデルは、政策の波及効果を考える上で重要となる経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGEモデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるというゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGEモデルとは何か」、「DSGEモデルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGEモデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくこととなります。次に、行列演算ソフトウェアであるMATLABを用いて、モデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自らDSGEモデルを構築し、現実のマクロ経済分析(経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など)に活用することを目指します。

2. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、以下のテキストを読んで理解できることを前提とします。

・George McCandless, *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*, Harvard University Press, 2008.

・加藤涼『現代マクロ経済学講義—動学的一般モデル入門』東洋経済新報社、2006年。

参加者はゼミの時間以外にも、各自積極的に研究時間を確保することが求められます。

私の専門分野および研究内容については、以下の個人HPを参照して下さい。

<http://sites.google.com/site/yasuohirose/>

3. 選考について

- ① 募集人数: 5～10名
- ② 選考内容: レポートおよび面接(日吉での履修科目・成績を重視します。)
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PERL生受け入れ: 不可
- ④ 選考基準: 上記学生への要望を参照して下さい。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子1人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子3人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(月曜4～5限)
(春学期)まず、講義を通じて、DSGEモデルの基本形であるニューケインジアンモデルとその解法について学びます。次に、行列演算ソフトMATLABを使って、モデルシミュレーションの技法を習得します。その後、各自、三田論のアイデアに

ついてプレゼンを繰り返しながらテーマを決定していきます。
(秋学期)三田論を執筆します。三田祭後は、ベイズ推定法を学び、DSGEモデルを用いた実証分析を行う予定です。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

例年は、ソフトボール大会に参加したり、ISFJ政策立案コンテストへ向けて論文を執筆したりします。

⑥ 三田祭

三田祭論文コンクールに参加します。ゼミで一つの論文を執筆し、ブースを設置して解説します。

⑦ 夏休み

三田論の準備のため、関連論文を読み、理解を深めます。ゼミとしての集まりはありません。

⑧ 合宿

今年度はありませんが、通常山梨県へ2泊の夏合宿を行っています。

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

なし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

「現代マクロ経済学講義」加藤涼
「マクロ経済学」斉藤誠 他
「ミクロ経済学のカ」神取道宏 等。
詳しくはHP、Recruitコーナーに掲載しております。

7. 先生が担当している講義

マクロ経済学初級Ⅱ(日吉、火曜日2限)

Advanced Macroeconomics

(三田、月曜日2限)

マクロ経済学ワークショップ

(三田、火曜日4限)

8. ゼミHP・SNS

HP:

<https://hiroseseminar.github.io>

Twitter:

<https://twitter.com/hirosezemi2018>

9. 連絡先

外ゼミ代表 弦間大(mgemma0605@keio.jp)

入ゼミ担当 安孫子創(abikoso@keio.jp)

藤原一平研究会

— マクロ経済学、国際金融 —

1. 研究分野

私の研究分野は、マクロ経済学、国際金融論となります。経済について、システム全体(一般均衡)で捉えて、その変動の要因を探求し、あるべき政策の姿を模索することに関心を持っています。新しい発見をし、その成果を国際的に評価の高い学術誌に掲載すること主な仕事(詳細は私のHPをご参照ください)ですが、日経新聞、日経ビジネス、等への寄稿や、経済政策に関するイベントでの発表を通じて、現実の政策問題を、わかりやすく理解することにも努めています。ゼミで取り組みたい研究分野もマクロ経済学・国際金融論を中心に考えていますが、これに限りません。ゼミ生が自分の関心のあるトピックについて、経済学的に説明できるようになることが大切と考えています。

①経済学的思考および分析手法の習得、②経済現象を理論的に理解し、これを説得的に説明する能力の習得、③グローバル化した社会で働くことを強く意識すること、の3つを大きな目的としています。いずれも、社会人となった際に、有益なスキルになるはずですが。

①は、エッセイ執筆、経済問題の討論、PC教室での計量実習などで習得を試みます。②については、卒論作成を通じて個人として、また、インゼミ(東京大学青木ゼミ)、その他の研究発表を通じてチームとして、個々が関心あるテーマについて研究に取り組む機会があります。

③については、海外トップスクールに在籍する同世代の学生が、「どのような意識や将来展望を持って大学で学び、準備しているのか」といったことを適宜紹介したいと思っています。また、今年度同様、社会で活躍されている方々による特別講義も月に一度程度開催する方針です(詳しくはゼミのHPをご覧ください)。

2. 学生への要望

大学時代のゼミの最も素晴らしいことは、様々なバックグラウンドを持った友人と出

会えることだと思います。部、サークル、アルバイト等を通じたつながりも素晴らしいものですが、ゼミという新しい軸を通じた友人は、その後の人生にとって、かけがえのないものとなるはずですが。このため、ゼミの活動に積極的、かつ自発的に取り組む学生を希望します。

学生時代に、学業だけでない様々な経験をすることは素晴らしいことです。しかし、大学は、本質的には、将来に役立つ思考法を身につけるところです。このため、ゼミでは、卒論、共同研究に真摯に取り組むことができる人を希望します。

自分の関心があるテーマを自力で見つけ、これを分析対象として設定でき、さらに、粘り強くあきらめずに自身で設定した問いに対する答えを導き出せるような学生と一緒に勉強できることを願っています。

3. 選考について

- ① 募集人数: 20名程度
- ② 選考内容: レポートと面談と成績
- ③ 他学部入ゼミ: 可

PERL生受け入れ: 可

- ④ 選考基準: レポート、面接では、以下の点を重視しています: (a)自分の考えを説得的に表現できるか? (b)様々な(経済)問題に対し、ロジカルな解決策を提示できるか?

レポート課題としては、例年通りの「ゼミへの志望動機」に加え、マクロ経済トピックについての見解を問う問題の2つを考えています。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子10人、女子10人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子11人、女子11人
(他学部1人、留学中2人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(月曜4~5限)

本ゼミでは主に、様々な経済事象に関する記事などを分析手法に焦点を当てて個人

またはグループで紹介し、その後その発表についてのグループディスカッションや質疑応答により理解を深める活動を行っています。その中で、必要に応じて先生から講義形式で分析手法等を教わる事もあります。また月に一度程度ゲストスピーカーを招き、講義や懇談会の形でその業界に関する様々なお話をいただいています。多種多様なゼミ生が集まることにより、自分一人では思いつかないようなアイデアに沢山出会えます。

② サブゼミ(水曜4～5限)

日本経済新聞の記事の紹介や金融に関する本の輪読・質疑応答を行うことで、最近の経済ニュースや本ゼミであまり扱えない金融に関する知識を身に付けています。後期のサブゼミでは主に各グループで三田祭論文の準備を行います。また、サブゼミの時間を使って先輩方が就職活動の体験談をしてくださることもありました。

③ パートゼミ

特に行っていません。

③ インゼミ

東京大学の青木浩介ゼミとインゼミを行っており、お互いの普段のゼミ活動への交換留学や合同発表会を行っています。青木ゼミでは主にモデルを用いた経済分析を勉強できます。

⑤ 課外活動

早慶戦をみんなで一緒に応援したり、ソフトボール大会に向けた練習、ポーリングやBBQ等を企画係主催で行いました。

④ 三田祭

三年生は各グループで設定したテーマについての論文を発表します。年によっては四年生が中心となり出店を開くこともあります。

⑦ 夏休み

夏休み中に後述の合宿を行い、そこで三田祭論文の中間発表を行うので、それに向けた準備などを各グループで適宜進めます。

⑧ 合宿

三田祭論文の中間発表や体育館でのレク、最終夜の飲み会などを通じ、見識・親睦共に深めます。三年生は自分たちの論文の準備に、四年生は三年生に向けたアドバイスに力を注ぎます。

⑨ ゼミ必修授業

今年度はありませんでした。

⑩ 経費

年会費2500円、合宿料金26000円、その他雑費

6. ゼミ試験対策で使用した参考書 特に必要ありません。

7. 先生が担当している講義

マクロ経済学初級 I (PEARL)(日吉、火曜日2限)

マクロ経済学中級 I a(INTERMEDIATE MACROECONOMICS 1A)(三田、月曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter@fujiwarazemi

instagram@fjwr.research.seminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 佐々木文平

(bunpeisasaki@yahoo.co.jp)

入ゼミ担当 新井恒介(usakure@keio.jp)

藤原グレーヴァ香子研究会

—ミクロ経済学・ゲーム理論—

1. 研究分野

担当者の専門分野はミクロ経済学および非協力ゲーム理論です。研究会においては、これらの理論を勉強するとともに、必要に応じて数学もサブゼミなどで勉強します。日吉で入門レベルのミクロ経済学には触れたと思いますが、研究会では中級レベルの文献を輪読することで、入門レベルでは扱えなかった問題も扱えるようにします。例えば、長期のモデルや情報を明示的に扱ったモデルなどです。この研究会では、単位を取るための「学習」ではなく、ミクロ経済学、ゲーム理論の「研究」のための基礎を養います。それは、人から聞いて理解するのではなく、自分でテキストを読みこなし、行間の計算をし、必要に応じて他の文献を調べて一步一步理解していくというプロセスです。この作業を担当者の指導の下、仲間とともに進めていくということになります。

研究会ではこのように理論を学びますが、卒業論文は理論の簡単な応用でもいいです。自分の興味のある経済問題を4年時の1年間をかけて、分析していくこととなります。3年前期は、文献の読み方、プレゼンテーションの技術も学びます。プレゼンテーションの技術は特に将来も役立つものですので、力を入れて指導しています。3年当初は全体の英語力をみて日本語の文献を読むこともありますが、慣れてきたら英語の文献のみとなります。

⑤ 学生への要望

理論の研究会ですので、日吉時代にしっかりミクロ、マクロの入門科目と数学の基礎を固めてくるといいです。拘束時間は多くないですが、研究会にはかならず予習をしてくる必要があります。

また、当研究会の特色として、絶対に「わかりません」と言っはいけない、というルールがあります。文献を読んできて、教室で議論する、という活動ですから、「わかりません」などということは、「予習をしてこなかった上に、その場で一生懸命考えること

すらしていない」ということとなりますので、これは許されません。はじめのうちは間違ってもいいですから、自分の意見が言えるようにしていきましょう。

ゲーム理論については、担当者の著書『非協力ゲーム理論』（知泉書館）などを事前に読んでみると、どのようなものかがわかるでしょう。

オープンゼミも開催しますので、厳密に議論するとはどういうことか、など当ゼミの雰囲気を知るために見に来て下さい。

せっかく一流の大学に入ったのですから、本当の学問の一端に触れて卒業して頂いて下さい。それは簡単ではありませんが、「わかった」ときの喜びは格別です。

⑥ 選考について

①募集人員：A,B 両日合わせて約10名(A日程でこのくらい的人数になった場合B日程は行いません。)

②選考内容：英語で書かれたミクロ経済学初級レベルの文章を読み、要訳または全訳、およびミクロ経済学初級レベルの計算問題。成績表のコピー提出。PEARL生以外は面接はありません。(英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書可。経済学用語辞典は使用不可。)

③他学部生は受け入れません。PEARL生については日本語の議論についてこられる人は受け入れます。その能力について面接を行います。(ハンドアウトや卒業論文は英語でも可。)

④選考基準：研究会について来られるレベルかを答案で判断します。英語の試験はゼミの予習と同じ作業となっていますので、時間内になるべく多く、経済学的に正確に理解したかを見ます。また、理論の基礎も大切ですので計算問題が出来ない場合、自動的に不合格となります。

4. ゼミ員構成

4年生:男子0人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子8人、女子2人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4～5限)

ミクロ経済学またはゲーム理論の教科書(英語文献が多い)の輪読。予習をしていって、事前に定められた順に報告したり、その場でくじを引いて報告したりします。

② サブゼミ(金曜5限)

経済数学やゼミの補習的な勉強をします。

③ パートゼミ

少人数なのでありません。

④ インゼミ

10月～11月ごろに、名古屋大学、神戸大学と合同討論会を行います。

⑤ 課外活動

特にありません。

⑥ 三田祭

3年生が参加するかを決めます。参加する場合はインゼミで勉強したことを報告することが多いです。

⑦ 夏休み

合宿とインゼミの準備のためにたまに集まります。

⑧ 合宿

夏合宿(2泊3日)を毎年行います。3年生は2チームに別れてディベート、4年生は卒論の中間報告を行います。

⑨ ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級 I a・I b
ミクロ経済学中級 II a・II b
ゲームの理論a

⑩ 経費

テキストコピー代、夏合宿費、インゼミが神戸や名古屋開催の場合、交通費と宿泊費

6. ゼミ試験対策で使った参考書

特にありません

7. 先生が担当している講義

ミクロ経済学入門Ⅱ(PEARL)
(日吉、火曜日3限)

ミクロ経済学初級Ⅱ

(日吉、木曜日2限)

ゲームの理論(三田、金曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

<SNS>

ゼミ生運営のTwitterアカウント

@greve2019

<HP>

ゼミ生によるHPはありません。

先生のオフィシャルサイトにある「研究会のページ」は

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/takakofg/seminar.html>

9. 連絡先

外ゼミ代表 澤田剛志

(tsawada@keio.jp)

入ゼミ担当 阿部永樹

(nagabe.0125@gmail.com)

穂刈享研究会

— ミクロ経済学・ゲーム理論 —

1. 研究分野

ゲーム理論には、非協力ゲームの理論と協力ゲームの理論があるのですが、私の専門分野は協力ゲームのほうです。この分野では、何人かの人たちが協力することで得られる成果をどのように分けるかという問題を、非常に抽象的な設定の下で、数学的に分析します。

研究会では例年、ミクロ経済学とゲーム理論のテキストの輪読を行っています。来年度は『レヴィット ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社、2018年を使用する予定です。

卒業論文のテーマはゲーム理論でなければならないというわけではありません。参考までにこれまでの卒業論文のタイトルをいくつか挙げておきます。

卒業論文のタイトル

- ・ ノートの貸し借りと人間関係：ゲーム理論的考察
- ・ 「半官半民」という戦略：競争と社会的厚生観点から
- ・ 個人の利他性と成果主義について
- ・ 株主が企業に与える影響とは：株主と経営者の関係性
- ・ 劇場型政治と中位投票者定理
- ・ 日本とアメリカの新卒採用の比較：学歴社会における企業と労働者のミスマッチ
- ・ 空港における離陸便再編成の最適戦略について
- ・ カウンティングを用いたブラックジャックの最適戦略の理論的考察
- ・ ゲーム理論による人狼ゲームの分析
- ・ 公共投資の契約を結ぶ際の政府と企業の契約に関する分析
- ・ 仕事割り当て問題のオークションルールを用いたゲーム設計
- ・ Cashless Economy の均衡について
- ・ ネットワーク形成のモデルにおける部分ゲーム完全均衡：プレイヤーが6人の場合
- ・ 医療におけるセカンドオピニオン：患者と医師の戦略的関係

- ・ 個人の道徳的行動と社会正義の実現

2. 学生への要望

基本的に毎回出席すること。

3. 選考について

- (ア) 募集人数： AB合計 15人程度
- (イ) 選考内容： 筆記試験(ミクロ経済学+数学、持込不可)のみ。面接は行いません。
- (ウ) 他学部入ゼミ： 可
PERL生受け入れ： 可
- (エ) 選考基準： 筆記試験では、答えが正しいかどうかよりも、経済学的な考え方、数学的な考え方ができているかどうかを重視します。

4. ゼミ員構成

- 4年生：男子5人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
- 3年生：男子20人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4~5限)

ミクロ経済学のゲーム理論についての文献の輪読を行います。輪読は、生徒がレジュメや板書を用いて事前に振り当てられたテキストの内容を説明するものです。今年度の春学期は『社会的ゲームの理論入門』(中山幹夫著)を文献としました。ゼミ生は皆、和気あいあいと取り組み、先生からの鋭い指摘とそれに対してゼミ生で意見を出し合い考えることでミクロ経済学について深く理解することができます。協力・非協力ゲームはもちろんのこと、経済学の基礎的な知識や数学についても多くのことを学ぶことができます。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

ソフトボール大会など

⑥ 三田祭

2018年度はなし

⑦ 夏休み

なし

⑧ 合宿

2018年度はなし

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

特になし

6. ゼミ試験対策でを使用した参考書

『ミクロ経済学の力』

神取道宏著 日本評論社

『演習ミクロ経済学』

武隈慎一著 新世社

7. 先生が担当している講義

経済思想の歴史Ⅱ(日吉、秋学期月曜日1限)、自由研究セミナー(日吉、秋学期月曜日2限)、ミクロ経済学入門Ⅰ(PEARL)(日吉、秋学期火曜日3限) 専門外国書講読(半期)(三田、春秋学期木曜日2限)、ゲームの理論b(三田、秋学期金曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

穂刈享研究会ホームページ

<https://sites.google.com/view/hokarise>
mi

Twitter 穂刈享研究会

@hokahokahokari1

9. 連絡先

外ゼミ代表 久永悠太

(yh528university@gmail.com)

入ゼミ担当 宮田尚輝

(palace.paddy1413@gmail.com)

石橋孝次研究会

—(ミクロ経済学・産業組織)—

⑦ 研究分野

本研究会ではミクロ経済学を軸として、企業と市場の経済学である産業組織の研究を行う。

市場メカニズムの機能は厚生経済学の第1基本定理に集約されるが、同時に限界もあることはよく知られている。現実の経済は純粋な完全競争市場ではなく、何の施策もなければ機能不全に陥るのが常である。経済が健全に機能するには、政府が適切に介入を行うことも必要だし、組織や制度による資源配分が市場を補完することも必要である。私の主な関心は、現実の多くの企業は少なからず市場支配力をもつこと、また現実の経済活動はほぼ例外なく不完全もしくは非対称な情報の下で行われることを念頭において、市場メカニズムの限界と是正策を明らかにすることにある。この目的のためには、他の経済学の分野と同様、理論分析と実証分析の両方が必要になる。理論は経済問題を理解し解決策を探るためにあるという意味で、現実の経済問題との接点を見失った理論は健全ではないし、他方理論を軽視した実証分析も同様に健全ではないと考えている。

産業組織 (Industrial Organization) とは、不完全競争市場での企業行動の分析や需要の分析を通じて社会的に望ましい競争政策のあり方を考察する学問である。それと同時に、ビジネススクールなどに設置されている経営戦略論の基礎となっている学問でもある。より具体的に言えば、独占企業や寡占企業の価格戦略・品質や広告などの製品差別化行動・イノベーションと技術革新・企業の合併や統合・参入阻止などの問題について、ミクロ経済学に基づいた分析を行う分野である。また産業組織で主役となる主体は企業であり、企業の経営・組織・財務を考察する広い意味での企業理論は産業組織と密接に関わっている。本研究会では、ミクロ経済学と計量経済学を分析用具としながら、企業理論を含んだ産業組織の理論・実証研究を行う。

本ゼミ活動では、第1に分析ツールとしてゲーム理論・契約理論・行動経済学を学び、第2にゼミの研究分野である産業組織に関する文献を学習する。そして第3に、3年生と4年生がそれぞれ個別の研究テーマに関する発表を行う。英語は重要な言語であり社会に出てからも絶対に必要なもので、教材としては英語文献を扱うことが多い。春学期はテキストによる基礎的学習にウェイトをおき、秋学期には研究書や専門的な学術論文を用いる。またプレゼンテーションのスキルの養成はゼミ活動の重要な目的の1つであり、通常の授業は学生によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

本ゼミでは理論分析を主とするが、実証分析に必要な計量経済学を学ぶためにサブゼミを設置する。またゼミ活動を円滑に遂行する上で必要な基礎知識の補充を行うため、私が担当する三田の授業の他にいくつかの授業を履修することを求める。その他に3年生は、パートゼミで個別研究および共同研究を行う。4年生には相応の覚悟で卒業論文の作成に臨んでもらう。これは研究会活動の最終目的であり、学生生活において自らを鍛錬する最後の機会である。本研究会の卒業論文では、産業組織またはそれに関連する分野から具体的な問題を取り上げて理論分析および実証分析を行うことが求められる。卒業論文に取り組むためには分析能力を習得することだけでなく、普段のゼミ活動を通じて適切な問題意識を養っておくことが必要である。

2. 学生への要望

本研究会の趣旨を理解し、三田で充実した学生生活を送ることを望む諸君の入会を期待している。日吉ではミクロ経済学・マクロ経済学・数学・統計学・英語をできるだけ十分に学習しておいてもらいたい。これは三田の授業やゼミでの学習にとって必要であるだけでなく、社会に出てからも非常に有用な知識になるからである。

3. 選考について

- ①募集人員:15名程度
- ②選考内容:筆記試験(ミクロ経済学;持込不可)および面接
- ③ 他学部入ゼミ:不可
PEARL 生受け入れ:不可
- ④選考基準:筆記試験(90%程度)・面接(10%程度)。日吉での成績は問わない。

4. ゼミ員構成

4年生:男子13人、女子1人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子4人、女子1人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4・5限)

【春学期】

3年生は産業組織に関するテキスト(日本語と英語)と論文を用いたプレゼンを行います。

4年生も3年生と同様にテキストと論文を用いたプレゼンを行います。

【秋学期】

3年生は産業組織に関するテキストと論文を用いたプレゼンを行います。また、各パートの三田祭論文の最終発表も行います。

4年生は卒業論文の中間発表を行います。

【使用教材】

② サブゼミ(木曜5限)

コンピュータ室で実証分析に必要な計量経済学の理論の学習と計量ソフトSTATAの演習を行います。理論についてのプレゼンは3年生、計量ソフトの演習は4年生が担当します。

【使用教材】

- ・計量経済学の第一歩 田中隆一
- ・計量経済学 浅野哲、中村二郎

③ パートゼミ

以下の4つのパートに分かれ、春学期にはテキストの輪読、秋学期には三田祭論文発表に向けて自主的に活動します。

【産業組織パート】

ミクロ経済学を実際の産業に適用して、産業の構造や企業の行動等の分析・評価について、またそれに対する政策について勉強しています。

・「産業組織の経済学<<第2版>>」長岡貞男、平尾由紀子 日本評論社

【経営戦略パート】

経営戦略パートでは、企業の行動や市場の構造、政府の政策の影響などが企業の成果や市場にどのように影響するかを主に分析します。例えば寡占市場で企業はどのような行動を取るのが最適か?というような疑問に答えていくことです。毎週2人が指定された範囲のレジюмеを用意し、分からない部分などをみんなです話し合いながら、勉強しています。

・「戦略の経済学」デイビット・ベサンコ、マーク・シャンリー(奥村昭博・大林厚訳)ダイヤモンド社

【競争政策パート】

競争的な市場環境を維持、促進することにより望ましい経済成果を実現するためにどのような政策を考えればいいのかを考えます。様々な市場モデルを用いて独占や寡占、カルテルなどが経済全体にどのような影響を及ぼしどのように対処するかを考えます

・「競争政策論—独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論」小田切宏之 日本評論社

・「競争政策で使う経済分析ハンドブック」公正取引委員会

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

6月 ソフトボール大会

春にゼミナール委員会が主催するソフトボール大会に参加しています。

12月 OB・OG会

歴代のOB・OGの先輩方をお招きし、各方面で活躍している先輩方と話せる良い機会です。

☆毎月 先生を交えた飲み会をゼミの後に開催しています!

⑥ 三田祭

11月 三田祭

パートごとに論文を発表します。

⑦ 夏休み

卒論・三田論準備

⑧ 合宿

9月 夏合宿

3年生は三田祭論文、4年生は卒業論文の中間発表をそれぞれ行います。先生からのアドバイスやゼミ生同士の指摘によって論文の内容を深めます。勉強後にはフットサルやバスケットといったレクリエーション、そして夜には飲み会が開催されます。

⑨ゼミ必修授業

- ・産業組織論ab(春秋 水曜日3限) 中嶋亮先生/石橋孝治先生
- ・ミクロ経済学中級Ⅱ ab(春秋 水曜日2限) 石橋孝次先生/玉田康成先生
- ・計量経済学中級ab(春集中 火曜日1・2限) 田中辰雄先生

⑩経費

教科書:10,000円
夏合宿:40,000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

奥野正寛編(2008)「ミクロ経済学」東京大学出版会

神取道宏(2014)「ミクロ経済学の力」日本評論社.

【おすすめ問題集】

武隈慎一(1994)「演習ミクロ経済学」新世社.

奥野正寛編(2008)「ミクロ経済学演習」東京大学出版会

「ゼミHPにて練習問題と過去問3年分を公開中！試験対策にお役立てください」

7. 先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級Ⅱ(秋木曜1限)

三田：ミクロ経済学中級Ⅱa (水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

ゼミHP:

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/ishibashi/index.html>

→ 詳細なゼミ情報や過去問が掲載されています

Twitter: @ishibashi_2019 → 随時最新情報を発信しています

9. 連絡先

外ゼミ代表 塩田 凌平

(r1392781243729@gmail.com)

入ゼミ担当 原田 雄輔

(lock3265@gmail.com)

金融

新井拓児研究会

伊藤幹夫研究会

小林慶一郎研究会

佐藤祐己研究会

中妻照雄研究会

新井拓児研究会

—確率論・数理ファイナンス—

1. 研究分野

本研究会は数理ファイナンスを主テーマにしているが、実質的には、数学、とりわけ解析学と確率論の学習が中心となる。数理ファイナンス、特にオプションの価格付け理論を学習するためには、数学の議論が正確にできなければならない。そのため、数学の議論に慣れてもらうことを目的に、かなり細かなことにもこだわる妥協のない議論を目指す。具体的には、3年生の春学期に微分積分学の教科書の輪読を行い、3年生秋学期から4年生春学期にかけて確率論の教科書を輪読する。仕上げとして4年生秋学期に、学生の希望に応じて数理ファイナンスに関する文献を輪読する。特に、微分積分学においては、実数の連続性、点列の極限、関数の連続性、積分の定義などについて学習する。ちょっとマニアックな議論も行う。また確率論では、測度論の基礎について学び、大数の法則や中心極限定理などの極限定理を中心に、こちらも正確で細かな議論を行う。尚、本研究会では飲み会、合宿などのイベントは行わない。三田祭にも原則的には参加しない。

2. 学生への要望

本研究会の内容や雰囲気は、悪い意味ではなく他の研究会とは相当異なる。決して怖いところでもなく、明るい雰囲気のゼミである。数学好きの学生が多数(と言っても5人程度だが)集まることを期待している。

3. 選考について

- ①募集人数
A日程5名程度
- ②選考内容
数学に関する筆記試験
- ③他学部入ゼミ: 可
PERL生受け入れ: 不可
- ④選考基準
数学の基礎学力を十分持っていること。

4. ゼミ員構成

4年生:男子4人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子2人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ①ゼミ(月曜3・4限)
主に輪読を行います。
 - ②サブゼミ
なし
 - ③パートゼミ
なし
 - ④インゼミ
なし
 - ⑤課外活動
なし
 - ⑥三田祭
なし
 - ⑦夏休み
活動なし
 - ⑧合宿
なし
 - ⑨ゼミ必修授業
なし
 - ⑩経費
教科書
6. ゼミ試験対策で使用した参考書
なし

7. 先生が担当している講義

日吉: ()、曜(限)
三田: ファイナンス概論(秋、月曜1限)

8. ゼミHP・SNS

<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/arai/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 栗山大輝

(kuriyamen@keio.jp)

入ゼミ担当 川田森大

(aaaooonnn159vut@softbank.ne.jp)

伊藤幹夫研究会

—金融市場の理論分析・計量分析—

1. 研究分野

ここ数年間の伊藤研究会では、金融市場に対して統計学的手法を用いた実証研究を行ってきました。具体的にはテクニカル投資戦略の有効性のブートストラップ法による検証、信用リスクの測定、株価の国際連関、株式価格の予測可能性、伝統的CAPM理論、外国為替市場の先物プレミアムパズル検証、Brexit国民投票や米大統領選挙など結果が不確実な政治イベントが金融市場に与える影響の分析、などです。

研究会において学生諸君は、最近の金融理論、金融市場構造の実証に関する統計的方法、実際に実証を行う場合のデータ処理の方法を講義と演習から学びます。さらに、比較的入手しやすいデータを用いて、様々な実証研究を行ないます。

2018年度は、金融市場に対する非経済ショックをゼミのテーマとしました。前期は金融関連の基礎知識の学習に力を入れる一方、金融市場全般についての基礎的な事項の学習を行いました。さらに、本格的な実証分析を行なう後期への準備として、解析・線型代数・統計学に関する学習を平行して行ないました。同時にコンピュータや計量経済学、統計言語(Python)の使い方を学びました。後期は前期で学んだことを基礎に実証作業を共同で行ないます。2019年度は前年度と同様に金融市場に関連したテーマの下でゼミを行なう予定です。

なお毎回研究会では、ゼミ員に対して毎回レポートとプレゼン資料の提出を事前に求めます。レポーターはゼミの現場でランダムに定めます。レポーター以外のゼミ員は、レポーターの発表に対するチェックという役割を担います。

4年次の卒論は、就職活動が一段落した者から着手します。テーマは3年次のゼミの活動に関連したもの限定して、相談の上で決めます。その上でたたき台となる先行研究論文を選び、実証分析の追試・新たな貢献の模索・論文の根本となる実証・論文の執筆・改訂という過程を経て提出してもらいます。

この研究会の特徴は、経済学とファイナンスをいろいろな角度から学ぶという点にあります。ゼミに入会した学生諸君は、理論を学ぶにしろ実証的手法を学ぶにしろ、両方をバランスよく学ぶことを求められます。また自ら体と頭を積極的に動かして、さまざまな経験を積むことが求められます。

2. 学生への要望

研究会活動を含め大学における学習・研究活動が、将来の糧となるのか無意味な時間つぶしになるのかは、学生諸君の動機付けに一重に依存します。研究会に参加するならば、積極的な動機付けを自らに課してほしいと思います。

3. 選考について

1. 募集人数、15名程度(AB日程合計)
2. 選考、レポートのみ
3. 他学部生とPEARL生は受入れ不可
4. 選考基準：レポートの質

4. ゼミ員構成

4年生:男子9人、女子11人
(他学部 人、留学中 人)
3年生:男子11人、女子0人
(他学部 人、留学中 人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4,5限)

春学期は数学や統計、金融に関する基礎知識の復習とLatexの練習、秋学期はPythonを用いての実習を行います。

② サブゼミ(曜 限)

サブゼミはありません。

③ パートゼミ

パートゼミはありません。

④ インゼミ

実施予定はありません。

⑤ 課外活動

実施予定はありません。

⑥ 三田祭

三田祭への論文提出はありません。

⑦ 夏休み

合宿を実施するかは未定。それ以外の活動はありません。

⑧合宿

MATLABを実際に使用できるようにするため、昨年まで毎年合宿が行われていました。今年度は実施されませんでした。

⑨ゼミ必修授業

ゼミ必修の授業はありません。

⑩経費

合宿費のみです。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特に必要ありませんが下記の参考書

- ・金融工学の悪魔(著:吉本佳生)
- ・世界一やさしい金融工学の本(著:田淵直他)
- ・文系人間のための金融工学の本(著:土方薫)

7. 先生が担当している講義

日吉：(曜限)

三田：マクロ経済学中級Ⅲb(水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

<http://www.math.hc.keio.ac.jp/itoseminar/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 橋本 健作

(kensakutony@keio.jp)

入ゼミ担当 川井 悠太郎

(yutaro-k@keio.jp)

小林慶一郎研究会

—金融危機、世代間問題などの理論と政策研究—

1. 研究分野

本研究会の研究分野は金融危機や財政危機など「大きくて長期的な経済変動」についての研究が主なテーマである。2008年以降の欧米経済で起きた大規模な金融危機とその後の長期経済停滞や日本の少子高齢化や財政の慢性的な悪化、世代間の公平性などの問題が研究テーマの例である。

◇理論的テーマの例

金融システム(銀行などの機能)、貨幣、財政(公的債務)の理論的な扱いについてはまだ多くの問題点が残っている。これらの問題を勉強することを通じて、新しい理論的な創意工夫や発見を目指す。

◇政策的テーマの例

おもに財政の持続性の維持に必要な政策、危機脱却策など。世代間の公平性を再生するための政治経済思想についても考えたい。

◇ゼミでの活動

4年生は卒業論文、3年生はグループで三田祭論文を執筆する。

ゼミではテーマに関連する教科書や書籍、論文を輪読する。

また外部講師を呼び金融や財政の実務を勉強する場も設ける。

研究会メンバーはゼミの時間にプレゼンテーション(テキストの解説、自身の研究の進捗状況などについて)をして、全員でディスカッションをする。

◇輪読テキストの例

- ・小林、加藤『日本経済の罨』
- ・小林編『財政破綻後』
- ・サンデル『民主政の不満』
- ・Allen and Gale, Understanding Financial Crises
- ・Champ, Freeman and Haslag, Modeling Monetary Economies

2. 学生への要望

研究は解くべきテーマや問題設定を発見することができれば90%完成である。自分の頭で研究テーマを考え、課題設定を行うことを目指して勉強を進めてもらいたい。

事前の知識としては、基本的なマクロ経済学と経済数学は一通り習熟していることが望ましい。

3. 選考について

(本年度から選考方法を変更します)

- ① 募集人員:10名~15名程度
- ② 選考内容:面接(5分~10分程度)、成績表の事前提出。
- ③ 他学部生の受け入れ:受け入れ可。
PEARL生の受け入れ:日本語でゼミに参加できるPEARL生は受け入れる。
- ④ 選考基準:面接の結果、成績表、志望動機の三つを勘案して判断する。志望動機として、ゼミで自分が研究したいテーマ(三田論、卒論のテーマ)についてなるべく具体的に説明し、研究の進め方のイメージを書くこと。
志望動機に書ききれない場合は別紙をつけても良い(様式は自由)。

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子8人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子9人、女子1人
(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4,5限)

主に金融理論やマクロ経済学を用いて日本や世界の経済問題について理解を深めています。本ゼミでは関心のある分野のコラムや論文を発表し、三田論に向けてのグループワークも進めていきます。今年度は本ゼミで財政赤字を扱っており、小林先生は最新の政治・経済トピックや研究についてもお話して下さるので、自分で研究してみたい分野がある方

も、経済学の知識を広げていきたい方も、しっかり活動できる研究会です。

② サブゼミ(月曜6限)

サブゼミでは金融理論を扱っており、生徒が自主的に選んだ書籍を輪読し、三田論の素地になる理論を学びます。加えて、より経済理論を学びたい人のために自主参加の理論班サブゼミもあります。

③ パートゼミ

④ インゼミ

⑤ 課外活動

⑥ 三田祭

三田祭では三年生が論文発表を行います。本ゼミでのグループワークをもとに発表する良い機会となっています。今年度は“時間選好率”、“企業金融”、“ブロックチェーン”についてそれぞれ論文発表する予定ですので、ぜひお越しください。

⑦ 夏休み

⑧ 合宿

夏休みにはゼミ合宿に行きます！今年度は静岡県の伊豆へ2泊3日の旅となりました。最初の2日間は、小林先生からアドバイスをいただきながら三田祭論文や卒論のための勉強をガンガン進めていきます。勉強の後には先生を交えた宴会もきっちり執り行い、にぎやかに過ごしました。最終日にはゼミ生で海に行ったり海鮮丼を食べに行ったりと、充実した合宿となりました。

⑨ ゼミ必修授業

⑩ 経費

今年度はゼミ費として2000円を徴収しました。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)

7. 先生が担当している講義

日吉： (曜 限)

三田： 金融資産市場論(木曜3限)

8. ゼミHP・SNS

ゼミHP:

<http://economicsssss.wixsite.com/koba-kei>

Twitter: @kobayashilabo

9. 連絡先

外ゼミ代表 曾根健太(kenta.s@keio.jp)

入ゼミ担当 笠祐希(y-kasa@keio.jp)

佐藤祐己研究会

—金融論・応用ミクロ経済学—

1. 研究分野

私の専門は、金融論・ファイナンスです。主に、情報の経済学をファイナンスに応用し、銀行やヘッジファンド等の機関投資家がどのように行動し、資産価格や市場流動性にどのような影響を与えているか(例:資産バブル、株価モメンタム、金融市場の脆弱性)を研究しています。詳細は、

<https://sites.google.com/site/yukisatoecon/>

を参照してください。

本研究会のテーマは、国内外の金融システムの現状と課題を、経済学のロジックを踏まえて分析することです。株式市場や債券市場を分析するためには、マーケットの作動特性(特に価格メカニズム)や、プレイヤーである個人投資家・機関投資家のポートフォリオ選択行動をしっかりと理解することが不可欠です。同様に、銀行システムを分析するには、銀行のそもそもの存在意義や、プレイヤーとしての預金者・銀行・借り手企業・規制当局のインセンティブ構造を理解することが必要です。

こうした理解に役立つツールとして、3年生の春学期に、ミクロ経済学ベースの金融・ファイナンスの基礎理論を学びます。ゼミ生がテキスト(未定)を輪読し、内容をプレゼンして、それをもとに皆で議論するのが基本スタイルになると思いますが、トピックの難易度に応じて私が講義する場合もあります。3年生の秋学期には、少人数のグループに分かれて、オリジナルのテーマで三田祭論文を執筆します。4年生は、卒業論文の執筆が主な活動です。

本研究会は3年目の新しいゼミなので、「恒例行事」はまだなく、ゼミの進め方は自由です。ゼミ合宿やインゼミ等を行うか否かを含め、ゼロベースでゼミ生と話し合って決めていきます。

2. 学生への要望

金融・ファイナンスに興味があり、それらについて浅薄な議論をするのではなく、経済学に基づいてじっくり考え、議論し、理解したい学生を望みます。

本研究会は現実と理論のバランスを重視しますので、数理モデルだけに興味がある人にはお勧めしませんし、理論にアレルギーがある人にも向いていません。

与えられたことをただこなすのではなく、自発的に考え、積極的に議論に参加し、独創性のある研究をする意欲を持った学生を希望します。

3. 選考について

- ① 募集人数: 12~15名。
- ② 選考内容: 筆記試験(ミクロ経済学・マクロ経済学)、面接。
- ③ 他学部入ゼミ: 可。
PEARL生受け入れ: 可。ただし日本語の文献の輪読と日本語によるディスカッションに問題がない学生に限ります。
選考基準: 筆記試験と面接で総合的に判断します。成績表は見ません。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子13人、女子4人
(他学部0人、留学中1人)
3年生: 男子6人、女子3人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(火 曜4・5限)
本ゼミではテキストの輪読をしている。あらかじめ配分された範囲について、毎回4~5人の担当者が一人ずつレジュメを作成した上で発表し、それに対し先生に随時解説をいただいている。
- ② サブゼミ(曜 限)
なし
- ③ パートゼミ
秋学期に三田祭論文のパート毎、自主的に集まり研究・執筆を行う。
- ④ インゼミ
11月に大阪大学の太田ゼミ、12月に早稲田大学の広田真一ゼミとインゼミを行う。
- ⑤ 課外活動
12月に行われる証券ゼミナール大会に参加

- ⑥**三田祭**
3つのパートの内、1パートが論文発表を行う。
- ⑦**夏休み**
夏休み前に三田祭論文に向けたパート分けをし、夏休み中はパート毎に集まり、研究・執筆を行う。
- ⑧**合宿**
9月に2泊3日で合宿を行い、各パートが中間発表を行う。
- ⑨**ゼミ必修授業**
なし
- ⑩**経費**
経ゼミ費、輪読書の購入費、合宿費
- 6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**
なし
- 7. **先生が担当している講義**
日吉：日本経済概論(月曜2限)
三田：金融論b(水曜3限)
企業金融論a・b(火曜3限)
- 8. **ゼミHP・SNS**
Twitterアカウント:@keio_satozemi
ゼミHP:<http://satoseminar.org>
- 9. **連絡先**
外ゼミ代表 瀬川潤
(sg7jn4.mr@gmail.com)
入ゼミ担当 周芳悦
(y.enoneko@gmail.com)

中妻照雄研究会

—フィンテックとデータサイエンス—

1. 研究分野

中妻照雄研究会(以下、中妻ゼミ)では、フィンテックとデータサイエンスを学んでいます。フィンテック(fintech)は finance + technology を意味する造語で、金融サービスに最新の情報通信技術を融合させて新しい価値を創造することを目指す学際的な研究領域です。一方、データサイエンスは、ベイズ統計学や機械学習などの手法を駆使して膨大なデータ(ビッグデータ)から有用な情報を取り出して実務に役立てることを目指す学問です。中妻ゼミの目標は、ゼミで学んだ知識を生かしてビジネスの世界で即戦力として活躍できる優秀な人材を輩出することです。

中妻ゼミでは、データを使った実証分析全般の中から比較的自由に研究テーマを選べます。3年生で三田祭論文を、4年生で卒業論文を単著で執筆します。一人で学術的な論文を書き上げるのは大変労力のかかる作業ですが、学生の皆さんにとって貴重な経験となるでしょう。

中妻ゼミの活動の中心は、本ゼミ、サブゼミ、パートゼミです。本ゼミは講義の一環として行われ、学生による学術論文の報告とディスカッションで構成されます。サブゼミへの参加自由ですが、有志で集まってベイズ統計学、機械学習、プログラミングなどの勉強会を行っています。パートゼミでは、グループ(パート)に分かれて専門分野を学習し、三田祭論文のための研究を行います。

今年度に設置されたパートは、最新のデータ分析の手法を勉強し、それを様々な分野のデータに対して応用するデータサイエンス・パートと企業の資金調達手段の選択や企業価値算定などのコーポレートファイナンス(企業金融)全般を勉強するコーポレートファイナンス・パートの2つです。また希望に応じて新たなパートを作ることもできます。

さらに新歓合宿や夏合宿、他大学とのインゼミ、OB・OGを招いての交流会、実務家を招待しての講演会など様々なイベントも行う予定です。

2. 学生への要望

中妻ゼミでは好奇心旺盛で常に向上心を持って自発的に勉学に勤しむ学生諸君を求めています。

中妻ゼミを志望する学生は、金融に関する基礎的概念(金利、債券、株式、証券市場、外国為替レートなど)を理解していることが必須です。

特にデータサイエンスに関心がある人は、数学とプログラミングの勉強をしっかりと行う心積もりで中妻ゼミに参加してください。そして、日吉で学んだ統計学や計量経済学概論の内容をしっかりと理解しておいてください。

企業の財務分析を学ぶ上では高度な数学は必要ありませんが、企業価値などの計算で必要になるので表計算ソフトの使い方は最低限勉強してください。当然、財務諸表の数字の意味をきちんと理解できるだけの会計に関する知識を身につけることも必要です。

今日の世界では、実務においても研究においても、英語が堪能であることが要求されます。中妻ゼミでは英語で三田祭論文や卒業論文を執筆するぐらいの気概のある人を歓迎します。また、大学院進学、特に海外への留学を希望する人も大歓迎です。

3. 選考について

- ① 募集人員: 15名程度
- ② 選考内容: 事前に提出する学習計画書と入試当日に行われるレポート課題の報告および面接で決まります。
- ③ 他学部生・PEARL生を受け入れます。

- ④ 選考基準:学習計画書、レポート課題、面接などでファイナンスとデータサイエンスに関する基礎知識、研究会に参加する目的意識、人物などを総合的に判断して可否を決定します

4. ゼミ員構成

4年生:男子10人、女子2人
(他学部0人、留学中3人)
3年生:男子10人、女子6人
(他学部1人、留学中4人)

5. 活動紹介

① ゼミ(金曜4,5限)

中妻照雄研究会は、ビジネスの世界で即戦力として活躍できる『高度グローバル人材』の輩出を目指しています。本研究会では世界で戦うための武器として、現実を読み解くための『データサイエンス』と世の中の仕組みを理解するための『ファイナンス』の学習に力を入れています。さらに国際社会で不可欠な「英語で学び、英語で発信する」能力も向上させるために、英語の学術論文のプレゼンテーションや英語での論文執筆などにも志で行っています。

② サブゼミ(金曜6限)

サブゼミでは、もっと学びたい、研究したいと思う学生が自ら集まる自主性を重んじた活動となっています。

③ パートゼミ

昨年度のリクルーティングは3つのパートに分かれていました。(本年度未定)
コーポレートファイナンス(企業金融)パート、データサイエンスパート、マーケティングパート

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

Bloomberg Investment Competition
CFA Research Challenge

⑥ 三田祭

中妻研究会では3年生で三田祭論文を単著で執筆します。

⑦ 夏休み

各種課外活動や投資銀行・コンサルファームでのインターンを通じて、各ゼミ生が投資・企業分析・フィンテック・コンサルティングの最前線を学び、情報を共有しています。

⑧ 合宿

4月の新歓合宿
9月の夏合宿

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

年会費は特になく、合宿費は年によって変動

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

「道具としてのファイナンス」石野雄一
「金融工学入門」ルーエンバーガー
「Pythonによるデータ分析入門」Wes Kinney

7. 先生が担当している講義

日吉：自由研究セミナー(春秋、水曜3限)
三田：確率・統計ab(春秋、火曜2限)
フィンテックとソーシャル・インフラストラクチュアab(春秋、金曜2限)ファイテックの理論と実践ab(春秋、月/火曜、1/2)時系列分析b(秋、金曜3限)

8. ゼミHP・SNS

nakatsuma.com

9. 連絡先

外ゼミ代表 竹村凌一(tiaw_uchi@keio.jp)

国際経済

大久保敏弘研究会

嘉治佐保子研究会

木村福成研究会

駒形哲哉研究会

櫻川昌哉研究会

白井義昌研究会

竹森俊平研究会

秋山裕研究会

大久保敏弘研究会

—国際経済学、国際貿易、海外直接投資、空間経済—

1. 研究分野 国際貿易論、海外直接投資、空間経済、地域経済。私自身の具体的な研究内容は一連の論文を参照。

2. 学生への要望

上記の研究分野をしっかりと学び、研究をしたい学生のみを募集する。私の研究内容に直結した研究に比重を置きたい。したがって、私の研究内容のある程度理解の上、応募してもらいたい。1, 2年時にミクロ、マクロ、統計で良い成績をおさめていることが必要最低限である。特にミクロ経済学と統計学(計量経済学)、数学(特に微分積分、解析学)を用いて研究を行うため、応募に際して、既に十分な力量があることを求める。また、大量のデータ分析やデータ収集といった地道で精緻な作業を厭わないことも大いに求められる。3年以降も意欲的に国際貿易、計量経済学、ミクロ経済学、都市経済、経済地理などを履修し積極的に学ぶ意欲を求める。就職活動の一環として、あるいは単位目的での応募はしてほしくない。サークル感覚での活動も困る。ゼミはあくまでも大学の授業であり、研究活動の場であるため、過度な就職活動や個人の都合の優先は困る。ゼミ活動は学生の自主性を重んじたい。教員に様々な場面で依存的なのは困る。このため、厳しい態度で臨む。大学院進学希望者を歓迎する。

4. 選考について

- ① 募集人員: 8名
- ② 選考内容: ミクロと統計のテスト
- ③ 選考基準: 成績。GPAがある程度以上(例年 2.5~3 以上)、再履修がない、テストの成績。面接。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子11人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

3年生: 男子8人、女子4人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4,5限)

春学期は、学生を中心に指定された教科書の輪読を行います。担当者が各章の解説、まとめを行い、秋学期に向けての基礎を学びます。時には教授からの鋭い質問や更なる解説があり、和やかな雰囲気ながらも緊張感を持って理解を深めることができます。

また、四年生の先輩方が卒論の途中経過を発表する時もあり、一年後に自分達も執筆する卒論のテーマ決めや進め方を学ぶことも出来ます。

秋学期は、三田論に向け教授から論文執筆について指導を頂き、学生で準備を進めます。

② サブゼミ(隔週月曜4,5限)

本ゼミとは別に、隔週月曜日に大学院の先輩をお招きして教科書の輪読を行ったり、計量経済学の問題の解説をしていただく具などしています。4,5限という形をとっていますがスムーズに進んだ場合は4限中に終わる場合もあります。普段のゼミとはまた違った視点、雰囲気でも経済学を学ぶことができ、新鮮な感覚で理解を深めることができます。大学院の先輩も優しく、わからないことを質問しやすい環境が整っている為、疑問をそのままにしてしまうことはありません。充実した時間を過ごすことができます。

③ パートゼミ

④ インゼミ

⑤ 課外活動

⑥ 三田祭

⑦ 夏休み

⑧ 合宿

大久保研究会の合宿は、毎年ゼミ員で開催場所を相談した上で、夏休みに行われます。今年は伊豆で2泊3日での合宿となりました。

合宿では泊まり込みということもあり普段のゼミ活動よりもじっくりと深い議論が出来るのが特徴です。

また、花火や観光など楽しめる要素も多くある事も大久保研究会の合宿の特徴で、ゼミ員同士の仲もこの合宿でグッと深まります。

ゼミ員の大きな成長や団結の場となるこの合宿は一年間の中でもビッグイベントとすることが出来るでしょう

⑨ゼミ必修授業

貿易政策a/b【三田・春集秋集・水曜日1,2限】

国際貿易論a/b【三田・春集秋集・水曜日1,2限】

計量経済学中級a/b【三田・春・火曜日1,2限】Financial Management and Corporate Governance【三田・春集中】、

⑩経費

ゼミ費:4000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

7. 先生が担当している講義

日吉： (曜 限)

三田：貿易政策a/b(水曜1,2限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter:@OkuboSeminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 井田賢佑

(ken25shmid@gmail.com)

入ゼミ担当 松永悠佑

(osamubaseball46@gmail.com)

嘉治佐保子研究会

Sahoko KAJI' s seminar

—Open Economy Macroeconomics • Economies of Europe—

1. Field of Study (研究分野)

Study and research in this seminar centre on Open Economy Macroeconomics and Economies of Europe.

International economics can be broadly divided into international trade and international finance. Study and research in this seminar fall in the latter category, emphasising its macroeconomic aspects. This is why we say they centre on Open Economy Macroeconomics; macroeconomics that explicitly takes into account the interdependence of different national economies.

First we learn about the economic variables and or concepts introduced when the analysis moves from a 'closed economy' to an 'open economy', such as exchange rates, balance of payments and interest rate parity. Then we apply the knowledge to real world issues related to international interdependence and its effect on economies. Particular attention is paid to the European economies and what the rest of the world can learn from the European experience.

2. Expectations (学生への要望)

Students are expected to think independently and scientifically. In preparing for this seminar, they should spend their Hiyoshi years training themselves to ask questions, acquire information and find answers on their own. Applicants should pay attention to events happening around the world daily, and expose themselves to different viewpoints, comments and interpretations. In terms of language

skills, a second language in addition to English is strongly encouraged.

Everything in this seminar is conducted in English. We welcome all students, including those who do not have any experience of living abroad, and those that participate in the faculty of economics' Professional Career Programme (PCP), the Double Degree programme with Sciences Po and PEARL.

Students who are interested in international trade or development would want to consider joining seminars specializing in those subjects. Having said that, the topic of the graduation thesis can be freely chosen, as long as it is related to economics and is analysed using economic logic.

3. Entrance examination (選考について)

① Admission quota:
Approximately 10

② Examination
Written examination:
macroeconomics and
microeconomics, in English
Oral examination:
With the professor and students

Please bring a copy of your transcript
(which will NOT be returned)

③ Admission criteria:
Good, solid knowledge in basic micro and
macro economics
Fondness and habit of independent
thinking
Eagerness to learn different
languages and viewpoints

4. ゼミ員構成

4年生:男子10人、女子1人
(他学部1人、留学中1人)
3年生:男子5人、女子13人
(他学部0人、留学中4人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4,5限)

嘉治ゼミは少人数の定員だからこそ実現できる自由でアットホームな雰囲気の下、全て英語で国際マクロ経済学・欧州経済論を学びます。時には、本ゼミやサブゼミ以外でも自主的に集まって勉強会を開きますが、飲み会やバーベキュー、経ゼミのソフトボール大会、スポーツ大会など、息抜きもちゃんとしています。そんな嘉治ゼミでの時間は、皆さんの自主性次第で非常に充実したものとなることを約束します。来年、皆さんとともに学べることを楽しみにしています。

② サブゼミ(月曜6限)

開催日時は毎年ゼミ生で話し合って決めます。ここでは論文コンテストに向けての研究や、日頃のゼミ内容の復習などを同期で行います。

③ パートゼミ

特にございません。

④ インゼミ

年に2回関西学院大学とインゼミを開催しています。

⑤ 課外活動

論分コンテストにエントリーしています。

⑥ 三田祭

三田論の発表があります。

⑦ 夏休み

インゼミがあります。

⑧ 合宿

毎年開催をゼミ生が決めています。

⑨ ゼミ必修授業

ゼミ必修の授業はございません。

⑩ 経費

経ゼミ費の2000円以外特に出費はございません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

公務員試験用のマクロ経済学の教科書など

7. 先生が担当している講義

日吉：(曜 限)
三田：FINANCE,POLICY AND THE
GLOBAL ECONOMY(土曜4限)

8. ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kaji/>

9. 連絡先

外ゼミ代表

堀菜奈(kannahori-0130@keio.jp)

入ゼミ担当

築嶋瞭(0yp326583rz521j@ezweb.ne.jp)

木村福成研究会

—国際経済学・開発経済学—

1. 研究分野

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論と実証・政策研究の両面から学んでいく。

北東アジアと東南アジアを含む東アジアは、少なくとも製造業に関する限り、世界でもっとも進んだ生産工程・タスク単位の国際分業、すなわち「第2のアンバンドリング」が展開されている地域となっている。生産ネットワークを拡大・深化させる余地は大いに残っている。一方、デジタル・エコノミーの到来により、東アジアは新たな開発戦略を模索する必要性が生じてきている。今後の国際通商政策体系、メガFTAの動向は、これらと密接に関連している。

本研究会では、国際経済学と開発経済学についての基礎的理解を土台とし、現代の日本経済、東アジア経済、世界経済が抱える諸問題について議論していく。

研究会の活動内容は、経済学を踏まえつつも大いに実践的である。教材は基本的に英語文献のみを使用し、またパソコンも駆使する。論理的な文章の執筆、説得力のあるプレゼンテーションを重視する。使用言語は英語でも日本語でもよいものとする。研究者・エコノミストや国際公務員を希望する者はもちろん、広く国際的な分野で活躍するビジネスマンを目指す諸君にとっても、有用な教育サービスを提供する。この教育リソースを有効に活用してくれる元気な学生諸君の参加を望む。

私の最近の主要研究テーマは、国際的生産・流通ネットワークのメカニズム解明、新興国・発展途上国とデジタル・エコノミー、東アジア・アジア太平洋の経済統合戦略などである。たとえば、『国際経済学入門』(2000年、日本評論社)、『TPPの期待と課題:アジア太平洋の新通商秩序』(共編著、2016年、文真堂)、『東アジア生産ネットワークと経済統合』(共著、2016年、慶應義塾大学出版会)、『国際経済学のフロンティア:グローバル化の拡大と対外

経済政策』(共編著、2016年、東京大学出版会)などを参照してほしい。

また、ASEANおよび東アジアの経済統合を推進するためにジャカルタに設立された国際機関、東アジア・ASEAN経済研究センター(ERIA)のチーフエコノミストも務めている(<http://www.eria.org>)。

2. 学生への要望

日吉で経済学をしっかりと勉強してきたとか、英語を鍛えたとか、コンピューターに熟達したとかいうことは、将来必ず役に立つ時が来るだろう。しかしそれ以上に是非やってほしいことは、国際経済・開発経済、あるいはもっと広くグローバル化する国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞に目を通し、本をたくさん読むことである。できれば経済学だけでなく、その他の社会科学・人文科学も広く勉強して、国際人となるにふさわしい真の教養を身につけてほしい。誰の意見であれ鵜呑みにすることなく、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する人間になることが、最も大切である。

PEARL生も受け入れる。また、海外留学を計画している学生、SciencesPoダブルディグリーの学生も歓迎する。

3. 選考について

①募集人数

A日程のみ実施する。募集人員はAB学生、PEARL学生を合わせ16名程度とする。SciencesPo DD学生(AB/PEARL)は別枠とする。

②選考内容

A日程選考日当日、小作文と面接を行う。小作文は、「経済活動あるいは経済政策のグローバル化に関連する問題を1つ取り上げ、その解決に向けて経済学はいかに役立ちうるか」という問いに答える形で、当日1時間半の時間内に執筆してもらう(持ち込み不可、日本語または英語)。面接は、個人もしくはグループで行う。

- ③他学部入ゼミ: 受け入れる。
PEARL生受け入れ: 受け入れる。

④選考基準

小作文50%、面接40%、入学以降の成績(成績表のコピーを持参すること)10%のウェイトで得点順に選考する。知識、プレゼンテーション能力はもちろん重要であるが、それ以上に自らの頭で考えているかどうかを重視する。

4. ゼミ員構成

4年生:男子12人、女子10人
(他学部2人、留学中1人)
3年生:男子10人、女子15人
(他学部0人、留学中3人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4.5限)

春学期は国際貿易論の洋書とより現実的な問題やテーマを扱った論文や文献を輪読して基礎固めを行います。サブゼミで学んだことを踏まえ、本ゼミはプレゼン形式で進行します。先生からの確かなアドバイスやコメントを頂いて疑問点を解決したり、より深い議論を交わしたりすることで理解を深めます。秋学期には、開発経済学の洋書と論文を輪読します。本ゼミはChairman Groupを中心に進められます。CGは担当箇所のレジュメ作成、議論の司会進行役で、3・4年生合同でグループを組みます。

② サブゼミ(月曜4.5限)

本ゼミに向けて予習を行います。教科書の範囲を各自予習したうえで、担当者がプレゼン練習を行い、議論します。パート論文作成などに充てることもあります。

③ パートゼミ

パートごとの集まりは主に三田祭に向けて行われ、秋学期の前半にかけて論文を執筆します。

④ インゼミ

例年、塾内では経済学部の白井ゼミ、商学部の安藤ゼミ、また一橋大の石川ゼミや横浜国立大の清田ゼミとインゼミを行います。

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

3年生をグループ分けし、国際貿易と開発経済に関する論文を執筆します。今年は中庭模擬店に出店します!

⑦夏休み

3年生の希望者で一週間ほど東南アジアにスタディーツアーに行きます。また、3年生は10~15枚の論文を個人で執筆し、それに基づくプレゼンを夏合宿で行います。

⑧合宿

新歓合宿10,000円(2018年度)
夏合宿23,000円(2018年度)

⑨ゼミ必修授業

必修はありませんが、木村先生が担当し、ゼミとの相乗効果を期待できる国際貿易論やPCPの授業を履修するゼミ員が多いです。

⑩経費

4,000円(2018年度)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自のテーマに基づき適宜

7. 先生が担当している講義

日吉: (曜 限)

三田: 国際貿易論b(水曜1,2限)・

金融・政策と世界経済(PCP)(土曜4限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter:<https://twitter.com/kimuranyuzemi?lang=ja>

Facebook:<https://www.facebook.com/kimuranyuzemi2017/>

櫻川昌哉研究会

—(国際経済)—

1. 研究分野

マクロ経済学と金融。最近は、バブルの生成、発展、崩壊に至るプロセスを理論、実証の両面から分析している。私の最新の研究を知りたい人は、「なぜ金融危機は起こるのか 金融経済研究のフロンティア」(東洋経済新報社、櫻川昌哉・福田慎一編)の第1章を参照されたい。

2. 学生への要望

1)日本人は議論の仕方が下手だと言われている。国内にあっては、相手の立場を慮りすぎて、言いたいことも言えずに悶々とすることが多い。国際会議にあっては、この修練不足がたたって、言い負けてしまう。このゼミを通じて、議論の仕方を学んで欲しいと思う。ここでいう議論の仕方というのは、周囲の人の理解を得ながら、どうやって自分の意見を主張していくかである。周囲と意見が合わないとき、自説を主張すると、周囲の反感を買いがちであるが、この問題をどのように解決していくのか、各自で考えていきたい。2)ジャーナリスティックではなく経済理論に基づいた論理的な思考を身に付けてほしい。3)英語の習得に前向きな学生を歓迎する。

3. 選考について

①募集人員:8名程度
②選考内容:Ⅰ、レポート課題 1日本はバブルに向かっているか 2好ましい投資先の国とその業種 3仮想通貨が日本経済に与えた影響 以上から一つ選択して2000～4000字で論じよ。(2017年度の例2018年度は変更の可能性あり) Ⅱ、面接 Ⅲ、成績表面接時持参(参考程度)

③他学部入ゼミ:可

PEARL生入ゼミ:可

④レポート、面接による総合的な評価

4. ゼミ員構成

4年生:男子6人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子6人、女子3人
(他学部0人、留学中3人)

5. 活動紹介

①ゼミ(金曜4.5限)

輪読 グループディスカッション

②サブゼミ(曜 限)

なし

③パートゼミ

春学期は国際金融についての本を輪読・プレゼンし、またそれとは別に金融や社会問題(少子化対策や所得格差是正など)について毎回一つテーマを選びゼミ員でディスカッションを行います。秋学期は三田祭論文やISFJ(日本政策会議)の論文発表、東大・一橋とのインゼミを行います。議論を通じて、自分達で疑問点を見つけ、考える力や本質を見抜く力を身に着けることを目的としています。少人数であるため、発言やプレゼンを行う機会が圧倒的に多く、自分を成長させる機会が多く得られることが出来ます。

④インゼミ

12月に一橋大学と東京大学

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

あり。班に分かれて論文を執筆します。

⑦夏休み

論文準備。

⑧合宿

新歓合宿(5月)、論文合宿(10月)。

⑨ゼミ必修授業

国際金融論a,b

⑩経費

合宿と諸経費含め、2万円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

日吉: (、 曜 限)

三田: 国際金融論a,b(春、水、金曜3限)

8. ゼミHP・SNS

<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/sakuragawa/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 柳沼 祐亮

(yusuke.yagi703@gmail.com)

入ゼミ担当 宮代 玲(38460boy@keio.jp)

駒形哲哉研究会

—東アジア・中国経済論—

1. 研究分野

皆さんが生まれる何年か前に、中国は市場経済の道を本格的に歩み始め、皆さんが生まれてしばらくすると、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになりました。その後、巨大な国内市場も注目されるに至り、そして現在、中国はモノだけでなくカネの面でも影響力を持つようになってきました。

中国はGDP総額では世界第2の経済大国となり、中国の経済変動が、先進諸国をはじめ世界の経済に対し、大きな影響を及ぼすようになってきました。もはや中国と付き合い合うかどうかを好き嫌いで決められる段階ではありません。今や中国国内で発生する様々な問題が世界経済のリスクとなる可能性も高まっており、最近ではアメリカとの「貿易戦争」の影響が世界経済を揺さぶっています。

日中両国はよく「一衣帯水の隣国」と表現されますが、隣国だから考え方が似ていると思うのは全くの誤りです。中国が国際社会でとる行動を理解するには、その政治経済体制や人口・市場の大きさ、多様性・階層性がもたらす固有の発展のあり方を、歴史的過程とあわせて把握する必要があります。しかし、中国は研究トピックの宝庫で興味は尽きません(研究会のHPで卒業生の卒論テーマを見てください)。また、当ゼミは中国に進出する日本の中小企業のフィールドワークも行っていますが、この作業は、私たちが暮らす日本の経済・産業・企業の可能性と課題を理解する最高の機会となっています。なお、当研究会の目標は「中国通」の養成ではないことを予め強調しておきたいと思えます。

2. 学生への要望

・研究会の活動を最優先して、積極的に参加する意欲のある方のみ参加を許可します。個人、グループ、全体での活動に、かなりの時間を要するので、とにかく研究会を最優先できることが第1条件です。

・研究の必要上、第二外国語などで中国語を学んだ経験があるか、もしくは中国語を学ぶ意思のある方を歓迎します(ただし、入会の必要条件ではありません)。
・台湾経済・中台兩岸経済・中国を視野に入れた東アジア経済の研究を希望する方も受け入れます。

3. 選考について

① 募集人数

10名以内(AB両日程合計)

② 選考内容

・志願書の内容についての面接
・自分の設定したテーマによるプレゼンテーション(5分程度)、質疑応答

③ 他学部入ゼミ:可

PERL生受け入れ:可

*ただし、経済学部AB生と全く同じ条件で参加することが必要になります。

④ 選考基準

中国経済(または台湾・兩岸経済)を中心とする東アジア経済の研究を通じてさまざまな問題を探究していく意識と研究会活動を最優先して参加する意欲の有無。

4. ゼミ員構成

4年生:男子8人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子8人、女子3人

(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4,5限)

春学期は南亮進、牧野文夫著『中国経済入門[第4版]2016年』をテキストとして輪読を行います。具体的には、各章を分担して報告し、報告内容をめぐって論点を抽出します。提起された問題点については、さらにグループ議論→全体議論という段階を経て、理解を深めています。報告者だけでなく、ゼミ員全員の積極的な発言・参加が求められます。

秋学期は卒業論文に向けた個人研究の報告をめぐって春学期と同様の流れ

で議論し、研究の内容について理解を深めるだけでなく、自分とは異なる研究領域についても議論を深める方法を学んでいます。

② サブゼミ(水曜4限)

パートゼミ(後述)の作業を中心としたつつ、必要に応じて、春学期は本ゼミでの輪読報告資料のチェック、秋学期は三田祭論文の準備作業などを行っています。

③ パートゼミ

マクロパートとマイクロパートの2パートに分かれ、主にサブゼミ内で作業を行っています。マクロパートは中国経済の分析レポートを毎月作成し、一般財団法人霞山会のウェブサイトで公表しています。当該記事については「中国 マクロ」と検索すれば最初にヒットするので是非ご覧ください。マイクロパートは課外で企業訪問ヒアリングを行っています。アポ取りから記録作成まで学生の力で進めています。

④ インゼミ

今年度は、11月に獨協大学とのインゼミを実施します。例年は学習院大学ともインゼミを行っています。

⑤ 課外活動

サブゼミの時間や課外の時間を用いて中小企業を中心としたヒアリングを精力的に行っています。今年度は春学期だけで15社以上のヒアリングを行いました。

⑥ 三田祭

三田祭では例年論文発表を行っています。これまで銀賞(28年度)、銅賞(27年度)を受賞しています。昨年は次点でした。

⑦ 夏休み

夏休みは個人研究と三田祭論文・懸賞論文などのチームで作成する論文の作成作業がありますが、その中で、学生はインターンや他団体のイベント、バイトなどにも精力的に参加しています。

⑧ 合宿

9月の中旬に2泊3日で合宿を行っています。今年度は草津で行いました。

合宿では個人研究報告と三田祭論文等のグループ論文の中間報告を行います。作業はかなりの分量になりますが、やり遂げた充実感は他では得られないものです。今年はバーベキューなども楽しみながら、有意義な合宿を行うことができました。

⑨ ゼミ必修授業

経済体制論a/b

⑩ 経費

年会費は基本的になし
合宿費30000円(本年度)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日経テレコン(日本経済新聞のデータベース)

RIETI(独立行政法人経済産業研究所)HP

7. 先生が担当している講義

日吉：①マルクス経済学Ⅰ・Ⅱ、②フィールドワーク論(月曜①2、②4限)

三田：経済体制論(火曜1限)

8. ゼミHP・SNS

HP

<http://komagataseminar.strikingly.com/>
Twitter

https://twitter.com/komagata_2018

白井義昌研究会

—国際経済学—

1. 研究分野

国際経済学(国際貿易, 開放マクロ経済, 国際金融といった分野)の研究トピックスについて3年生はグループ研究, 4年生は卒業論文を作成することを目標にする。3年生のグループ研究の成果は12月に他大学(一橋大学経済学部石川城太研究会、東京大学経済学部古澤泰治研究会、筑波大学国際総合学類黒川義教研究会)との合同発表会にて英語で発表する。そのため英文研究報告書を作成することになる。研究アプローチは次のとおりである。国際経済問題を資源配分問題としてとらえ、その経済問題を議論する材料として科学的な問い(Scientific Question)を設定する。適切な理論分析と実証分析を行ってその問いに答える。

研究会の年間スケジュールはおおよそ以下のとおりである。春学期前半に本ゼミ(水曜日4, 5時限)では、実際の英文学術論文を輪読解説することで、研究論文での問いの設定方法、またその問いにどのようにアプローチしているかを学ぶ。その過程で論文の読み方、発表の仕方も学ぶ。平行してサブゼミ(水曜日4, 5時限以外に1コマ設定)にて国際貿易と国際金融についての教科書輪読をして国際経済の基礎知識を学ぶ。経済学者が国際経済の問題についてどのように考えるかを知る事は研究を行ううえでとても重要である。どのような研究をするにせよまずは標準的な考え方を参考にし、それに対する疑問することで研究の設問を設定するからである。

春学期後半に3年生は研究グループを作り、各グループ研究の研究トピックスと先行研究論文の選定と発表を行う。4年生は卒業論文で扱うトピックスについての先行研究論文について発表を行う。この過程で研究グループ研究での共同研究(4年は卒業論文)での科学的な問いを見いだすための研究作業をなるべく明確にする。そして夏休み中の作業計画を建てる。夏休みの最後に開催する合宿では夏休みの研究作業報告を行う。秋学期は共同研究の研究

課題の明確化とそれに答えるための作業結果の精査と繰り返し行い、結果の整理を行う。秋学期半ばから後半にかけて研究結果を実際に報告書にするために推敲する。まずは研究内容のスライド作成が第1目標になる。それに基づいて報告書の作成をする。報告書の作成は学術論文のフォーマットにならう。(卒業論文作成も同様)

12月は研究発表会の準備と発表を行う(卒業論文発表を本ゼミで行う)。

1月は卒業論文作成にむけてトピックス選定と先行研究文献表の作成を行う。卒業論文トピックス選定理由と文献表の提出が課題である。(4年は卒業論文の最終稿提出)

2. 学生への要望

国際経済に関することであれば研究トピックスの選択は学生の自由意志にまかせたいと考えている。自ら積極的に問題を見つけてその問題にどうアプローチすればよいか相談してほしい。研究をする際に、結論を出す事を急ぐ学生が多いが、まずは先行研究を謙虚に学ぶ姿勢を持って欲しい。そして何事にも好奇心を持って欲しい。

3. 選考について

- ① 募集人数: 12名程度
- ② 選考内容
マイクロ・マクロ経済学の内容を英語で問う筆記試験、面接
- ③ 他学部入ゼミ: 不可
PERL生受け入れ: 可
- ④ 選考基準: 筆記試験50%、面接50%

4. ゼミ員構成

4年生: 男子15人、女子10人
(他学部0人、留学中1人)
3年生: 男子9人、女子8人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4, 5限)

3, 4年生で行います。春学期前半は英語の学術論文を輪読し、プレゼンテーションをする事で国際経済全般の知識をつけ国際貿易・国際金融について学びま

す。春学期後半からは3年生は主に国際貿易、国際金融、開発経済のテーマ別に班をつくり三田論に向けてグループ研究をします。4年生は卒論に向けて研究経過を発表し白井先生やゼミ生からの指導とフィードバックをもらいながら進めていきます。

② サブゼミ(月 曜4,5限)

3年生だけで行われます。英語の教科書を輪読、プレゼンします。International economicsという国際経済の教科書を扱います。サブゼミでは本ゼミで扱う高度な研究論文を理解するための基礎知識を身につけます。

③ パートゼミ

国際貿易、国際金融、開発経済のパートごとに班わけをします。各々の班で適宜集まって研究や作業をし、三田論を執筆していきます。

④ インゼミ

例年12月に慶應義塾大学の木村ゼミ、一橋大学の石川、古澤ゼミ、筑波大学の黒川ゼミと合同で研究発表会を行います。英語でプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。

⑤ 課外活動

特になし

⑥ 三田祭

本ゼミで進めてきた三田論の提出とブースを設営し論文の発表を行います。

⑦ 夏休み

3年生は三田論の班で適宜集まり研究を進めます。4年生は卒論の研究を進めます。白井先生のアドバイスをいただきながら研究内容の方向性を次第に決めていきます。

⑧ 合宿

新歓合宿(4月): 今年河川湖にて1泊2日でほうとう作りをしました。またソフトボール大会に向けて練習をし、様々なアクティビティを通じて3,4年生の仲を深めます。

夏合宿(9月): 今年2泊3日で筑波に行きました。3年生は三田論の中間発表、4年生は卒論の中間発表を行います。

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

年会費:1500 円

合宿費:1 万 5000 円 (新歓合宿)、
2 万円 (夏合宿)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

演習ミクロ経済学 武隈慎一著

クルーグマンマクロ経済学 ポールクルーグマン著

7. 先生が担当している講義

日吉: マクロ経済学初級 I(木曜1限)

三田: マクロ経済学中級1b(水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

<https://shiraizemi2014.jimdo.com>

竹森俊平研究会

—国際経済—

1. 研究分野

三田で教えている専門科目の科目名は「世界経済論」。古き良き時代の遺物で、いまならこんないい加減な科目名は大学が認めない。経済のことなら何を話しても「世界経済論」になるのだから、何でも話してもいいことになる。教員にとってはまことに好都合だ。

篠原三代平という昔の偉い先生からよく、「竹森君は、どうせ、また面白おかしく本に書くんだろうから」とからかわれた。友人の早稲田大学、若田部昌澄教授（現在、日銀の副総裁をしている）からは「日本の経済学者の中でストーリー・テリングの第一人者」という評価を頂いた。友人の評価だからアテにはならないが、気に入っている。そう、筆者の専門は「経済がテーマのストーリー・テリング」である。

経済事件は毎日、無数に起こっている。一連の事件を抽出し、その背後にある「ドラマ」を見つけ、面白おかしく語る。そういうと、他の「真面目な経済学」をしている先生とまるで違うことをしていると思うかもしれない。そんなことはない。

たとえば真面目な経済学の代表、「経済理論」とは、いくつかの仮定を数式の形で提示し、その仮定の間には葛藤や融合を引き起こすことによって「クライマックス＝結論」を論理的に導き出す仕組みである。数人の登場人物の葛藤や融合により、時には「悲劇」、時には「喜劇」が論理的に導き出されるドラマの仕組みと少しも変わらない。

二点補足する。

(A.)「幸福な家庭はどれも同じように退屈なものだが、不幸な家庭はみな特有だ」というトルストイの言葉からも分かるように、不幸な経済事件、すなわち「経済危機」はドラマとして面白い。したがってゼミでは必ず経済危機をテーマに取り上げる。

(B.) 以上のことを読んで、ストーリーなら自分でも語れる。ミクロ、マクロを勉強して損をしたと思う学生がいるかもしれないが、そんなことはない。ドラマは世の中の動きが「規則性」から乖離する瞬間に生じる。その瞬間にドラマを発見できるためには、ミク

ロ、マクロを徹底して勉強し、「規則性」の感覚をまず身に着けなければならない。

2. 学生への要望

本ゼミでは選考に当たり面接はしない。その代わりに、延々とした、長時間の筆記試験を課す。毎年5時間くらいはやり、がっちり文章を書いてもらっている。かならずミクロ、マクロの経済学に関連した問題が出るので、ミクロ、マクロは死ぬほど勉強しておくこと。

面接なしで、学生の「やる気」や「性格」が分かるのかという質問を受ける。やる気を確かめるのに面接は必要ない。がっちり文章を書かせれば「やる気」も、「性格」も、「知識」、「分析力」と一緒にすべて文章に出てくるからだ。

日吉でミクロやマクロの点が悪かった、統計もダメだった、それでもいいかといった質問も受ける。日吉のことはいい。しかし、三田ではミクロも、マクロも、統計も、死ぬほど勉強してもらおう。さらに世界史も、日本史も。「この科目はダメ」と、自分で自分に限界を設けるような学生は、伸びるわけがないから付き合わない。

3. 選考について

(ア) 募集人員 18名

(イ) 選考内容 筆記試験 英文で経済に関する文章を読んで解答してもらおう。その際、ミクロ、マクロの経済学知識が絶対に必要。試験時間は5時間くらい。

(ウ) Pearl Students? Yes, there are already 3 Pearl students in my seminar. They are very good. I welcome you in my next years' seminar too.

④ 選考基準 当たり前だが、試験成績優秀な者を選ぶ。

4. ゼミ員構成

4年生:男子11人、女子7人
(他学部0人、留学中1人)
3年生:男子6人、女子8人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜 4,5 限)

本ゼミでは、竹森先生の専門分野である国際経済を時事的な視点から、輪読、プレゼンテーションを通じて研究しています。2018年度春学期は教科書(Gorton, Misunderstanding Financial Crises)を読み、秋学期はインゼミでの発表に向けての準備を中心に行なっています。

② サブゼミ(木曜 4,5 限)

必要に応じて開かれ、インゼミの文献を絞り研究し準備します。

③ パートゼミ

なし。

④ インゼミ

※全てに参加する必要はありません。

- ・Global Partnership of Asian College (GPAC, 開催地未定)
- ・北海道インゼミ(9月)
- ・関西インゼミ(1月)
- ・韓国インゼミ(11月)

インゼミで発表する内容はゼミ生で決めます。

⑤ 課外活動

なし。

⑥ 三田祭

秋学期にインゼミが集中しているため、そちらに専念し、三田祭論文の発表はありません。

⑦ 夏休み

例年 GPAC が8月に開催されます。

⑧ 合宿

インゼミで遠出するほか、新歓合宿があります。

⑨ ゼミ必修授業

なし。先生が三田で開講している授業がいくつかあるのでおすすめです。

⑩ 経費

インゼミ費用

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

竹森教授の著書、日本経済新聞。

7. 先生が担当している講義

三田 :

International Finance B (春・火曜 2 限)
The Japanese Economy from an International Perspective (秋・火曜 2 限)
世界経済論 a/b (春秋・水曜 3 限)

8. ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/takemori/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 関川なつみ
(ad13nsek@uwcad.it)

入ゼミ担当 江藤祐実
(yumieto.0402@gmail.com)

秋山裕研究会

—経済発展論・計量経済学—

1. 研究分野

経済発展論は、国際経済分野の1つです。国際経済分野は、グローバルな経済のシステムを、構造的かつ総合的に扱う分野です。その中で、経済発展論は、一国が途上国から先進国まで発展するメカニズムに焦点を当て、人々の幸福度や所得水準、および生産性の向上に関する諸理論とそれらを用いての政策論を中心とした領域になります。国や地域は限定されず、研究にあたっては、国際比較が多用されます。

当研究会では、「経済発展」をテーマとした研究を「計量的分析」を活用しながら行うことを基本としています。「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはとても言えません。経済発展を促進するために我々は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

現実の経済問題を課題とするため、実証分析が不可欠です。研究の対象とする国・地域がどのような「経済構造」になっているのかを「経済理論」に基づいた経済モデルによって明らかにし、それを手掛かりとして具体的な経済政策を立案していきます。

経済発展論については、『経済発展論入門』(秋山裕著)東洋経済新報社、をざっと読まれるのもよいでしょう。

ゼミでは三田祭論文の作成などを通じてグループで論文作成について学び、それを基礎に個人で卒業論文を作成していきます。

三田祭には毎年参加していますが、三田祭論文の研究テーマは経済発展に関するものであり、その年の3年生を中心に決定します。その際にはゼミ員全員で取り組むに値するテーマ(これまでは、貯蓄、政府、格差、雇用、震災、デフレ、グローバル化など)を選定しています。

卒業論文のテーマは、経済発展に関連し、計量的手法を用いながら分析するものならばどのようなテーマでも構いません。研究対象とする国や地域が限定されることもありません。

研究会は、大学生としての学問の研究成果を卒業論文の形でまとめる場であり、小人数のグループで様々なやり取りを繰り返しながら関心分野について効率的に研究する場です。研究会活動を通じて、互いに切磋琢磨してもらえたらと思います。

2. 学生への要望

経済発展論で用いられる理論や分析手法について、前もって勉強しておく必要はありません。

経済発展論で用いられる理論については、日吉で、「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。

計量的分析を行うにあたっては、「統計学」が必要となります。ゼミでの活動は、計量経済学概論の履修を前提とするものではありません。日吉で「統計学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。

また、計量的分析の際にコンピュータを活用しますが、あらかじめ特別な技能を学ぶ必要はありません。必要となる技能はゼミでの活動の中で自然に身につけていきます。

資料・文献にあたるための英語能力が必要となる場合がありますが、日吉で必修単位が履修済みならば問題ありません。経済発展論は現実の問題を考える領域ですので、書物や新聞などを通じていろいろな問題意識を持っておいってください。

入会にあたって特別に優遇する項目などはありませんが、ゼミでの活動はグループ活動が基本となりますので、自分が持っている優れた面があれば、それを研究会全体の活動に生かしてくれればと思います。

3. 選考について

①募集人員:A日程10~15名、欠員が生じた場合のみB日程を実施。

②選考内容:筆記試験2科目(マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、英語から2科目を事前に選択)と面接。

筆記試験(2科目計60分)は各科目から10問ずつ基礎的な理解を問う問題を出題します。解答形式はMultiple choiceを予定しています。

面接は1人15分程度。面接にあたっては、成績表と、事前に記入してもらう面接用資料を、参考として提出してもらいます。また、これまでの成果(学業に関連するものであれば科目・分野などは問いません)があれば、A4で1枚に要約して提出することが出来ます。

③選考基準:選考は学力、意欲、集団での学習における適応力の総合判断です。ゼミの学生が選考に関与することはありません。

4. ゼミ員構成

3年生10名(男8名、女2名)

4年生9名(男7名、女2名)

5. 活動紹介

① 本ゼミ(火曜4~5限)

春学期は、経済発展に関する文献の輪読を行います。今年は『実証から学ぶ国際経済』清田耕造・神事直人著、『ストーリーで学ぶ開発経済学』黒崎卓・栗田匡相著を輪読しました。毎週2人1組の発表者がテキストの内容を解説し、さらにその内容に関する実証分析の発表を行います。

秋学期は三田祭に向けての発表やそれに関する議論を中心に行います。三田祭後には、卒業論文の中間発表を行うとともに、他の文献についても見識を深めます。

② サブゼミ(金曜5限)

秋山先生のご指導のもと、計量分析について学ぶとともに、学外のコンテストに向けた準備も行います。PCでExcelなどの基本操作を学び、回帰分析や産業連関分析の手法、三田祭論文でのパネル作成に必要なPowerPointの操作も習得します。また、3~5名程度のチームに分かれて、日本経済新聞社主催の全国学生対抗円ダービーや日経STOCKリーグに参加し、それらに関する発表・討論を行います。

③本ゼミ・サブゼミ以外の活動

・オフィスアワー

このゼミの特徴の1つとして週2コマ分のオフィスアワーが設置されています。そのため秋山先生に積極的に質問でき、輪読、三田祭論文、学外コンテスト、卒論の準備を円滑に進めていくことができます。

・日経円ダービー

円ダービーでは翌月の為替レートの予測を行うため、基本となる理論を学んだ上で、独自の予想方法を考えていきます。

・日経STOCKリーグ

STOCKリーグでは株式運用について学んだ上で、チーム内で議論を行い投資テーマを決め、独自のポートフォリオを構築していきます。

・最近の実績

毎年、学外のコンテストに参加し、これまで数多く、入賞しています。円ダービーでは、2010、2012、2013、2014、2018年に優秀賞を、日経STOCKリーグでは、2008年と2011年に敢闘賞を受賞しています。

・OB・OG会

ゼミのOB・OGとの交流も盛んで、毎年10月にOB・OG総会も開催しています。

※例年、パートゼミは設置していません。ただし、三田祭論文の作成にあたって、期間限定パートゼミにあたるグループを編成し、作業を行います。

※また、インゼミについても例年行っていません。これはそれに代わるものとして学外コンテストに参加しているためです。

④三田祭

3年生を中心に全員で1つのテーマに関する論文を作成し、三田祭で発表します。現実の問題に学生らしく果敢に取り組むとともに社会に通用する水準を持った研究内容も兼ね備えた発表を目指しています。

⑤夏休み

基本的にはグループ単位で三田祭論文を進めていきます。各々のゼミ以外の活動も尊重するため、全員で集まるのは合宿のみです。

⑥合宿

夏休み(例年、8月下旬あるいは9月上旬)に三田祭論文の中間発表を行うと

ともに、スポーツなどのリクリエーションを通じてゼミ員間の親睦を深めます。

⑦授業

秋山先生の担当科目である『経済発展論a・b』は必ず履修します。

⑧経費

輪読文献費、レジュメの印刷代、合宿費、三田祭参加費などです。

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

筆記試験は基礎的な理解を問う問題で構成されているので、難易度の高い特別な参考書は必要ありません。筆記試験の出題範囲および出題例については、ゼミのHPに掲載しています。

7. 先生が担当している講義

統計学 I・II (日吉、水曜日3,4限)

計量経済学概論 (日吉、春学期月曜日3限)

経済発展論a・b (三田、金曜日3限)

8. ゼミHP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/zemi/index.html>

9. 連絡先

外ゼミ代表 伊藤 豊

入ゼミ担当 汝 亦驍

永井 裕太郎

※入ゼミ担当は男女各1名が担当しています。お気軽にご相談ください！

經濟史

飯田恭研究会

太田淳研究会

神田さやこ研究会

中西聡研究会

松沢祐作研究会

飯田恭研究会

—農村・林野の比較史(経済史・社会史・環境史)—

1. 研究分野

本研究会の課題は、農村・林野の歴史(経済史・社会史・環境史)を、世界の様々な地域を比較しながら研究していくことである。ヨーロッパ(特にドイツ語圏)と日本が中心的な考察対象となるが、絶えず世界史的な文脈を意識することにしたい。

農村・林野の暮らしはそれぞれの地域の風土と不可分である。それぞれの風土に根ざしつつ、農村・林野にはその地域固有の文化・歴史が長い時間をかけて育まれてきた。それゆえ、農村・林野は、各々の地域の歴史経路を相互に比較しようとする研究(比較史研究)にとって、大変興味深い題材となるのである。

だが、その歴史をもはや過去のものだという人もいるかもしれない。たしかに、工業化にともない、人々は農村・林野を離れて都会に出ていった。日本では今や農山村は存続の危機に瀕してさえいる。だが、これは不可逆的な歴史なのであろうか？例えばドイツでは近年林業が好調で、脱原発の方針の下、人々は木材を燃料として使うかつての文化に少しずつ回帰している。日本でも近年、国内の食糧・木材自給率の低さを憂いつつ農業・林業の再生を説く人、地球環境問題を憂いつつ森林の価値を訴える人は少なくない。また議論にとどまらず、実際に農山村の生活に回帰する人、都会に居ながらにして小農園・屋上プランター農園を営む人も少しは出てきている。いずれにせよ、かつて長らく歴史の表舞台にあった農村・林野は、ひとたび後景に退いたのち、新たな形での復活を模索しはじめてもいるのだ。その際、我々は過去の人々の経験に何かを学ぶことはできないものであろうか？

担当教員の専門は、近世・近代(特に17～19世紀)のドイツ農村・林野史および農村・林野史の日独比較であり、この(あるいはこれに近接した)テーマに取り組む学生に対しては、特に専門的な指導が可能である。

2. 学生への要望

研究するということは、厳密に言えば、新たな「知」を生産する(オリジナルな論文を書く)ということである。だがそのためには、まず先人たちが蓄積してきた膨大な「知」(＝著書・論文)を、労を厭わず読み重ね、それを精確に理解しなくてはならない。さもないければ、何がオリジナルな「知」たりうるのかも分からぬからである。その上で、自ら原史料を読んでそれを分析し、そこから新しい知見を産み出さなくてはならないのである。

もちろん、学部生の段階でこのような厳密な意味でオリジナルな論文を書くことができればそれに越したことはないのだが、学部生にこの水準を求めるのはやや酷である。そこで求められる卒論の水準を次のように考えてほしい。

外国史を研究する人には、英文ないし研究対象地域の言語で書かれた最新の(あるいは日本で未紹介の)著書を読破し、それを日本の学界に向けて紹介する、というレベルの卒論を最低限求める。ドイツ語文献にチャレンジする人は特に歓迎する。ドイツ語が未習だが、ドイツ語の文献にチャレンジしたいという学生向けに、三田でもドイツ語初習クラスが開設されている。積極的に活用してほしい。

日本史を研究する人には、自分のテーマに関する過去の研究文献を読破した上で、できる限り史資料の分析に取り組み、独自の知見を産み出すことを求めたい。史資料解読の能力を養成するために、経済学部では、松沢裕作准教授によって「日本史史料講読」という授業が開設されている。これを履修することを強く薦める。

3. 選考について

①募集人数

6名程度

②選考内容

レポート・面接・成績表の提示

- ③他学部生の入ゼミ:可
PEARL生の入ゼミ:不可
- ④選考基準
レポート・面接・成績表から、研究を遂行していく上での前提条件(明瞭な問題関心・勤勉さ・経済史等の基礎知識)がととのっているかどうかを判断する。

4. ゼミ員構成

4年生:男子3人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子3人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4, 5限)

本研究会はドイツを中心としたヨーロッパと日本の森林史を特に扱っています。前期は先生が指定された文献を輪読し、内容について先生にコメントを頂いています。今年読んでいる文献としては、『環境の経済史』(齊藤修著)や『ドイツ林業と日本の森林』(岸修司著)です。森林は時代ごとの要望に応じて人間に様々なところで使用され色々なものを供給し、人間社会・環境に影響を与えています。森林などの自然環境・農林業に興味がある方はぜひ飯田ゼミにお越しください。

② サブゼミ(曜 限)

ありません

③ パートゼミ

ありません

④ インゼミ

12月に塾内の経済史・社会史系ゼミとインゼミを行い、三田祭論文の発表とディスカッションを行います。

⑤ 課外活動

ありません

⑥ 三田祭

3年生は三田祭論文コンテストに向け、論文作成に取り組めます。今年は1つの大きなテーマについてゼミ員全員で論文作成に取り組んでいます

⑦ 夏休み

三田祭論文に向けて、自主的に資料・文献を読み進めます。また、定期的集まり、手に入れた情報を共有することで、三田祭論文のテーマを具体的なものにしていきます

⑧ 合宿

夏合宿・新歓合宿共にありません

⑨ ゼミ必修授業

ありません

⑩ 経費

年会費・合宿費等は基本的に必要ありません。輪読文献を買う際は、自費での購入です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ課題が本の書評なので過去にゼミで扱った本をいくつか読むと知識が深まり面接でも話し合いが行いやすいかもしれません。

7. 先生が担当している講義

日吉：経済史入門(春水曜2限)

歴史的経済分析の視点(秋水曜2限)

三田：ありません(曜 限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter:@iidaseminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 野辺地葵
(cancan361298@keio.jp)
入ゼミ担当 伊藤誉将
(ysms3439@gmail.com)

太田淳研究会

—現代東南アジア経済および東南アジア経済史—

1. 研究分野

本研究会は、現代東南アジア経済および東南アジア経済史について研究しています。現代東南アジア経済については、近年の優れた研究を輪読して討論しながら、関心あるテーマについて自分で課題を設定します。ゼミ生は課題に従って文献調査と国内フィールド調査を行い、夏休みにはジャカルタでフィールド調査を実施して、その結果を三田論や卒論にまとめます。東南アジア経済史については、基礎的な知識を習得するために基本文献を輪読します。まだ歴史のテーマで論文を書いた学生はいませんが、希望者には英語やインドネシア語などの一次資料を読んで論文にまとめる方法を指導します。

本研究会の最大の特徴と魅力は、ジャカルタでフィールド調査(2019年度は11日間の予定)を行うことです。3年生は4人1組でグループ研究を行い、4年生はテーマに合わせて個人またはグループで研究を進めます。各グループおよび個人で研究計画を作り、国内予備調査も行います。計画を練り上げるために他のゼミと合同報告会を開催し、東南アジアを研究する学生や教員の前でも報告します。フィールド調査期間中は、ジャカルタの経済的に未開発の地域(カンポン)に、全員で合宿します。通訳の手助けを得て周囲の住民に聞き取りやアンケートを行います。フィールド最終日には、インドネシア大学の学生や教員の前で調査結果を報告します。

フィールドで集めたデータは、さらに秋学期を通じて分析し、全員で議論しながら論文にまとめていきます。関連する文献資料や先行研究もさらに調べます。この段階でも合同ゼミ報告会を設け、外部からフィールドバックを得ます。こうして3年生は三田論を作成し、4年生は卒論を完成させます。

2. 学生への要望

学生には、自分でテーマを見つけ出す主体性を強く持ってもらいたいと思います。また、自分の考えを積極的に表明し、他人の

意見に対してもどんどんコメントしてほしいと思います。太田淳研究会は、「何かを教えてもらう」ところではなく、自分が夢中になれるものを見つけ出し、互いに刺激し合って高め合う場だと思って下さい。

この研究会では、現地社会に足を踏み入れ、人々がどのように暮らし、どのように経済と関わっているかを理解することを重視しています。学生には、文献からだけでなく、人々から実際に話を聞くことによって、現代の東南アジア社会で何が起き、何が問題であるのかを自分でつかみ取れるようになってほしいと思っています。

いい研究を進めるためには、学生の意見に応じてゼミ活動計画も学期中に何度も見直します。意見を出し合って、自分たちでいい研究会を作り上げる意識を持ってほしいと思います。

3. 選考について

- ① 募集人数
10-12人
- ② 選考内容
課題レポート、面接、成績
- ③ 他学部入ゼミ:可
PERL生受け入れ:可
- ④ 選考基準
課題レポートと面接を重視します。意欲、問題関心、積極性などに基づいて選考します。

4. ゼミ員構成

4年生:男子6人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子7人、女子5人
(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(火曜4,5限)
今年度は9月に行われたインドネシア研究調査、11月の三田論発表に向けて4月から3グループに分かれて取り組んできました。ゼミでは主に輪読と新聞記事報告を行っており、様々な議論を交わ

しています。国際交流の機会がとても多く、ゼミ生一同楽しく異文化交流を深めています。

② サブゼミ(曜 限)

③ パートゼミ

④ インゼミ

SFCの野中研究会と実施予定

⑤ 課外活動

インドネシアでの研究調査、その他日本国内での調査

⑥ 三田祭

3年生3グループによる論文発表

⑦ 夏休み

インドネシア調査

⑧ 合宿

⑨ ゼミ必修授業

インドネシア語、アジア経済史

⑩ 経費

自費でのインドネシア調査

6. ゼミ試験対策で使用した参考書
試験なし

7. 先生が担当している講義

日吉：経済史入門Ⅱ(月曜5限)

三田：ECONOMIC HISTORY OF ASIA
A(火曜4限)

8. ゼミHP・SNS

<http://otaseminar.asia/our-team/>

9. 連絡先

外ゼミ代表

石井美汐(3shio7mi7ho@gmail.com)

入ゼミ担当

荒木田雄大

(ota.nyuzemi2018@gmail.com)

神田さやこ研究会

—アジア経済史—

1. 研究分野

アジア経済史。教員の担当が南アジア(インド、バングラデシュなど)なので、南アジアに関する研究が中心となる。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび現在の南アジア経済・社会が抱える諸問題(エネルギー・環境、貧困・格差、女性など)を理解するうえで重要な歴史的背景やそのなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について、長期的視点にたった研究をおこなう。ただし、他のアジア地域に関心がある学生や、経済史以外の歴史分野(文化・芸術、経営、環境など)も歓迎する。

本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので、各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。3年生の春学期には、(1)基本文献の輪読と討論を通じて、基礎知識および研究の基本的フレームワークを習得し、(2)三田祭発表用共同研究の課題を設定する。夏休み中には、その課題に基づいて多くの文献を読み、皆で議論し、研究を進める。秋学期には、(1)三田祭発表にむけた報告・討論をおこない、論文を完成させる。三田祭後、(2)具体的な卒業論文のテーマを設定し、研究に着手する。4年生は個別に卒業論文の執筆を進め、ゼミでは研究や議論をリードする役割をになう。

2. 学生への要望

アジア地域に関心をもち、積極的に課題に取り組むことができる意欲的で主体的にゼミ活動ができる学生の参加を期待します。卒業論文作成に向けての約2年間、英文を中心に多くの文献を読み、議論し、報告し、書いてもらうことになるので、そのつもりで参加してください。

3. 選考について

- ① 募集人数: AB合わせて10名程度
- ② 選考内容: レポート、成績、面接
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PEARL生受け入れ: 原則不可(希望者は教員に直接相談)

- ④ 選考基準: レポートを重視し、成績と面接を合わせて総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

- 4年生: 男子5人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子5人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4・5限)

神田ゼミではインドを中心とした南アジアの経済史について研究を進めています。具体的には、アジア地域の経済発展のダイナミズムおよびその経済・社会が抱える問題を理解するため、洋書・映画等の資料を用いた輪読や討論を通じてその歴史的背景や社会的・文化的特徴について理解を深めています。当ゼミは2016年度より募集を再開した経緯より、ゼミ員各自にテーマに対して積極的に取り組む高い自主性を求めます。ここまでで当ゼミに疑問や興味を持たれた方、どうぞお気軽にお問い合わせください!

② サブゼミ(曜 限)

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

12月4日に実施予定

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

3年生は三田祭論文を発表

⑦ 夏休み

特に活動なし

⑧ 合宿

なし

⑨ ゼミ必修授業

アジア経済史a(春・火曜1限)

⑩ 経費

2000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

日吉：経済史概論Ⅱ(水曜4限)

三田：南アジア経済史b(火曜1限)

8. ゼミHP・SNS

なし

9. 連絡先

外ゼミ代表 松崎哲史(hulk9819@keio.jp)

入ゼミ担当 乗松俊介

(norimatsu.shunsuke@docomo.ne.jp)

中西聡研究会

—近世・近代日本経済史—

1. 研究分野

本研究会では、19世紀から20世紀前半の日本経済を対象とする。その際、実証的研究を重視し、先行研究の書籍のみならず、統計資料・古文書など具体的な資料を利用して研究を進めることを期待します。もちろん、統計資料の扱い方や古文書の読み方は教員が指導しますので、技術的な予備知識は特に求めません。ただし歴史に強い関心をもって研究しようとする意欲のある方を望みます。

研究会の進め方は、文献講読と個別研究報告を組み合わせで行います。春学期は日本経済の歴史に関する基本的文献を輪読し、秋学期は個別研究報告を中心に進めます。希望者には、基本的文献よりやや難しい専門書を読むサブゼミも開いています。3年生は、関東の他の大学とのインターゼミを実施していますので、三田祭発表に参加するとともに、インターゼミでも報告してもらいます。また、博物館見学・資料館見学なども行い、そのなかで4年生に卒業論文として「完成」させる研究テーマを選んでもらいます。

研究テーマは、18世紀から第二次世界大戦後の高度成長期までの日本における経済に関するものであれば何でも構いません。もちろん、4年生にはその研究テーマについての先行研究のフォローや自らの分析結果を含めて、より具体的な報告を求めますので、自分が本当に研究したいテーマを選んで下さい。

参考までに、教員の研究テーマは、近世(江戸時代)～近代(特に明治・大正時代)における日本の市場構造、商家経営や消費生活に関するものであり、代表的な著作として、中西聡『近世・近代日本の市場構造』(東京大学出版会、1998年)、中西聡『海の富豪の資本主義』(名古屋大学出版会、2009年)、中西聡『旅文化と物流』(日本経済評論社、2016年)があります。

教員の研究スタイルとして、日本各地の旧家を訪れ、その蔵に所蔵されている古文書を長い時間かけて整理させていただ

き、それらを解読・分析して論文にまとめるという地道なフィールド・ワークを行っています。そのため、これまでに日本のかなりの地域を調査して巡ることになりました。趣味は鉄道です。また推理小説も愛読しています。

2. 学生への要望

本研究会では、研究分野から考えて、根気と行動力が求められると思います。前述のように、東京近郊の現地調査(博物館・資料館巡り)を研究会メンバーと一緒にいきますので、真剣に歴史研究をしたい方にはお勧めの研究会と言えます。ただし、期待した資料にすぐ出会えるわけではありませんので、卒業論文作成のためには、粘り強さが何よりも求められます。とは言え、そうした粘り強さは、学生諸君が社会人になった際に、必ずプラスになるでしょう。なお、研究分野から考えて、卒業論文の作成にかなりの時間が取られると思われるので、卒業に必要な単位を順調に修得しており、3・4年次は、研究会での研究にそれなりの時間を割くことの可能な学生を望みます。

3. 選考について

① 募集人員: 10～12名程度

PEARL生は受け入れておりません。

他学部生は受け入れ可能です。

② 選考内容: レポート、面接、成績表

をもとに総合的に判断します。

* 他学部志望者も同様の選考内容で行います。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子7人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

3年生: 男子10人、女子1人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4, 5限)

私たち中西研究会では日本経済史を勉強しています。春学期は『経済社会の歴史 生活からの経済史入門』(中西聡著)を輪読し、その後インゼミや三田祭で出す論文の準備に取り掛かかります。他大学とのインゼミでは、明治大学、高千穂大学、駒澤大学と共に研究発表をおこなう予定です。それと並行して楽しいフィールドワークもあります！またこの研究会は水曜4, 5限以外のサブゼミもパートゼミもないため、サークル活動や資格受験、体育会との両立も無理のない範囲で可能です！和やかな雰囲気の中西研究会にぜひ足を運んでみてください。

② サブゼミ(曜 限)

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

今年は明治大学、高千穂大学、駒澤大学と共におこなっています。

⑤ 課外活動

フィールドワーク(歴史資料館訪問など)

⑥ 三田祭

三田祭論文を発表します。

⑦ 夏休み

活動なし

⑧ 合宿

なし

⑨ ゼミ必修授業

必修ではありませんが、ゼミ生の多くが中西先生の日本経済史(金曜3限)を履修しています。

⑩ 経費

フィールドワークで訪問する博物館の入場料など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『日本経済の歴史 列島経済史入門』中西聡著

入ゼミ課題は「これまで日本経済史で勉強してきたこととこれから勉強したいこと」を題材とした2000字程度のレポートと面接です。この中西先生の本を読んで自分がどの分野を研究したいのかを考えておくといいでしょう。

7. 先生が担当している講義

日吉：経済史入門Ⅱ(水曜2限)

三田：日本経済史a/b(金曜3限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter:@nakanishi_zemi

9. 連絡先

外ゼミ代表

金野慎太郎(konno@keio.jp)

入ゼミ担当

土志田綾也(ryo-doshi@keio.jp)

松沢裕作研究会

—(日本社会史)—

1. 研究分野

この研究会では、日本の近世・近代社会(19世紀・20世紀前半の日本社会)のあり方を取り扱う。

本年度春学期は奥須磨子・羽田博昭編著『都市と娯楽』(日本経済評論社、2004年)の輪読と、長野県の一農民の日記『胡桃澤盛日記』の輪読をおこなった。胡桃澤日記は来年度以降も継続して読んでゆく予定である。その後は三田祭論文に取り組んでいる。三田祭論文の共通テーマは「近代日本の娯楽施設」となる予定である。

ゼミナールの最終目標は、各自が自らのテーマを設定し、一次史料に基づく卒業論文を執筆することである。

卒業論文テーマの設定は自由であるが、その研究方法は歴史学的なものであることが求められる。

担当者の研究については
http://researchmap.jp/yusaku_matsuzawa/
を参照していただきたい。

2. 学生への要望

経済学部生の皆さんは、これまでの学習を通じて、経済学のさまざまな理論やその現実への応用について学んでこられたものと思う。経済学の理論の明晰さ、またそれによる現実の分析の鋭利さは、人間が、自分たち自身の社会を理解するうえで獲得した、人類の貴重な知的遺産である。しかし一方で、経済学理論の明晰さ、鋭利さに魅せられつつも、どこか現実の複雑さを前にして納得の行かない気分を抱えている人もいるのではないかと思う。そうした場合、歴史とその複雑さの世界に身を浸してみるのも、賭けてみる価値のある試みではないだろうか。

私たちの日常生活は些細な出来事の積み重ねでできている。史料を残した過去の人々という、他者の声を謙虚に聞くこと、他者のかすかな声に耳を澄まし、そこに意味を見出していくことは、私たちが日常生活のなかで出会うささいな経験をよりよく理解するために益するところがある。

そのように過去の人々向き合うためには、しかし、現代に生きる私たちの側にもそれなりの準備が必要である。そのため、学生のみなさんには、なるべくたくさんの書籍や文献に目を通してほしい。在学中に徹底的に図書館を利用することを強く要望したい。

また、担当教員は、三田の専門科目「日本史史料講読」を担当しているが、本研究会参加者には当該科目の履修を求める。

3. 選考について

- ① 募集人数 AB日程合計8名
- ② 選考内容 レポートおよび面接
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PERL生受け入れ: 不可
- ④ 選考基準 レポートの課題となっている文献を正確に理解できているかどうか。

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子7人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子7人、女子2人
(他学部1人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4~5限)

この研究会では、日本の近世・近代社会(19世紀・20世紀前半の日本社会)の在り方を取り扱う。本年度春学期は奥須磨子・羽田博昭『都市と娯楽』(日本経済評論社、2004年)の輪読と、長野県の一農民の日記『胡桃澤盛日記』の輪読を行った。その後は三田祭論文に取り組んでいる。

ゼミナールの最終目標は、各自が自らのテーマを設定し、一次史料に基づく卒業論文を執筆することである。そのため、歴史学的な研究方法が求められる。その際必要となるのは、史料の精密な読解である。資料の書き手は現在の私達とは異なった環境の下に暮らしていた人々であり、私達の経験を安易に投影させてはそれを読み誤る事に至る。

担当者の研究については、『自由民権運動』(岩波書店、2016年)が最も簡易なものである。また最新の著書として『生きづらい明治社会』(岩波書店、2018年)がある。その他の業績については https://researchmap.jp/yusaku_matsuza-wa/を参照にさせていただきたい。

② **サブゼミ**

本研究会ではサブゼミを行いません。

③ **パートゼミ**

本研究会ではパートゼミを行いません。

④ **インゼミ**

例年、他の経済史系のゼミとのインゼミを行っています。

⑤ **課外活動**

研究内容に応じて博物館などへの巡検を行うことがあります。

⑥ **三田祭**

毎年積極的に参加しています。昨年度のテーマは「大正～昭和初期の日本学生」でした。

⑦ **夏休み**

今年は諸事情により開催に至りませんでしたが、例年、卒業論文の進捗報告を兼ねたゼミ合宿を行っています。また年度に応じて、親睦を深めるための様々な活動を行っています。

⑧ **合宿**

毎年9月ごろに行っています。今年度は前述のとおりですが、一昨年は富岡製糸場、去年は日光を訪れました。

⑨ **ゼミ必修授業**

ゼミ必修講義として、「日本史史料講読」(春秋、火曜3限)が設定されています。

⑩ **経費**

年会費については特に設けられていません。合宿などに関しては別途費用が掛かります。

6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**

入ゼミ試験に必要なレポート課題に用いる文献は毎年変わるので、後日発表される試験内容を参照してください。

7. **先生が担当している講義**

歴史的経済分析の視点(日吉、春学期金曜2限)

社会問題(日吉、秋学期水曜5限)

社会史a(田、春学期火曜2限)

日本史史料講読(三田、春秋学期火曜3限)

8. **ゼミHP・SNS**

Twitter:@matsuzawasemi

ゼミHP:

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/yusaku/seminar.html>

9. **連絡先**

外ゼミ代表 星野優人

(yutohossy@keio.jp)

入ゼミ担当 平山圭(kei0524@keio.jp)

計量經濟・統計

河井啓希研究会

田中辰雄研究会

長倉大輔研究会

星野崇宏研究会

宮内環研究会

河井啓希研究会

—計量経済学、産業組織論、医療経済学—

1. 研究分野

私の研究会では「応用ミクロ理論にもとづく実証分析」についての研究を行います。

近年のミクロ経済学では、従来の理論では出てこなかった製品の品質、財の差別化、情報の非対称性といった問題を明示的にとりあげた研究が盛んとなっています。一方、計量経済学では企業や家計の詳細なミクロデータの蓄積から、質的選択モデル、パネル推計、セミパラメトリック推計等の新しい分析手法が開発されています。

従来、計量経済学はマクロモデルに代表される景気や経済成長の大まかな推測に利用されてきましたが、近年では上記の理論とデータの蓄積からより具体的な政策評価に利用されています。例えばアメリカでの通信産業や航空機産業自由化等の政策決定においてたくさんの実証研究が報告されています。

私は2年間のゼミナールを通して応用ミクロ理論、計量経済学理論、コンピュータ等の分析手法の基礎的なトレーニングを行いますが、最終的には学生の皆さんが疑問に感じた政策的な問題を経済理論にもとづいて解釈したうえで実証分析を前提とした具体的な政策提言をできるまでのお手伝いをしたいと思っています。

今年の本ゼミでは、産業組織論のテキストの輪読を行いました。各章で登場するトピックに合わせて、自然独占と最適規制、同質財寡占市場とカルテル形成、製品差別化と市場支配力、価格差別、情報非対称性、標準化とネットワーク等といった産業組織論や医療経済学の理論についても取り挙げます。

3年生の段階で計量経済学の基礎理論と離散選択モデル等のより高度な方法論を学習するため三田で開講されている計量経済学中級ならびに上級を履修しながら、本ゼミでは授業で学んだ手法を応用した研究論文を学んでいます。さらにサブゼミでは統計パッケージ(Rとstata)を用いた実習をおこないます。

2. 学生への要望

理論的な興味ばかりでなく政策的な問題意識をもち、自分で実証分析をやってみたいという意欲的な学生を募集します。しかし自分でやりたいテーマを現段階で持っていないとも結構です。ゼミ活動を通じて必ずテーマを見つけることが出来るはずです。日吉ではミクロ経済学、マクロ経済学、統計学をしっかり勉強してきてください。また輪読する論文はすべて英語なので多読に慣れていることも必要です。計量経済学のゼミなので、計量経済学概論や情報処理についてご存知ならばより望ましいです。

3. 選考について

- ① 募集人数: 16名程度 (AB両日程)
- ② 選考内容
A日程 筆記試験(ミクロ経済学と統計学、90分)、成績表、面接試験(10分)
B日程 成績表、面接試験
※詳しくはゼミHPを参照してください
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PERL生受け入れ: 可
- ④ 選考基準: 最低限の知識とあふれる意欲

4. ゼミ員構成

- 4年生: 男子19人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子15人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4・5限)
3年生が「競争の戦略と政策」を輪読します。主に4限では章ごとに割り当てられた3年生がプレゼンを行い、先生やゼミ生が質疑応答をしながら理解を進めていきます。また5限では需要関数や費用関数等の専門論文を先生自ら紹介してください。秋には3年生の三田祭論文と4年生の卒業論文の中間発表が行われます。

- ② **サブゼミ(曜 限)**
3年生は5月に行われる産業研究所のStata講習会に参加し、統計ツールの扱いに習熟します。一から丁寧に教えてくださるのでツールの基礎から学ぶことができます。
- ③ **パートゼミ**
三田祭論文のパートに分かれてパートごとに集まり研究を行います。
- ④ **インゼミ**
なし
- ⑤ **課外活動**
なし
- ⑥ **三田祭**
毎年1パート4～5に分かれテーマに基づく実証分析を行い論文を執筆します。今年度は自動車、医療、農業等様々な分野に分かれ研究を進める予定です。
- ⑦ **夏休み**
パートゼミの内容を夏休みも同様に行い、合宿で中間発表を行います。
- ⑧ **合宿**
9月中旬に夏合宿を行います。2泊3日で3年生は三田論、4年生は卒論の中間発表を行います。今年は、白樺湖に行ってきました。
- ⑨ **ゼミ必修授業**
計量経済学中級(春集)
計量経済学上級(春秋)
産業組織論(春秋)
- ⑩ **経費**
合宿費3万弱
Stata講習会参加費1000円
6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**
ミクロ経済学・演習ミクロ経済学(武隈真一)
7. **先生が担当している講義**
日吉：統計学 I II(水曜2限)
三田：計量経済学(金曜2限)
8. **ゼミHP・SNS**
<http://seminar.econ.keio.ac.jp/kawai/@kawaisemi2019>
9. **連絡先**
外ゼミ代表 児玉 桂子
(keioko0521@keio.jp)
入ゼミ担当 藤井 美穂(fjimh6534@keio.jp)

田中辰雄研究会

—IT 産業の実証分析—

1. 研究分野「情報産業の実証分析」

本研究会では情報化をテーマとして、計量経済分析の基礎と応用を学びます。情報化とは、情報の収集・処理・配信の技術が飛躍的にあがり、それが社会のさまざまな領域に使われていくことをさします。この情報化の影響はさまざまな領域に及びます。いくつかあげてみましょう。第一に、世界的大企業の大半が情報産業の企業になりつつあります。時価総額のトップはかつてはIBMやGMあるいは銀行などでしたが、いまや上位に並ぶのはGoogle, Apple, Facebook, AmazonなどのIT系企業です。第二に、需要が「モノの保有」から「情報あるいはサービスの利用」にシフトしています。ここ20年、車や家電などモノの需要は頭打ちです。それに代わって伸びているのは、情報そのものであるコンテンツ産業（映画・音楽・ゲームなど）への支出、そしてシェアリングサービスやスポーツなど時間消費型のサービスへの支出です。いまやトヨタですら自動車を利用した移動サービス（mobility as a service）の供給を考える時代です。第三に、これにともなって、従来型の産業は縮小あるいは変革を余儀なくされています。新聞・テレビはネットニュースとYouTubeに客をとられ、ショッピングセンターはネット通販に食われ、都市銀行はネット系の決済サービスに押されています。本研究会では、このような情報化の経済現象を実証分析することを目的とします。

2. 学生への要望

広い意味での情報産業のどこかの分野に興味がある人か、あるいは計量分析に興味のある人を歓迎します。

興味関心はごく一部の領域でよいです。ゲームが好き、音楽が好きでもよいし、スマホが好きでもかまいません。むしろAIの利用に関心がある、ベンチャーで当てたいと思っているもよいでしょう。情報産業のど

こかに関心を持っているとゼミはたのしくなるでしょう。

また、特定の関心がなくても計量分析の実際の利用に関心がある人も来るとよいでしょう。昨今はネットのおかげで莫大なデータが利用可能になり、企業はデータがあっても利用できずに捨てている状態です。それゆえデータを有効活用できるデータサイエンティストを求めています。計量分析はその基礎を与えるので、それを学びたい人も歓迎します。

なお、実証分析の方法としては、なによりデータを手に入れる必要があります。情報産業に関わるデータはネットにあることが多く、これを集めるスクレイピングの技術を学びます。あるいは業界団体へ出向いてデータを手で集めます。そのような労力をいとわぬ人を歓迎します。プログラミングに関心のある人も本ゼミなら活躍の場があるでしょう。

本研究会が対象にするのは先行研究の少ない分野であり、学生の立場でも新しい知見を見出すことは不可能ではありません。そのような挑戦を行おうというパイオニア精神のある人を期待します。大学院進学希望の人も歓迎します

3. 選考について

(1) 募集人員 16名前後

A日程(10名)とB日程(6名)

(2) 選考試験 レポート+面接+成績表
筆記試験はなし

レポートは課題を秋に掲示に張り出す。

締め切りはA日程の面接の1週間前

(4) 他学部・Per1生、受け入れます

(3) 選考基準

レポート7割、面接2割、成績表1割

5. 連絡先

lec@tatsuo.econ.keio.ac.jp

4. ゼミ員構成

4年生:男子13人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子13人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4,5限)

4~6月はIT産業や計量分析手法に関する専門論文の輪講を行います。そのあとはテーマごとに3,4人の班に分かれて三田論を書き進めます。

② サブゼミ(水曜6限)

(基本的にはなし)

③ パートゼミ

特になし

④ インゼミ

特になし

⑤ 課外活動

特になし

⑥ 三田祭

三田論の発表を行います。

⑦ 夏休み

各自論文作成のための作業を行います。

⑧ 合宿

4月:新歓合宿

9月:夏合宿

⑨ ゼミ必修授業

計量経済学中級 a,b(火曜日1,2限 春集)

⑩ 経費

ゼミ費 500円

合宿費 計30000円程度

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特になし

7. 先生が担当している講義

日吉 : (計量経済学概論、水曜2限)

三田 : (計量経済学中級、火曜1,2限)

8. ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/tanakase>
mi

Twitter:@ttzemi2019

9. 連絡先

外ゼミ代表 小竹 康太(メールアドレス:
yasu0314bumper0017@gmail.com)

入ゼミ担当 三富 直毅(メールアドレス:
tomi_jskl@yahoo.co.jp)

長倉大輔研究会

—計量経済学—

1. 研究分野

私の研究会では計量経済学と呼ばれる分野を研究しています。計量経済学とは、経済データを統計的に分析する際に発生する様々な問題を解決する手法について研究、開発し、またそれらの手法を用いて現実のデータを分析する(実証研究)分野です。統計学の手法を基礎とし、他の分野のデータにない経済データ特有の問題を解決するために様々な方法が考えだされています。私の研究会では基本的には計量経済学の理論を学びます。ゼミ生の三田論や卒論はそれらを現実のデータに応用した論文が多いですが新たな手法について理論の論文を書くゼミ生もいます。論文のテーマは計量経済学の手法が関連しているのであれば何でも可としています。3年生はいくつかのグループに分かれて三田祭の論文を書く事を目標として進めていきます。3年生の前半は計量経済学の手法やその手法を実際に行う際のソフトウェアの使い方(2018年度からPythonというフリーのソフトウェアを使っています)等についてさらに勉強し、中盤から後半にかけては三田祭の論文のテーマを探すために既存研究のサーベイ(論文発表)をします。論文のテーマが決まった後はそれぞれのグループ毎に途中経過を発表してもらいます。4年生は基本的に卒業論文を書くことに集中してもらう予定です。成績はゼミや論文執筆グループへの参加度、貢献度、ゼミ中の態度などを見て総合的に判断して付けます。

2. 学生への要望

- (1) 計量経済学を学ぶ過程で、統計学や数学も意欲的、自発的に勉強できる。
 - (2) 自分で積極的に論文のテーマを探ることができる。
 - (3) ゼミ内で与えられた仕事は責任を持ってやる。
- という学生を歓迎します。私のゼミでは自主性を重視していますので(やや放任ぎみなかもしれませんが)、何事も積極的に取り組んでいける学生を期待しています。

3. 選考について

募集人数:

特に制約は設けていませんが、だいたい毎年10人から15人くらいの間です。

選考内容:

面接、試験を行い、また指定論文の要約と成績表も提出してもらいます。

選考基準:

上記の内容を見て総合的に判断します。

他学部、PEARL生受け入れ:

他学部の人でも受け入れます。またPEARL生については、ゼミは日本語で行うのでそれでもかまわないということであれば受け入れ可です。

指定論文について等、ゼミのページ:

<https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com/> に随時情報を載せていきます。

4. ゼミ員構成

4年生:男子13人、女子1人

(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子11人、女子0人

(他学部1人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4.5限)

本ゼミでは4限に計量経済学の理論を講義形式で学びます。5限ではRやPythonなどの統計言語を用いて、実際のデータを分析します。

② サブゼミ(月曜6限)

サブゼミでは生徒だけでPythonの機械学習を行っています。スケジュールと内容は3年生の希望で決定します。

③ パートゼミ

三田論文のテーマごとに1~3人で班分けをし、論文製作を行います。内容、日程は班ごとに異なります。

④ インゼミ

行っておりません。

⑤課外活動

行っておりません。

⑥三田祭

班ごとに論文の展示・発表を行います。

⑦夏休み

三田論文発表に備えて、班ごとに先行論文の研究をします。

⑧合宿

夏合宿では、夏休みに研究した先行論文の発表を行います。今年は9月に

⑨ゼミ必修授業

三田キャンパスで長倉先生が開講されている中級計量経済学がゼミ必修となっています。

⑩経費

都度必要額を請求します。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

1,2年生のときに使用した統計・線形代数・微積分の教科書やノートを参考書として演習しました。

7. 先生が担当している講義

日吉：統計学 I (木曜2限)

三田：中級計量経済学(月曜2.3限)

8. ゼミHP・SNS

[https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdo.com /](https://nagakurastatisticsfrom2011.jimdoo.com/)

https://twitter.com/nagakura_2014

9. 連絡先

外ゼミ代表

大畑滉貴(oha.kou.3347@gmail.com)

入ゼミ担当

松永一成(matsuiti55@keio.jp)

星野崇宏研究会

—計量経済学・機械学習・行動経済学とその応用 (マーケティングや経営、社会現象について)—

1. 研究分野

指導教員はこれまで統計学・計量経済学・機械学習の基礎研究と、マーケティング・行動経済学・脳科学・公衆衛生など様々な分野への応用研究を行ってきました。また、様々な分野の企業の顧問や共同研究を行っており、その関係から企業から提供いただいた実店舗の購買履歴データ、Web サービスでの利用履歴データ、市場調査データや SNS データなどを研究室で利用することが可能です。さらに店舗や EC サイトでのフィールド実験、学生を対象とする調査や経営者・担当者へのインタビューなどを実施する場とノウハウを研究室として有しています。

このような経緯から当研究会では、基礎的な研究だけでなく企業や公共分野のマーケティング応用など、より実践的な研究に関心のある学生も歓迎しており、理論と実践を両立し、磨きあう場となることを目指しています。当研究会では下記に記載する分野に関心のある学生を指導可能です。

【基礎的な分野】

統計学と計量経済学/ビッグデータ解析(統計学と機械学習の中間領域)/行動経済学と心理学(ヒトの非合理性と行動の傾向の理解)

【応用的な分野】

マーケティング:対象は金融、消費財メーカー、小売業、Web サービス、政府公共機関、NPO など/行動経済学の応用:特に企業・組織の経済学や、公共マーケティングへの応用/人的資源管理や組織行動などの経営学/流行や同調などの社会現象の経済学的理解/教育や医療など応用計量経済学

上記はバラエティに富んでいますが、データ、統計学、数理モデルなど実証的なアプローチを用いた経済・経営・人間行動の研究についてであれば対象は限定しません。

2. 学生への要望

経済のグローバル化と技術革新、産業構造の変化のペースは一段と早くなっており、今後本学部を卒業しても将来が完全に保証されるわけではない時代が来るでしょう。所属する組織がどこであれ自分の力で活躍し、所属組織さらには社会に貢献する有為な人材として

育ていただくために、当研究会では時代によらず必要とされる力を身につけてもらいたいと思います。昨今流行りのビッグデータに代表されるようなデータ解析の技術だけにとどまらず、マーケティングなどの様々な手法をもとに自らの発想力を磨きさらにはそれを実現に移していく能力を是非当研究会の学びの中で獲得していただきたいと思います。

3. 選考について

①募集人数

行動経済マーケティング班・解析班合わせて18名程度

②選考内容

ES・レポート・面接・成績表

③他学部入ゼミ:○ PERL生受け入れ:○

④選考基準

各自の関心事項に対して学び実践する意欲と積極性を重視します。(マーケティングなど実践的な内容に興味のある学生と、統計学やビッグデータ解析に関心と適性のある学生)

4. ゼミ員構成

4年生:男子11人、女子7人

(他学部1人、留学中0人)

3年生:男子10人、女子8人

(他学部3人、留学中3人)

5. 活動紹介

①ゼミ(火曜3~4限)

マーケティングや行動経済学、計量経済学の基礎を学ぶとともに、各班の毎週の進捗状況をプレゼン形式で発表しそれに対する先生やゼミ生からのフィードバックを受けて

います。また、先生の顧問先の企業の方をお招きして講義を行っていただく機会もあります。

② サブゼミ(火曜5限)

マーケティング手法やデータ解析手法について輪読形式で学びを深めています。また、プロジェクトごとに集まって研究方針や具体的な手法を話し合っています。

③ パートゼミ

解析班、マーケティング班:

企業との共同研究

④ インゼミ

昨年度は青山学院大学経営学部横山ゼミとインゼミを行いました。今年の開催は未定です。

⑤ 課外活動

企業との共同研究、データ解析/マーケティングコンペの参加

- ・ 情報信託銀行業務への技術協力、不動産価格予測(三菱UFJ信託銀行)
- ・ 日経電子版の顧客脱落予測(日本経済新聞社)
- ・ 消費と金融行動の関連(マネーフォワード)
- ・ 顧客データを活用した来客予測モデルの策定(株式会社トレタ)
- ・ 行動経済学を応用したロイヤリティマーケティング施策(株式会社BAKE)
- ・ SUUMOにおけるLGBTフレンドリー施策の効果測定(リクルート住まいカンパニー)
- ・ AIと会計職に関する研究(日本公認会計士協会)
- ・ レセプトデータを活用した健康受診を促す行動変容実験(某レセプトデータ提供企業と各自治体)
- ・ 日用材のマーケティング施策支援(ユニリーバ・トライアルカンパニー)
- ・ 日用材のCRM施策支援(花王)
- ・ データ分析に基づいたマーケティング戦略立案コンテスト(マクロミル)

⑥ 三田祭

論文の発表や展示を行います。2016年は新規ゼミとして史上初の三田祭論文金賞を獲得、2017年は銀賞を獲得しました。

⑦ 夏休み

プロジェクトごとに定期的に集まり研究を進めます。

⑧ 合宿

9月に那須高原で2泊3日の合宿を行いました。

⑨ゼミ必修授業

ゼミとしての必修授業はありません。

⑩経費

年会費3000円,合宿費3万円,その他飲み会代等。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書 特になし

7. 先生が担当している講義

統計学Ⅱ(日吉、木曜日2限)

ベイズ統計学(三田、火曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

ゼミHP <http://hoshinoseminar.com/>

ゼミTwitter @hoshinoseminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 文屋克隆

(bunchan9796@gmail.com)

入ゼミ担当 小泉亘(wataruasahik@keio.jp)

宮内環研究会

—市場の数量分析—

1. 研究分野

当研究会の研究分野は「市場の数量分析」です。諸君はミクロ経済学で、“The Edgeworth box”を用いるなどして“Pareto Optimality”の概念を学んだはずですが、市場はこの意味で資源の最適配分を実現する装置ですが、市場のこの機能は無条件に作動するとは限りません。主にこの研究会では市場機能の作動についてミクロ経済学に基礎をおきながら統計学的、計量経済学的観点から分析を進めます。

研究会の最終目的は卒業論文を仕上げることです。研究会ではこの目的のために、論文の書き方についての勉強、およびそれを実践する過程での多くの議論が不可欠です。論文は単なる学習記録とは異なります。論文によって明らかにされる知見が社会の知的財産とならなければ論文の意味がありません。たとえば象の体の毛穴の数を数えたところで、それが社会にとって有用な知見とできるか否か、この点が論文では問われます。さらに論文は科学的作法に基づいて構成された仮説、および適切に選ばれた観測方法によって得られた観測事実、これら両者を突合せて仮説の検証結果を記述します。したがって論文作成の過程では、仮説の構成、観測方法の選択、これら両方が適切であるか様々な観点からの検討が必要です。このために研究会では参加者各自の論文を仕上げる過程で多くの議論を行います。

すでに市場の分析を行った論文を参考にすることはよいことです。この領域の多くの論文は英語で書かれています。英語の論文を読むことに抵抗があれば、英語の論文に慣れることも大事な目的の一つです。

以上を要約すると、論文の書き方の勉強、論文作成過程での議論、英語で書かれた論文にも慣れて多くの先行論文を読む、主にこれらの活動を通じて市場の数量分析を進めます。

2. 学生への要望

当研究会を志望する学生諸君は、三田に来る前に日吉で学んだ科目の内容をしっかりと復習し、自分のものにしておいてください。これまでは解くべき問題と正解が与えられることが多かったでしょう。しかし三田の研究会では自身が解くべき問題を見つけ、自分が持っている知識をどのように適用すれば知りたいことが分かるのか、そのためにはその問題への接近法は何が適切なのか、このように考える作法を三田の研究会では学びます。そのためには日吉で学んだ科学的知識が確かなものでなくてはなりません。その準備を来年の4月までにしっかりと整えておいてください。

なお、当研究会は2019年度末(2020年3月)で終了します。この時点でゼミ継続を希望する学生は、任意で河井啓希ゼミに移籍できます。

3. 選考について

- ① 募集人員: AB 日程合わせて10名程度
- ② 選考内容: 事前レポート、志願書および成績表による書類審査
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PEARL 生受け入れ: 不可
- ④ 選考基準: 日吉で学んだことを市場の数量分析のために適用する準備ができているか。

4. ゼミ員構成

- 4年生: 男子10人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子9人、女子9人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜4~5限)

活動内容としては、身近な社会問題やふと疑問に思ったことに対して、仮説を立て、計量経済を用いて、その立証を行っています。ゼミは英語で行われています。楽しいときは楽しく、勉強するときは

勉強する楽しいゼミです！二年生の皆さんと会えるのを楽しみにしてます！

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

④ インゼミ

⑤ 課外活動

⑥ 三田祭

論文

⑦ 夏休み

⑧ 合宿

⑨ ゼミ必修授業

計量経済学上級

社会科学基礎論

⑩ 経費

合宿費：15300(ホテル代)

6. ゼミ試験対策で使った参考書

統計の授業で使った教科書

7. 先生が担当している講義

自由研究セミナー(日吉、月曜日5限)

計量経済学概論(日吉、月曜日4限)

社会科学基礎論(三田、火曜日3限)

軽量経済学上級b(三田、月曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

@Miyouchi2019(twitter)

9. 連絡先

外ゼミ代表 國枝梨沙

(lisakunieda1203@keio.jp)

入ゼミ担当 松尾淳平(j12976@keio.jp)

産業・労働経済

植田浩史研究会

太田聰一研究会

植田浩史研究会

—産業論・企業論・中小企業論—

1. 研究分野

植田浩史研究会では、日本や海外の産業、企業についての研究を文献や実際の企業訪問などを通じて行います。研究会での勉強や経験を通じて、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察していきます。企業や産業・地域の現場で起きていること知るとともに、そこで起きている問題を正確に理解し、多面的かつ論理的に分析していく力をつけていくことを課題としています。

日常のゼミでは、国内外の産業や企業に関する文献を輪読しています。アカデミックな研究書からビジネス書に近いものまで、多くの文献に目を通し、具体的な問題から日本経済や世界経済の現状や課題について議論しながら、勉強しています。

また、夏休みには毎年2泊3日程度で特定地の地域に滞在し、地元の企業などを訪問する地域調査を実施しています。最近では、2011年札幌、2012年函館、2013年十勝・帯広、2014年倶知安・ニセコ、2015年十勝・帯広、2016年函館、2017年、18年十勝・帯広、と北海道が続いています。東京とは全く異なる環境で企業や地域、そしてそこに住む人々がどのような営みを行い、どのような課題に直面しているのか、地域の企業を見学し、経営者の方々と話をする中で勉強していくのか、調査合宿の課題です。

また、調査合宿では、後述する商工中金懸賞論文のテーマ別にグループを作り、グループで訪問先と質問内容を決め、グループごとに準備を進めてきました。このほか、夏休みや春休みに企業訪問を行うなど、企業や産業の実態を肌で感じられる場を持つのが、この研究会の一つの特徴になっています。

3年生は、中小企業向け金融機関である商工中金の研究機関、商工総合研究所の懸賞論文にも挑戦しています。商工総合研究所が決めた中小企業に関する研究テーマに対して、自分たちで課題を設定し、調査対象を決め、ヒアリングや資料を集めな

がらグループで論文作成をしています。今年度は、金融や産業に関するテーマに対し、グループに分かれて、研究しています。

2. 学生への要望

まず、現実の産業や企業の動向に関心を持ち、何事に対しても深く突っ込んで考え、調べていくこと、そしてそのための労をいとわないことを要望します。

研究会は、第1に学ぶ場ですから、予習や宿題は必ず行う、欠席はしない、議論には必ず参加し、積極的に発言する、ことを最低限守るべきこと、と 부탁드립니다。

また、サークルなどとは異なり、ゼミはゼミの仲間と一緒に悩みながら勉強を進めていく場です。仲間と一緒に勉強していくことは、学問する上ではもちろん、新しい友達を作っていく上でも非常に重要な場です。

研究会に参加する2年間は、期間としては決して長いものではありませんが、人生の中で、もっともいろいろなことをじっくり考えられる期間です。この2年間に、出来る限り多くのことに接し、多くのことを吸収し、多くのことを学び、考えてもらいたいと思っています。

3. 選考について

①募集人数

例年15名前後を募集しています。来年度も同じ人数で募集する予定です。

②選考内容

例年、入ゼミ希望者に対して課題を設定し、6000～8000字程度のレポートを出してもらいます。その上でレポートの内容を参考にした面接を行っています。来年度についても、同様な形式で選考を行う予定です。但し、レポートの課題や字数については、年によって異なりますので、注意してください。

また、レポートの内容や研究会活動への意欲を確認するなどの目的で、面接(個人またはグループ)を実施しています。

選考は、入ゼミレポートと面接の総合判断で行います。

③選考基準

産業・企業に対するの関心の高さや経済学や社会に対する知識は不可欠です。また、勉強への意欲、ゼミ活動や共同研究への積極的な参加への強い意思が問われます。

4. ゼミ員構成

4年生:男子15人、女子7人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子11人、女子8人
(他学部0人、留学中3人)

5. 活動紹介

① ゼミ(金曜4・5限)

当ゼミでは、経済や経営に関する本を輪読し、本に関する内容や現実に則した具体的に身近なデータを用いてゼミ員同士でディスカッションを行います。また、産業や企業の現実態を学ぶためにフィールドワークを積極的に行い経営戦略などについて研究します。普段の学生生活では会うことのないような方々とお話しをする機会もあり、輪読だけではなく貴重な経験をつむことができるのが当ゼミの魅力です。植田ゼミに興味を持ってくださった方はぜひ個別ブースに足を運んでください!

② サブゼミ(月曜4・5限)

サブゼミでは主に、3年生の懸賞論文作成の活動を行います。

③ パートゼミ

④ インゼミ

⑤ 課外活動

論文作成の資料集めや、中小企業論の理解を深めるため、様々な中小企業が参加する展示会などに見学行きます。

⑥ 三田祭

ゼミブースの展示を行います。

⑦ 夏休み

⑧ 合宿

合宿は3年生のみで8月に1回、3・4年生全員で9月に1回行います。

⑨ ゼミ必修授業

⑩経費

合宿費:約5万円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

7. 先生が担当している講義

日吉: (、 曜 限)

三田: 日本資本主義発達史(金、曜1・2限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter: @uedahiro2018

9. 連絡先

外ゼミ代表 張 智視

(interkara@yahoo.co.jp)

入ゼミ担当 裴 晟允

(bsunyun94@gmail.com)

太田聰一研究会

—労働経済学—

1. 研究分野

労働経済学が研究分野です。労働経済学は応用ミクロ経済学の一分野ととらえることができますが、おそらく学生さんにとって最も親しみを持ちやすい分野のひとつではないかと思います。労働経済学が取り扱うのは、失業問題、賃金の格差、転職、教育と訓練、採用、報酬体系、昇進といった、人々の働くという営みと密接に関連した現象です。例えば、新卒採用などは、皆さんが最も関心のあるものではないでしょうか？労働経済学の考え方を使えば、なぜ新卒採用が日本企業で重視されているのか、そのコストは何かといった問題に対する重要なヒントを得ることができます。また、労働経済学を学ぶことは、自らの将来のキャリアを考えるよい機会になると思います。

2. 学生への要望

研究会活動においては、学生の皆さんの自主的な活動がきわめて重要です。皆の前で自分の意見をはっきり主張し、コメントに対して適切に対応する能力は、社会に出てからもきわめて重要なので、この研究会ではそうした能力の育成を重視しています。そのためには、研究会において積極的に発言する態度が求められます。

また、労働経済学の基本をきちんと理解するためには、ミクロ経済学やマクロ経済学の知識が欠かせません。学生は積極的にそうした知識を得ておいていただきたいと思います。計量経済学を使った実証分析は、労働経済学研究のコアになるので、統計学と計量経済学はしっかりと学んでほしいと思います。

3. 選考について

- ① 募集人数
10～15名
- ② 選考内容
エッセイ、学生による面接を予定
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PERL生受け入れ: 可
- ⑤ 選考基準

本研究会の学習内容についていくことができるかどうかといった学力面と熱意などの人物面を総合的に評価して決定します。

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子11人、女子4人
(他学部1人、留学中0人)
3年生:男子11人、女子5人
(他学部0人、留学中3人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4. 5限)

グループディスカッションと輪読を中心にを行います。グループディスカッションでは毎週担当者が労働経済学に関連するテーマを選択し、現状分析や課題などをプレゼンします。プレゼンを踏まえ、テーマに関するお題に対し3年生4年生全員でディスカッションをします。また輪読では、先生から指定された文献を各週の担当者が要約として発表し、発表内容に対してゼミ員と先生で議論を交えます。

② サブゼミ(曜 限)

行っておりません。

③ パートゼミ

行っておりません。

④ インゼミ

今年度は中央大学とインゼミを行う予定です。

⑤ 課外活動

ソフトボール大会等

⑥ 三田祭

三田論の発表を行います。

⑦ 夏休み

特に活動はありません。

⑧ 合宿

新歓合宿:5月に一泊二日で宿泊し、ソフトボール大会の練習やゼミ員同士の親睦会を行います。

夏合宿:8月に二泊三日で宿泊し、三田祭論文の執筆を進めます。

⑨ ゼミ必修授業

ありません。

⑩経費

新歓合宿:5000円

夏合宿:25000円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

レポート課題は毎年内容が異なるため、
決まった参考文献は特にありません。

7. 先生が担当している講義

日吉：経済学で考える人生設計(日吉
後期金曜5限)

三田：労働経済論(三田後期水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

twitterやっています。

9. 連絡先

外ゼミ代表 宮坂穰

(joemiyasaka@gmail.com)

入ゼミ担当 米山遼太

(yone.mituo.1996@gmail.com)

制度政策

駒村康平研究会

寺井公子研究会

山田篤裕研究会

駒村康平研究会

—(社会保障・社会政策)—

1. 研究分野

少子高齢化の進展、所得格差・貧困の拡大のなか、年金、医療、介護、生活保護、障害者、児童福祉といった社会保障制度に関わる多くの問題が人々の関心を集め、最近も社会保障・税一体改革として重要な政策課題となっています。さまざまな社会保障のための費用は、現在、年額約120兆円で、日本のGDPの2割以上を占め、今後もどんどん大きくなり、2040年には190兆円になることが予想されます。本ゼミでは、高齢化社会の進展のなかで、社会保障制度がどのような役割を果たし、どのような問題を抱えているのか、そしてどのような改革案があるのか、それをどのように実行していくのかを研究していきたいと思えます。また他大学等、外部機関との研究交流、見学、各種研究会での報告なども進めていきたいと思えます。

なお現在の私の研究テーマは、高齢化社会、格差・貧困、雇用問題、生活保護、および子育て支援政策、障害者福祉、年金制度改革、金融老年学が中心となっています。

2018年度の研究会の对外活動の実績は以下の通りです。

大学交流会：早稲田大学、同志社大学。

三田祭発表、ユース年金学会報告

そのほか、障害者施設等への見学

2. 学生への要望

ゼミは「静以修身、儉以養徳」(「優れた人は静かに身を修め、徳を養う。無欲でなければ志は立たず。穏やかでなければ道は遠い。学問は静から才能は学から生まれる。学ぶことで才能は開花する。志がなければ学問の完成はない『誠子書』)の考えに基づいて運営していきます。学生の皆さんには、質実剛健、元気で、ゼミ活動や学問に積極的な人をのぞみます。また、普段から英語の学習、PCの積極的な活用を期待します。

3. 選考について

①募集人数：15人程度

②選考内容

事前レポート、指定図書に基づく筆記試験と面接。

③他学部入ゼミ、PERAL生受け入れの可否

受け入れはいたしますが、ゼミでは日本語の経済学、社会保障制度の文献を大量に読むこととなりますので、経済学と日本語の文献を読むことができることが最低限の上限となります。

④選考基準

事前レポートについては、社会保障制度について明確に関心があるか、きちんとした日本語を論理的に書くことができるかといった点に注目します。具体的なレポートの課題は後日発表しますが、例年、社会保障制度の課題についてのレポートを求めています。

筆記試験については、レポート作成のために指定した文献の理解について20分～25分程度の記述試験となります。面接はレポートの内容に関する質疑、社会への問題意識・将来の志、ゼミ活動における貢献や協調性の有無といった点から評価します。

4. ゼミ員構成

4年生：男子10人、女子10人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子10人、女子8人

(他学部1人、留学中2人)

5. 活動紹介

①ゼミ(水曜4・5限)

3年生は『』〇〇著の輪読を行います。週に2人程度が、自分の担当の章の発表を行い、先生から質問やご指摘をいただきます。また、その際には授業に関連した内容やプレゼンに関連したお話もいただくことができ、より深く理解することができます。4年生は卒論の発表を行います。また、3・4年生合同で、毎回

異なるテーマで、グループワークやディスカッションを行っております。

② サブゼミ

行っておりません。

③ パートゼミ

駒村研究会では、4班に分かれてパートゼミを行っております。各班のテーマは駒村先生の専門分野である年金以外は社会の情勢によって毎年変わります。今年のテーマは①年金②格差問題③就労困難問題④技術革新問題となっております。班ごとの活動ですので、学生主体で時間を決め、週一回程度集まっています。

④ インゼミ

今年は12月に京都にて同志社大学の佐々木ゼミと、来年1月に早稲田大学とインゼミを行う予定です。また12月にはユース年金学会にも参加予定です。

⑤ 課外活動

定期的に三田アカデミーという勉強会を行っています。社会で活躍されているOB や社会人の方々を講師としてお招きして、実際の企業の仕事内容やエピソードなど様々な分野の業界の現状を知ることができます。

⑥ 三田祭

班ごとにパートゼミで勉強してきたことを発表する場です。ぜひお越しください！

⑦ 夏休み

論文発表に向けて、班ごとに集まり、パートゼミを行います。

⑧ 合宿

例年、9月の上旬～中旬にかけて行っております。内容は、3年は班ごとの研究成果の中間報告、4年は卒業論文の中間報告が主です。

⑨ ゼミ必修授業

駒村先生が担当されている講義は必修です。そのほかにも、人口論、労働経済、医療経済などゼミの研究内容に密接に関わる講義も推奨されています。

⑩ 経費

合宿費以外は徴収しておりません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

昨年度ゼミで指定された課題図書『日本の年金』(岩波書店)

7. 先生が担当している講義

日吉：なし

三田：社会政策論(三田、秋学期、火曜日2限) 生活保障の再構築(三田、秋学期、木曜日2限) 長寿と金融(三田、秋学期、水曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

HP:<https://komamura-keio-econ.jimdofree.com/>

Twitter: @komamura_semi

9. 連絡先

外ゼミ代表

青木遥平(yoheiaoki96@gmail.com)

入ゼミ担当

平田航太(ko0622ta@gmail.com)

寺井公子研究会

—公共経済学・財政学・政治経済学—

1. 研究分野

公共経済学は、政府の経済活動を分析対象とする学問です。市場メカニズムだけでは解決できない問題—たとえば、外部性の発生、経済主体間の情報の非対称性、機会や結果の不平等—について、政府がどのような対応をするのが望ましいかを考えます。

実際、政府は課税、公共事業、退職年金・医療保険・介護保険などの社会保険の提供、生活保護制度による国民の生活水準の保障、規制など、様々な手段を用いて経済政策を行っています。政策は個人や企業の意思決定に影響を及ぼしますし、所得や資産の分布を左右します。現行の制度や政策がどのような役割を担っており、どのような効果を生み出しているか、何が問題か、を考察することは、とても重要なことだと考えます。そのうえで、人々を経済的により幸せにする政策のありかた—たとえば、保育サービスの拡充と給付金では、育児支援としてどちらが効果的か、オリンピック施設の建設費用は誰が負担するべきか、市町村合併で行政費用を節約できるか、増税すべきか、あるいは国債発行で財源調達をしたほうがよいのか—を探求するのも、公共経済学に期待される役割です。

一方、政治経済学は、政治的要因が政策の選択・実行に、どのような影響を与えているのかに注目します。特に、選挙、議会などの政治制度が、政治家、官僚、利益団体、有権者の行動にどのような影響を与えるかについて、経済学の分析手法を用いて考察します。望ましい政策の実施を妨げている要因について考えることも、同様に重要なことだと考えます。

私自身は、日本の財政再建を進めるためにはどのような制度改革が必要か、また教育と政府の質との関係に特に関心を持って、ゲーム理論を応用しながら、研究を進めています。

2. 学生への要望

研究分野の性格から、理論と現実の双方に関心を持っていることが非常に重要だ

と考えています。現実の経済で起こっている様々な問題の本質的な原因は何かを、つねに考える姿勢が重要だと思いますし、一方で、現実の部分、部分を観察しているだけでは、経済の大きな流れや、望ましい経済のあり方を見失うこともあります。このような考えに立って、基本的理論の学習・理解と、データを読み、扱えることの双方にウエイトをおいて、研究会の活動を進めていきます。

特に、ミクロ経済学と統計の基礎的知識を習得していることを前提とします。経済政策について豊富な知識を持っている必要はありませんが、関心と学ぶ意欲を持ち、かつ意欲を持続できる人、根気強く文献を読み、自分で考えることのできる人、またゼミは集団で学習する場ですので、積極的に活動に参加することで他のメンバーに良い刺激を与えることのできる人の応募を期待しています。

3. 選考について

⑤ 募集人員: 16名

② 選考内容:

(a) 小論文

テーマ: 「書籍、学術論文、あるいは新聞記事から、我が国の経済政策・公共政策に関して書かれた論述文を一つ取り上げ、それについて議論しなさい」

字数: 3000~4000字

○取り上げた論述文の出典(タイトル、著者名、発行年月(日)等)を明記すること

(b) 面接

(c) 1・2年次の成績

③ 他学部生・PEARL生も受け入れます

(ただし、研究会での使用言語は日本語です)

- ④ 選考基準：選考内容(a)～(c)のそれぞれについて、特に次の点を重視します
(a): 文章力、議論が具体的か、文献をよく読み、深く考察しているか
(b): 関心、意欲
(c): 参考程度(ミクロ・マクロ・統計)

4. ゼミ員構成

4年生:男子10人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子11人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4.5限)

今年度の春学期は『財政学15講』(新世社)、その他公共政策に関する論文等の輪読、三田祭論文のテーマ発表を行いました。秋学期は、教科書、論文の輪読や、三田祭論文の中間発表、卒業論文の中間発表などを行う予定です。

② サブゼミ(月曜4限)

基本的に3年生のみで行います。春学期はデータ分析に必須のツールとして統計ソフト Stata の操作方法を習得しました。秋学期は三田祭での論文の発表・展示に向け、班ごとに論文執筆に取り組みます。今年 は教育班、インフラ班、財政班、地域財政班に分かれて論文を執筆します。

③ パートゼミ

3年生は6月下旬から各自の興味に応じていくつかの班に分かれ、三田祭論文執筆のため、自主的に班ごとに行います。

④ インゼミ

現在のところインゼミを行う予定はありません。

⑤ 課外活動

経済学部ゼミナール委員会主催のソフトボール大会に参加します。

⑥ 三田祭

班ごとに完成させた論文を展示・発表します。

⑦ 夏休み

11月の三田祭に向け、論文の班ごとにパートゼミを行い、論文執筆のための調査・研究・分析を進めます。なお、積極的にサークルやインターンに取り組むゼミ生も多く、これらとの両立は十分に可能です。

⑧ 合宿

今年度は夏休みに茨城県のつくばにて、二泊三日で行います。主に 三田祭論文・卒業論文の中間発表を行います。

⑨ ゼミ必修授業

ゼミ必修という形のものはありませんが、普段のゼミや論文執筆の上で必要な知識を得るため、履修を推奨する授業があります。

⑩ 経費

年会費等はありません。合宿費は例年三万 程です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

各自が入ゼミ小論文で取り上げるテーマに応じ、適宜お読みください。

7. 先生が担当している講義

日吉： (曜 限)
三田： 経済政策論a.b(水曜3限)

8. ゼミHP・SNS

HP: <http://terai.weblike.jp/index.php>
Twitter: @teraizemi2018

9. 連絡先

外ゼミ代表
笠原拓海(tak.you.0425@gmail.com)
入ゼミ担当
福島慧貴(cmexigpk@i.softbank.jp)

山田篤裕研究会

—社会政策(社会保障と労働政策)—

1. 研究分野

社会問題を取り除き、人々の生活をより善くすること。それが社会政策です。「社会が生み出す病(やまい)にたいする処方箋」とも言えます。

各自の関心に応じ研究テーマを個別に設定し、人々のより善き暮らしのため、社会政策にできることは何か研究します。

BOX:「社会政策」とは

社会政策は大きく、社会保障・福祉政策と雇用政策の2つに分けられます。

社会保障・福祉政策には、高齢期や稼働者死亡時の家族の所得保障(老齢、遺族年金)、失業時や育児・介護休業時の所得保障やサービス(雇用保険、介護保険、保育サービス)、最低生活水準に満たない場合の所得保障(生活保護)、傷病時の医療サービスや所得保障(医療保険)、障害を負った場合の所得保障やサービス(障害年金、障害者サービス、労災保険)などがあります。

雇用政策には、最低水準の賃金を定めた最低賃金法、長時間労働等を禁じた労働基準法、就職・仕事内容の男女差別を禁じた男女雇用機会均等法、公共職業訓練や公共職業安定所などがあります。

超高齢化にもかかわらず、日本の社会保障給付費(年金・医療・介護等)は抑制され、そのひずみが生活不安となっています。財政的に社会保障費を一律抑制する単純な発想では、社会問題は解決できません。とくに先進国中、日本のワーキング・プア率は高く、育児・介護による離職は多く、長時間労働や正規・非正規間雇用格差、所得格差、健康格差、社会的孤立等、解決すべき社会問題が山積しています。

各社会政策(BOX参照)が社会問題にどう影響しているか明らかにし、解決策を模索する、最も歴史ある学問分野の一つです。

2. 学生への要望

社会政策の知識を将来のキャリアに活かしたい学生(研究者、公務員、ジャーナリストなど)から、とにかく社会問題に関心がある、という学生まで幅広く歓迎します。

いずれにせよ①社会問題への強い関心、②文献・データ収集・分析などの地道な作業への根気が求められます。ただし、社会政策の知識や分析手法は入ゼミ後、落ちこぼれを出さないよう一から手ほどきします。

研究を通じ、より善き人々の暮らしのための「新しい知見」を得ることが最終目標です。研究の大半は地道な作業ですが「新しい知見」に出会う喜びも必ずあります。

3. 選考について

- ① 募集人数 15~20名
- ② 選考内容 (a)事前レポート、(b)課題文献に基づく記述式筆記試験、(c)教員面接(レポート、ゼミでの研究テーマに関する質疑応答)、(d)成績表
- ③ 他学部入ゼミ:可(入ゼミ許可者への必読図書あり)
PEARL生受け入れ:可
- ④ 選考基準:②に基づく総合判断

4. ゼミ員構成

4年生:男子12人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子14人、女子9人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜3~4限)

今年の本ゼミでは、『社会政策』駒村康平・山田篤裕ら(著)・『教養としての社会保障』香取照幸(著)・『年金制度の展望』坪野剛司(著)の3冊(予定)に関して、毎週担当グループがレジュメ形式で要点秋学期については例年3年生・4年生の研究報告とそれに対する指導が中心に行われます。

- ② **サブゼミ(水曜3～4限)**
パートゼミ毎に分かれ、自分達で設定した研究テーマに基づき、研究活動に取り組んでいます。
- ③ **パートゼミ**
研究テーマごとに、少人数での研究班(パートゼミ)を構成し、論文作成を行います。三田祭論文やISFJ日本政策学生会議(他大学合同の論文コンテスト)で高評価が得られることを目指し、研究班ごとに取り組んでいます。今年のテーマは、介護、労働、教育、デジタルデバイドの4テーマです。なおパートゼミの研究テーマは、ゼミ員各自の関心ごとに沿って自ら設定しているため毎年異なります。
- ④ **インゼミ**
ありませんがISFJ日本政策学生会議への参加を通じ、他大学・他ゼミとの交流があります。
- ⑤ **課外活動**
パートゼミ活動の一環として、ISFJ日本政策学生会議へ参加しています。昨年度も複数の論文が受賞しています。
- ⑥ **三田祭**
ブースにてポスターセッション形式での論文発表を行います。また別途、口頭でのプレゼンを行います。
- ⑦ **夏休み**
研究班毎に集まり論文作成を随時進行します。8月中旬に大まかに論文を完成させ、今年は9月上旬の夏合宿で中間報告を行いました。
- ⑧ **合宿**
今年度も有志参加の1泊2日の新歓合宿で親睦を深め、全員参加の1泊2日の夏合宿では、主に卒業論文、各パートの共同研究の中間報告と質疑応答、指導が行われました。
- ⑨ **ゼミ必修授業**
「演習」、「社会政策論」、「社会福祉論」、「生活保障の再構築」を履修し、社会政策研究や分析を行う上で必要な知識・分析手法を学びます。
- ⑩ **経費**
輪読書購入の他、合宿費、ISFJ参加費、経ゼミ費等が適時必要になります。

6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**
山田篤裕他編【2014】『最低生活保障と社会扶助基準』明石書店
棕野美智子・田中耕太郎【2015】『初めての社会保障(第12版)』有斐閣
駒村康平・山田篤裕他【2015】『社会政策』有斐閣

7. **先生が担当している講義**
社会政策論(三田、春学期火曜日2限)、演習(三田、春学期火曜日3,4限)、生活保障の再構築(三田秋学期木曜日2限)

8. **ゼミHP・SNS**

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yamadasemi/>
Twitter @yamadaseminar

9. **連絡先**

外ゼミ代表 松村、三藤
入ゼミ担当 田宮

経済学史

思想史

池田幸弘研究会

川俣雅弘研究会

高草木光一研究会

池田幸弘研究会

—(経済学史・経済思想史)—

1. 研究分野

ゼミを開講してから、もっぱら新自由主義の経済政策思想を考察の対象にしてきた。前期は、反ケインズ派による著作を輪読の対象とする。今年にはシュンペーターの『資本主義・社会主義・民主主義』を輪読の対象としている。いままで輪読の対象としたものとして、ハイエクの『隷従への道』、同『法・立法・自由』などがある。これにより、ゼミの参加者は反ケインズ的な経済思想について一定の見通しがえられたはずである。毎年、後期には、四年生の卒業論文の報告が行われる。このために、四年生はある時期までに、各自のテーマと当該テーマについての参考文献表を作成することが求められる。卒業論文の内容について私のほうから制約することは考えてはいないが、経済思想、あるいは経済政策思想が担当者にとっては指導しやすい。ここでいう経済思想はケインズやスミスのような偉人のそれにとどまらない。偉人の経済思想をなんらかの形で体現した民間人、あるいは日常感覚のレベルで経済のことを思考の対象とした経済人、これらの思想はいずれも研究の対象となる。一例をあげよう。ハイエクなどの新自由主義的経済思想は、サッチャーやレーガンの経済政策に反映され、それが今日の日本の経済政策論議に一定の影響を与えるに至っている。たとえば、小泉政権下での構造改革が、どの程度ハイエク的な発想に基づいているかを検証することも当研究会の研究対象となる。経済思想は死んだ思想ではない。実務家の観念がいかにか過去の経済思想に拘束されているかを強調したのはかのケインズであるが、当研究会ではこのケインズの発言を具体的に論証していくことが一つの大きな課題となっている。

2. 学生への要望

経済学のような科学には、つねに学理と実践とのあいだの往復運動が必要である。実際の経済や実践についてなんの興味も持たないような経済学研究者はほめられた

ものではないし、また逆に日々の実践のなかで原理的な問題にぶちあたらないようなビジネスマンも寂しいのではないだろうか。実践で生じた問題について、広い意味での学理からの追求がもとめられているのである。こうした実践を意識した上での本格的な経済学研究は、むしろ卒業後にはじまるものなのかもしれない。大学人であるという制約から前者について助言を与えるということが主となるが、学生諸君が社会にでたときにおこりうるさまざまな問題に対処するための一定の視角を与えるということについては、おおいに興味があり、ゼミ員とはさまざまな問題について議論していきたいと考えている。なお、日本語を母語としない学生の参加も歓迎する。ゼミ全体の運営は日本語だが、個別報告、ディスカッションの一部を英語で行う準備はある。したがって、一定レベルの日本語能力がある学生は本ゼミナールに参加可能。

3. 選考について

- ⑥ 募集人員：合計で最大 15 名程度。
- ⑦ 選考内容：
A 日程：面接による。
B 日程：簡単な筆記試験(成績証明の提出を要する。ただし参考程度。)
- ⑧ 他学部生受け入れ可。パールプログラムの学生も歓迎する。ただし、基本的な日本語の能力は必要。
- ⑨ 選考基準：
A 日程：日吉での学習や読書についてうかがうことが多い。特段の準備は必要ないが、日吉で経済思想の歴史や近代思想史を受講していれば、当該分野についての一定の見通しを得ることができよう。
B 日程：筆記試験と日吉での成績による。重点は前者にある。

4. ゼミ員構成

- 4年生：男子12人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
- 3年生：男子12人、女子1人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4.5限)

池田ゼミでは主に経済思想史を中心に研究しています。今年はシムペーターの「資本主義・社会主義・民主主義」の輪読を行い、各々が読み解いた内容を元に様々な観点から考察し、ディスカッションを行っています。池田ゼミでは異なるバックグラウンドを持つ学生が所属しているため、学生同士が独自の意見を交え議論する事で様々な考え方に触れる事ができ、また他の学生からフィードバックを得る事により自身の考え方や価値観を広げる事もできるため、とても充実したゼミ生活を送る事ができます。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし(今年度)

⑥ 三田祭

なし(今年度)

⑦ 夏休み

なし(今年度)

⑧ 合宿

なし(今年度)

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

2000円+合宿費(2~3万円)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特になし

7. 先生が担当している講義

日吉：なし(曜 限)

三田：経済学史a/b (HISTORY OF ECONOMIC THOUGHT) (春秋火曜1限)

8. ゼミHP・SNS

なし

9. 連絡先

外ゼミ代表 関 正憲

(sakanatoneko12@gmail.com)

入ゼミ担当 田中瑛(ei.0818@icloud.com)

川俣雅弘研究会

—経済学史—

1. 研究分野

研究分野は基本的に経済学史ですが、経済学史にはさまざまなアプローチがあります。私の経済学史研究は、経済学の歴史に理論史的にアプローチすることです。すなわち、研究対象である過去の一連の理論をそれらの理論の発展型であると考えられる現在の理論から解釈し、公理系として定式化した上でそれらを比較・対照し、理論の歴史を公理系の展開として把握し、理論の系統樹を作成することを目指しています。

こうしたアプローチにもとづいて経済学史を研究する場合、経済理論の習得が前提になります。私の研究対象は、ミクロ経済学の基本的テーマである一般均衡理論および厚生経済学です。そこで研究会では、一般均衡理論および厚生経済学の理論研究を行うグループとその歴史を中心とする経済学史研究のグループに分かれて授業を進めています。卒論は、ゼミで習得した基礎知識にもとづいて、各自関心のあるテーマについて経済分析を行うか、経済学史研究を行うことになります。

経済理論の系統樹が作成できたとして、その系統樹において現代理論から過去に遡れる理論の流れにおいては、経済理論は明確に進歩しています。なぜ経済学の理論は進歩するのかを説明するおそらく最大の要因は、経済自体が発展することです。経済学は経済活動を事実解明的・規範的に分析する学問ですから、それは当然であるといえます。したがって、経済学史の研究には経済理論と経済史を関連させて研究することが重要です。そこで経済学史研究のグループでは、経済理論の歴史について研究するとともに、その理論が形成された時代背景となる経済がどのように発展したかについて学びます。

2. 学生への要望

研究会では、もちろん専門知識を習得して研究することを目指していますが、ほとんどの人は研究者になるわけではありませ

ん。また、経済学史は最先端の経済学を深く学ぶというより、歴史的に蓄積されてきているさまざまな考え方を吸収して自己の考え方を確立するという、バランス感覚を育てる学問です。そのプロセスで、論理的な思考と経験的事実に誠実に向き合う姿勢が重要だと考えます。研究会を、科学的なものの方の考え方を習得し、自分自身の知性を確立するステップにしてください。

また、ゼミの運営にはいくつかの役割分担があって、通常の授業を行うだけでは済みません。ゼミに入るとということは、そうした役割を分担するということを意味します。こうしたゼミの運営にも責任をもって参加してください。

3. 選考について

- ① 募集人員：全体で約 24～28 名
- ② 選考内容：英語とミクロ経済学の筆記試験と面接を行います。試験問題のサンプルと解法を適当な時期に keio.jp の授業支援システム「研究会 ab」に塾内公開の資料としてアップロードしますので、適宜試験の準備をしてください。
- ③ 他学部生、PERL 生も受け入れます。ただし、研究会は日本語で行われます。
- ④ 選考基準：研究意欲があり実際に努力をしていることが選考基準ですが、それは筆記試験の結果によって証明されると考えます。経済学史に関心をもつ人を優先的に採用します。

4. ゼミ員構成

4年生：男子18人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)
3年生：男子22人、女子6人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(火曜4、5限)
あり

- ② サブゼミ(曜 限)
なし
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
なし
- ⑤ 課外活動
なし
- ⑥ 三田祭
なし
- ⑦ 夏休み
なし
- ⑧ 合宿
あり
- ⑨ ゼミ必修授業
なし
- ⑩ 経費
合宿費 2、3万
- 6. ゼミ試験対策で使用了参考書
なし
- 7. 先生が担当している講義
日吉：経済思想の歴史(秋、月曜5限)
三田：経済学史1a,2b(春秋、火曜
2限)
- 8. ゼミHP・SNS
なし
- 9. 連絡先
外ゼミ代表
矢野百合子 (yuriko.yano@keio.jp)
入ゼミ担当
梅澤涼平(ryohei2007@hotmail.co.jp)

高草木光一研究会

—社会思想史—

1. 研究分野

私自身の専門領域は19世紀フランス社会思想史であるが、ゼミ員の研究テーマは広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。これまでの本研究会の卒業論文を見ても、ルソー、マルクス、ウェーバー等の大思想家の古典を研究するというオーソドックスなものから、ファッションやメディア、「らい病院」や吸血鬼伝説を対象にするものまで、選択の幅は広い。現代社会に対する何らかの批判的問題意識をもち、歴史的、思想史的方法で研究しようとする意思があれば、対象に限定はしない。

もとより社会思想史は、その学問の性質上、学際的なものにならざるをえない。経済学、歴史学、哲学、社会学、政治学、文学等々、隣接の諸分野の成果を学びつつ、今後その確立を目指している新しい分野でもある。もちろん社会思想史にも一定のディシプリンはあるが、むしろ新たな社会思想史をつくるという気概をもって研究に取り組んでもらいたい。

ゼミの活動は個人報告と輪読からなる。これまで輪読に使用した主な文献は以下のとおりである。

- ・アガンベン『ホモ・サケル』（以文社）
- ・アーレント『人間の条件』、『革命について』（ちくま学芸文庫）、『イェルサレムのアイヒマン』、『暴力について』（みすず書房）
- ・イリイチ『脱病院化社会』（晶文社）、『生きる思想』（藤原書店）
- ・カント『永遠平和のために』（岩波文庫）
- ・クーン『科学革命の構造』（みすず書房）
- ・シュミット『政治的なものの概念』（みすず書房）
- ・シンガー『実践の倫理』（昭和堂）
- ・セン『合理的な愚か者』（勁草書房）
- ・ハイエク『科学による反革命』（木鐸社）
- ・ハーバーマス『公共性の構造転換』（未来社）
- ・バーリン『自由論』（みすず書房）
- ・フーコー『監獄の誕生』、『性の歴史』全3巻（新潮社）、『臨床医学の誕生』（みすず書房）
- ・プラトン『国家』上下（岩波文庫）

- ・マルクス『経済学・哲学草稿』（岩波文庫）
- ・J・S・ミル『自由論』（光文社古典新訳文庫）
- ・ランシエール『民主主義への憎悪』（インスクリプト）

2. 学生への要望

自分自身の問題意識と社会思想史という学問領域との接点を見いだしておくことが必要である。具体的には、以下の著作等を読んで、自分が研究したい大まかなテーマを決めておくこと。

- ・慶應義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間』、『マイノリティからの展望』、『家族へのまなざし』、『経済学の危機と再生』＜市民的共生の経済学＞全4巻（弘文堂）
- ・高草木光一編『「いのち」から現代世界を考える』（岩波書店）
- ・高草木光一編『一九六〇年代 未来へつづく思想』（岩波書店）
- ・高草木光一編『思想としての「医学概論」』（岩波書店）
- ・高草木光一『岡村昭彦と死の思想』（岩波書店）
- ・高草木光一『松田道雄と「いのち」の社会主義』（岩波書店）

3. 選考について

- ① 募集人数：AB日程あわせて8名程度。
- ② 選考内容：小論文と面接による。小論文の課題は事前に知らせる。
- ③ 他学部入ゼミ：可
PERL生受け入れ：否
- ④ 選考基準：卒業論文を書く意欲と能力があるかどうかを判断する。

4. ゼミ員構成

- 4年生：男子3人、女子1人
（他学部0人、留学中0人）
3年生：男子6人、女子1人
（他学部0人、留学中0人）

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜 曜4,5限)

当研究会では毎週水曜日の4、5限を使って社会思想史関連の著作の輪読と書評を行っております。担当者が作成してきたレジュメをもとにディスカッションを行うため、批判的思考・論理的思考が磨かれます。また、担当者になると7~8ページ程度レジュメを作成することになるので、論文の書き方が上達します。

輪読する著作は先生の方から指定され、書評は担当者が自由に選択することができます。今年度前期の輪読では『平和主義とは何か 政治哲学で考える戦争と平和』松本雅和著や『トクヴィル平等と不平等の理論家』宇野重規著 といった著作を扱いました。また書評では女性史やガンディー、マルコムX等といった著作を扱いました。

当ゼミの特徴と致しまして、サブゼミやパートゼミ三田論を行なっていないため、ゼミ以外の自分のやりたいことに時間を十分に割けるという点です。実際にサークル員はサークル活動や資格勉強、就職活動等に必要な時間をしっかり割くことができます。ゼミでの活動もしたいけど他にもやりたいことがあって悩んでいるという方も是非お越しください。

② サブゼミ(曜 限)

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

なし

⑥ 三田祭

なし

⑦ 夏休み

⑧ 合宿

今年度は行いませんでした。

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

輪読用の本代と経ゼミ費がかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験は行いませんので参考書はございませんが、書評を提出して頂くので読書しておくことをおすすめ致します。ゼミ生が実際に読んだ本やおすすめの本に関しては今後の説明会やSNS等でお伝えしていこうと考えております。

7. 先生が担当している講義

日吉 :なし

三田 : 社会思想史a,b(前期のみ、水曜1,2限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter @keio_takakusagi

9. 連絡先

外ゼミ代表

梅田耕将(dominikosuke@yahoo.co.jp)

入ゼミ担当

木根原健太(kentakinehara@keio.jp)

社会思想史

坂本達哉研究会

壽里竜研究会

坂本達哉研究会

—社会思想の歴史と理論—

1. 研究分野

私の研究分野は英米を中心とする社会思想史です。イギリスの18世紀思想史が専門で、ヒュームやスミスがその中心です。同時に、私の学問的関心は幅広く、19世紀のミルやマルクス、20世紀ケインズやロールズ、日本の福沢諭吉や丸山真男にまで及んでいます。『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』(名古屋大学出版会)をぜひご覧下さい。

偉大な思想家の言葉が現代人の知性と精神に訴えると言うことを、私はヒューム、スミス、ルソー、ミル、ケインズ等の思想家たちから教わりましたが、古典的な思想家たちの諸作は、みな同じ力をもっています。「古典」のもつこの強靱な力を皆さんに実際に感じてほしいと希望しています。それは学問だけの問題ではありません。皆さんのこれからの人生にとって、大きな指針と励ましになるでしょう。

グローバル化した現代社会が直面する問題は、いずれも高度に複雑で、さまざまな利害が絡み合い、これまでの常識や良識が通用しない世界です。

現代の格差問題や過激なテロリズムの問題と取り組もうとするとき、経済学の理論的知識だけでは十分ではありません。経済学の基礎知識の上に、経済学そのものを生み出した近代社会と資本主義の歴史と思想を深く知らなければなりません。

こういふときこそ、一度立ち帰るべきは古典的な思想の世界です。複雑な現象の根底に、意外と古くて新しい基本的問題が潜んでいることを発見するでしょう。「経済学の父」であったアダム・スミスが「道徳哲学」の教授であったことの意味をもう一度かみしめたいと思います。

皆さんには、社会思想の研究を通して、物事を歴史と思想の幅広い視野

から柔軟に考えることのできる学問の方法を学んで欲しいと思います。

2. 学生への要望

私の専門は上に書いたとおりですが、研究会の学生諸君の研究テーマはまったく自由です。学生諸君の個性や自由を最大限に尊重します。「古典」の力を実感してほしいという考えには変わりありませんが、「古典」の範囲は幅広く、学生一人一人の選択の余地は無尽です。

希望としては、混迷する人類社会の現状において、人間と社会にかかわる物事を根本から考え直してみたいという意欲があってほしいということです。社会思想にかんする予備知識は必要ありません。ゼミ員間の対等な関係と自由な研究態度の尊重は、私が最も重視する坂本研究会のポリシーです。

研究会の目的は、学生ひとり一人が、学問的な切磋琢磨をつうじて人間としての成長(「個」の確立)を実現することです。ゼミは、卒業単位を稼ぐためでも、就職活動の一環でも、友達づくりの場でもありません。この点を十分に理解した学生諸君の入会を希望します。

3. 選考について

- ① 募集人員:今回は、複数回の選考を合わせて、10-15名を考えています。とくに、多様性重視のポリシーにもとづいて、外国人学生の入会を歓迎します。
- ② 選考内容:当日の小論文と面接によります。小論文は現代の政治・経済・社会問題への思考力を確かめます。面接は自己主張力と個性を見ます。いずれも特別の準備は必要ありませんが、『社会思想の歴史』(上記)の一読を薦めます。

- ③ 他学部入ゼミ:可
PEARL 生受け入れ:可
- ④ 選考基準:なぜ坂本研究会を志望するのか、その動機・理由を明確にしておいて下さい。

4. ゼミ員構成

4年生:男子5人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子9人、女子4人
(他学部2人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4、5限)
 - ② サブゼミ(曜 限)
学生の希望により行う場合あり
 - ③ パートゼミ
なし
 - ④ インゼミ
なし
 - ⑤ 課外活動
ソフトボール大会に任意で参加
 - ⑥ 三田祭
学生の希望で行う場合あり
 - ⑦ 夏休み
下記の合宿のみ
 - ⑧ 合宿
例年9月に箱根で二泊三日の合宿を実施。主な内容は研究発表と討論のセットで、4年生は卒論の途中報告、3年生は卒論を意識した内容発表となっています。討論が終わってからは飲み会などを実施してゼミ員同士の親交を深めています。
 - ⑨ ゼミ必修授業
坂本先生の担当する授業以外は特にありません。
 - ⑩ 経費
合宿費約2万円
ゼミ費 2000円
その他ゼミで使用するテキスト代
- #### 6. ゼミ試験対策で使用した参考書
- 特別な試験対策をする必要はありませんが、坂本先生の「社会思想の歴史」を一読することをお勧めします。

7. 先生が担当している講義

日吉： (曜 限)
三田：社会思想史b(秋 金曜4限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter:@sakamoto2019

9. 連絡先

外ゼミ代表 白土恵
(megumi_s1026@keio.jp)
入ゼミ担当 山品竣(y1108shun@keio.jp)

壽里竜研究会

—社会思想・社会思想史—

1. 研究分野

私の専門は18世紀ヨーロッパの社会思想史であり、主な研究対象はデイヴィッド・ヒュームやジャン＝ジャック・ルソーなどである。ヒュームは経済学の祖と言われるアダム・スミスの親友でもあり、経済学的な著作も残しているが、同時に哲学者・歴史家としても知られている。またルソーは、経済学史に個別の貢献をしたわけではないが、文明批判という形で商業活動を中心原理とする近代社会そのものを批判した思想家であった。いずれも特定の学問の名前を冠した「〇〇学者・思想家」と限定されない点に特徴がある。

そこで、本ゼミにおいても、経済(学)的な領域と他領域(哲学・政治・法・倫理)との関連について考えていきたい。ゼミにおける研究対象は、18世紀に限定せず、広い意味での哲学—政治哲学(公共哲学)と経済思想・倫理—における様々な「主義」である(本ゼミの守備範囲を知るための一つの手がかりとして、ゼミで輪読予定のマイケル・サンデル著『これからの「正義」の話』をしよう:いまを生き延びるための哲学)[鬼澤忍訳、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2010年]を参照)。本ゼミを通じて、一見すると経済学とは関係のなさそうに見える諸問題も、私たちが目指す社会のあり方とは切っても切れない関係にあること、経済学的思考の適用範囲の広さと限界とを学んでもらいたい。

ゼミの進め方については、代表的な思想的立場(功利主義、リベラリズム、リバタリアニズムなど)を扱った本をテキストとし、輪読・ディスカッションを中心とする。また、学期末ごとのレポート提出を義務づけ、ゼミ生の問題発見能力・批判的思考・論理的思考を養うことに努めている。

2. 学生への要望

本ゼミで扱うテキストに数式は出てこないが、政治学・哲学・倫理学・歴史など、多分野にわたる幅広い知識が必要となってくる。「数学が苦手だから」という消極的な理由での応募は勧めない。ふだんから本を読

む習慣を身につけていること、幅広い関心を持っていることが求められる。本ゼミで学ぶ内容について特別な予備知識を持っている必要はないが、遅刻・欠席、議論への不参加、提出物の遅延・未提出は、成績評価・単位取得に著しく影響する。予習・復習もせず、ゼミの最中、黙って座っているだけで単位がくることはない。ゼミ生間の人間関係について、サークル的な親しさは求めている。むしろ、一個人として、相手との間に個人的な親しさがなくても自分の意見を伝えられる公共性こそが求められている。

3. 選考について(第一回ゼミ説明会の時の情報から変更があるので、注意)

①募集人数:8~10名程度(注意:曜限は2018年度の月曜日4・5限から、2019年度は火曜日4・5限に変更予定)。

②選考内容:選考日午前中のテストと午後の面接(注意:昨年度までの事前レポート提出からテストに変更した)。

③他学部入ゼミ:可
PERL生受け入れ:可(最大で3~5名程度)

④選考基準
午前中のテストでは、事前に指定した本の一部の内容についてテストを行い、一定の点数以上の応募者について午後に面接を行う。詳細は別途「入ゼミ選考方法」や、以下のゼミのTwitterとHPなどで示す。

<https://twitter.com/keiosusato>

<http://susato.wp.xdomain.jp/>

4. ゼミ員構成

4年生:男子7人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子9人、女子3人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4,5限)

本研究会ではマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』を皮切りに、テキストの輪読・ディスカッション、レポート作成を通して、経済問題を含む社会問題を様々な哲学的立場から考察していきます。経済問題を哲学的に考えるというのは難しく感じられますが、実際には身近な問題を取り上げ、興味深い題材をもとに活発な議論が繰り広げられています。プレゼンテーションやレポートの準備段階では、先生が細かく添削指導して下さるので、アカデミックな文章を作成する力をつけることもできます。本ゼミは設立2年目のゼミであり、学生主体の自由な雰囲気の中、日々活動しています。

② サブゼミ(曜 限)

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

ソフトボール大会等

⑥ 三田祭

なし

⑦ 夏休み

レポート提出

⑧ 合宿

一泊二日(草津)

夏休みに提出したレポートの講評を行います

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

経ゼミ費2000円

合宿費15000円

その他テキスト代

6. ゼミ試験対策で使った参考書

特になし

7. 先生が担当している講義

日吉：秋学期開講授業なし

三田：秋学期開講授業なし

8. ゼミHP・SNS

HP <http://susatosemi.site/>

twitter @keiosusato

9. 連絡先

外ゼミ代表 木村雄貴

(yuki.kimura0808@gmail.com)

入ゼミ担当 瀬尾一誠

(isseimail.com@gmail.com)

經濟地理

河端瑞貴研究会

武山政直研究会

河端瑞貴研究会

— 地理情報科学(GIS), 経済地理, 都市地域政策 —

1. 研究分野

「空間」を切り口に、現実の都市・地域の経済・政策課題を分析します。分析には、地理情報システム(GIS)を活用します。GISを用いると、空間情報を可視化したり、加工・作成、分析したりできます。GISは様々な分野で活用されていますが、経済学においても、GISを用いた研究が増えています。政府によるオープンデータの推進等により、GISで利用できる空間データが爆発的に増えています。経済・政策課題の多くは、「空間」に関連しています。医療、環境、交通、福祉、防災などの政策課題を見ても、都市・地域の空間構造と密接に関わるものが少なくありません。発達著しいGISと空間データを活用することにより、経済・政策課題の理解や解決に有益な知見が提供できると期待しています。近年は、GISと空間統計を組み合わせた研究にも力を入れています。

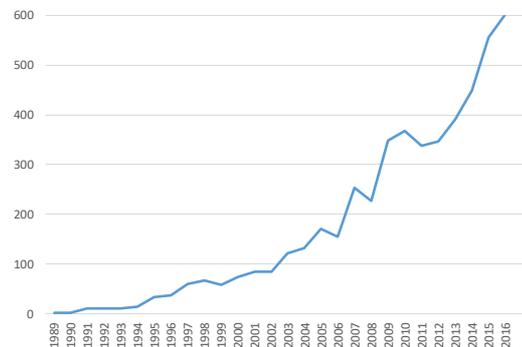
2. 学生への要望

都市・地域の「空間」に関わる経済・政策課題に興味があり、研究したい人。GISと統計手法の習得と活用に意欲のある人を歓迎します。出席重視のため、欠席が多く見込まれる場合は入ゼミをご遠慮ください。

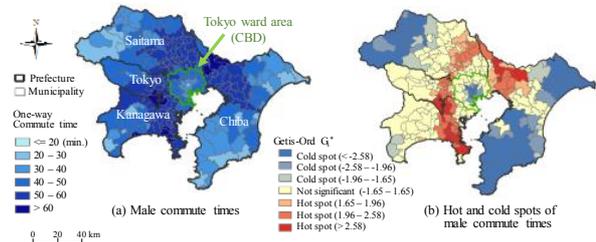
3. 選考について

- ① 募集人員: 約 15 名
- ② 選考内容:
 1. 1次試験: 筆記試験(統計学、ミクロ経済学(教科書持込可、電子機器持込不可))
 2. 面接試験(1次試験合格者のみ)
 - ・ 試験当日、成績表持参(1・2年)[学籍番号・氏名を記載した keio.jp 印刷物可]
 - ・ 願書の志望理由の中で、研究したい都市・地域の「空間」に関わる経済・政策課題を説明してください。

- ③ 日本語のゼミ活動に問題のないPEARL生は可能です。他学部の入ゼミも可能です。
- ④ 選考基準: 1次試験は主に筆記試験および願書の内容で選考します。2次試験は面接で選考します。
- ⑤ 最新情報については、教員および研究会ホームページ・Twitterをご確認ください。



GISと経済に関連する学術文献数



通勤時間のホット/コールドスポット

4. ゼミ員構成

4年生: 男子14人、女子4人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子10人、女子6人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(火曜3,4限)

1. 輪読: 経済地理・都市経済学・計量経済学についての本を主に取り扱い、知識を深めています。
2. GIS,R言語演習: 前半にスキルを学び、後半にそのスキルを用いて、経済分析を行っています。スキルだけ

でなく、有効な使い方や切り口についても学ぶことができます。

3. 論文報告:4年生は卒業論文、3年生は三田祭論文について定期的に報告を行っています。

② サブゼミ(火曜5限)

サブゼミは3年生のみで自主的に行います。現在はGIS演習や三田祭論文の研究を進めています。

③ パートゼミ

現在は行なっていません。

④ インゼミ

現在は行なっていません。

⑤ 課外活動

特筆すべきものはありません。研究において必要になった際、各自で行います。

⑥ 三田祭

3年生が5人程度のグループに分かれて、論文を作成し、発表します。

⑦ 夏休み

論文発表に向けて、ゼミ合宿等で研究を行います。

⑧ 合宿

毎年8月か9月に関東周辺で2泊3日程度の合宿を行います。オンオフのはっきりした楽しくも充実した合宿です。

⑨ ゼミ必修授業

河端先生の経済地理をゼミ必修として3年生で履修します。また、計量経済学の基礎的な知識が必要となる為、計量経済学の授業も推奨されています。

⑩ 経費

教科書代、合宿費等。また、GISを自宅で使用したい場合、ある程度のスペックを持ったPCが必要となります。詳しくはゼミ員にお尋ねください。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

日吉時代に使用したマイクロ経済学、統計学の参考書。特別に推奨されている参考書はありません。

7. 先生が担当している講義

日吉：経済と環境(月曜2限)

三田：経済地理(火曜2限)

8. ゼミHP・SNS

HP :

<https://sites.google.com/keio.jp/mizuki-seminar/>

Twitter : @kwbt_seminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 田島 友貴

(yuki25.giants.yankees@gmail.com)

入ゼミ担当 宇土原 美月

(m.udohara91@keio.jp)

武山政直研究会

—サービスのデザインとイノベーション—

1. 研究分野

本研究会では、サービスデザインの方法を学ぶとともに、ビジネスイノベーションをテーマに実践的研究を行います。

サービスデザインは、1980年代に誕生した、デザインとビジネスを横断する価値創造の方法です。特に近年のサービスは、情報ネットワークの発展と普及を背景に、人の活動、モノ、メディア、活動、場所の組み合わせによって実現されるようになっていきます。そのような様々な資源の組合せによって、新たな価値や事業を生み出すことに、この分野のチャレンジと面白さがあります。

研究への導入として、デザイン思考を体験的に学びます。デザイン思考は、問題の性質や範囲が明確でない状況において、探索的に問題と解答を同時に導いていく創造的な問題解決法です。それは、抽象と具象、感覚と論理、主観と客観を往復するところに特徴があります。また、戦略的にサービスのイノベーションを生み出すための発想法、参加型デザインワークショップなどの技法を順に習得していきます。

研究活動の多くは企業との連携による産学共同プロジェクトとして進められ、他学部の研究室とのコラボレーションが行われることもあります。

2018年度に取り組んでいる研究テーマは、以下の通りです。

- 1) 音のVRを活かしたコミュニケーションサービスの可能性
- 2) エクストリームユーザー調査と未来洞察から発想する冷蔵庫の未来と食料保管の新サービス
- 3) 網島スマートタウンのイノベーションラボを活用したIoTサービスの開発
- 4) 行動経済学を応用した家計支援サービス

2. 学生への要望

社会やビジネスが大きく変動する今日において、新しい価値を生み出すために、正解の無い可能性の世界を探索し、未来に形を与えていくデザイン力が求められています。

デザインというと、おしゃれなスタイリングや特別な才能を持ったデザイナーの姿を想像しがちですが、すべての人に、人間が持って生まれた基本的なデザインの力を発揮するチャンスが与えられています。

現在の学校教育では既存の問題に正答することが重視され、新しい問題を見つけ出すことや、あるべき世界や自分の姿を問う機会は、ほとんど与えられていません。学生たちも、大学の授業やゼミを、知識を身につけ、正解を導くスキルを学ぶ場とらえているのではないのでしょうか。

本研究会では、製品やサービス、ビジネスモデル、社会の組織や制度、知識や常識はすべて可変であるとの前提から知的な冒険をはじめます。そして、これまでにない豊かさや喜びをつくり出そうとする意思と勇気を持った学生たちが、志を同じくする人々との交流を通じて、自らのアイデアを表現し、実現する試行錯誤を繰り返しています。

このような研究会の問題意識と文化に共感し、世の中を変えていくチャレンジ精神に満ちあふれた学生との出会いを、楽しみにしています。

3. 選考について

- ① 募集人員：15名程度
- ② 選考内容：
1次) レポートと成績票コピー
2次) 面接
- ③ 他学部入ゼミ：可
PERL生受入：要相談
- ④ 選考基準：研究動機・ゼミ重視度等

4. ゼミ員構成

4年生:男子6人、女子7人
(他学部4人、留学中0人)
3年生:男子8人、女子4人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4,5限)

武山ゼミの専攻分野は、サービスデザインです。クライアント企業と連携してサービス開発に取り組みながら、デザイン思考を体験的に学んでいます。学生4-6人で1つのプロジェクトチームを組んでおり、先輩後輩が対話しながらプロジェクトワークに取り組みます。そして月曜日の本ゼミでは、進捗状況をプレゼンテーション形式で報告します。先生からのフィードバックをもらい、その後のプロジェクトワークに活かしています。

② サブゼミ(水曜4,5限)

水曜日のサブゼミでは、各プロジェクト班で集合し学生のみでプロジェクトワークに取り組みます。インタビューリサーチの設計やインサイト抽出などを通して、アイデアを柔軟に発想する力や論理的な思考力を鍛えることを目的としています。(※金曜日にサブゼミを行なっている班もあるように、サブゼミの開催曜日は班員と相談して都合の良い曜日に行うことが可能です。)

③ パートゼミ

(不定期)

④ インゼミ

(不定期)

⑤ 課外活動

(不定期)

⑥ 三田祭

三田論なし

⑦ 夏休み

活動あり。頻度はプロジェクト班によって異なります。

⑧ 合宿

年に2回ほどあり。

⑨ ゼミ必修授業

特になし。ただ多くのゼミ生が、武山先生が担当している経済地理を履修しています。

⑩ 経費

合宿費のみ。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

知識を問う試験ではないため指定参考書はありません。しかし、Twitterや公式HPでデザイン思考・サービスデザインの理解を手助けしてくれる推薦図書は毎年紹介しています。試験対策を何から始めて良いかわからない場合にはチェックしてみると良いと思います。また確定ではありませんが、例年の入ゼミ選考フローは以下の通りです。

選考フロー

- 1) ES
- 2) 課題レポート
- 3) 教授面接

募集人数:12名程度(学部は問わない)
A日程B日程共に募集。

7. 先生が担当している講義

日吉: 経済と環境(春学期、火曜5限)
三田: 経済地理(通年、月曜2限)

8. ゼミHP・SNS

ゼミHP: <http://keg-lab.jp/>
Twitter: @Takeyama_2019
LINE@: @zpf6060q

9. 連絡先

外ゼミ代表
余承知(shochi0213@gmail.com)
入ゼミ担当
森野未佳(mikamorino1126@keio.jp)

開発経済学

大平哲研究会

山田浩之研究会

大平哲研究会

—開発経済学・地域経済学—

1. 研究分野

国内外の地域経済に関する諸問題について勉強しています。具体的な地域を取りあげ、その経済の動きを理解するための経済学的手法を学習することが研究会の主な活動目的です。

開発経済学の理論の考え方を確認するように努力しています。具体的な経済分析では、基礎にある理論の考え方の理解よりも、分析者にとって都合の良い結論をはやく出すことが優先されがちです。しかし、どのような理念に基づいて作られたものなのかをきちんと理解しなければ分析の内容が希薄になります。都道府県庁や援助機関が実際につかっている研究報告書を正確に読む能力を身につけることが目標ですが、その基礎にある経済学の考え方を確認することに時間をかけます。

ものごとを見る基本的な視点を身につけることこそが大学での学習での眼目です。経済学の考え方を基礎にしながらか地域経済を理解することを本研究会では重視します。その際必要があれば、現地にいた人に会うことや、対象地域に行くことも推奨しています。

実際の研究会活動は本ゼミとサブゼミとにわかれます。今年度の本ゼミでは、三田祭論文の参考文献について理解を深める輪読、三田祭論文の中間発表、フィールドワークの聞き取り練習などをおこなっています。サブゼミでは、学生が自主的に選択した三田祭論文のテーマについて議論を深めています。その際、可能な限り実際の現場を見るようにしています。文献調査でわかったつもりになっても、実際の現場を訪問し関係者の話を聞くと、理解が深まるものです。

2. 学生への要望

入ゼミ時点での経済学の理解度はそれほど高度なものを要求しません。大事なのは、マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、どれでも物怖じせず理解しようとする姿勢と、そのための基礎学力です。数式展開をはじめとする理論操作の能力よりも、理論

の考え方を理解しようとする学生が集まることを望んでいます。

また本研究会では、国内、国外のバランス、理論と実際のバランス、等々、さまざまな面でのバランスと多様性を大事にしています。

3. 選考について

- ① 募集人数
12名程度
- ② 選考内容
未定
昨年度の例:
(1)今すぐ三田祭論文を書くことを想定した研究計画書の作成
(2)面接と成績表の提出
- ③ 他学部入ゼミ: 可
PEARL生受け入れ: 可
- ④ 選考基準
非公開です。

4. ゼミ員構成

- 4年生:男子8人、女子3人
他学部0人、留学中2人)
3年生:男子10人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(火曜4、5限)
輪読と各サブゼミグループの発表をおこないません。今年度は三田祭論文の各サブゼミグループ参考文献を輪読しています。
- ② サブゼミ(グループによる)
サブゼミで扱うテーマは自分たちで決めることができます。今年度はモンテディオ山形の新スタジアム建設に関する提言、北海道における鉄道経営、東伊豆市への外国人観光客の誘致の3つについて研究しています。
- ③ パートゼミ
②を参照してください。
- ④ インゼミ
おこなっていません。
- ⑤ 課外活動

飲み会、旅行などを適宜ゼミ員が企画しています。

⑥三田祭

本年度はサブゼミで扱うテーマについての発表をおこなう予定です。

⑦夏休み

夏合宿以外は参加必須の活動はありません。しかし3年生はグループごとに三田際論文完成に向けて活動する場合があります。

⑧合宿

5月: 新歓合宿(1泊2日)

ゼミ員の親睦を深めるため、茨城県石岡市にある有機農園のあらき農園で農業体験をし、近くの宿泊施設に宿泊しました。

9月: 夏合宿(1泊2日)

長野県安曇野市にて、3年生の三田論完成に向けての発表や4年生の卒論中間発表をし、BBQを楽しみました。

⑨ゼミ必修授業

先生が三田で開講している授業は、研究会での理解を深めるため履修を強くすすめます。

⑩経費

新歓合宿と夏合宿あわせて3万円程度です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

昨年度はテーマが人それぞれだったので、決まった参考書はありませんでした。

7. 先生が担当している講義

日吉 : マクロ経済学初級Ⅱ(秋・火曜1限)

三田 : 農業経済論a/b(春秋・火曜3限)、格差と援助の経済学(春秋・水曜1限)、演習(半期)(春・水曜2限)

8. ゼミHP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/seminar/>

twitter: @OhiraSeminar

9. 連絡先

外ゼミ代表 日當貴雄

入ゼミ担当 把田賢吾

メールアドレス:

ohira_seminar@tets.econ.keio.ac.jp

山田浩之研究会

—開発経済学・経済発展論—

1. 研究分野

私の研究分野は広く言うと経済発展論、とりわけ開発経済学です。開発経済学は開発途上国や新興国が直面する様々な課題を扱う研究分野です。よって、計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎にし、応用分野からの必要な知識をも総動員して課題に取り組む必要があります。私自身のこれまでの研究も、為替制度に関する国際金融分野のものから開発途上国の現地医療従事者の働くインセンティブまで、多岐に渡っています。

これらを踏まえ、本研究会では主にアジア・アフリカを中心とした新興国・開発途上国の経済問題に関しての知識及び分析能力の習得に主眼を置く予定です。とりわけ、関心分野のトピックの分析を行えるようなデータ分析の能力を磨きます。さらに論理的思考能力・文章執筆能力・プレゼン能力を養うために、グループに分かれての論文の執筆とチームに分かれてのディベートを開催する予定です。また、学生の希望と主体性を重んじた上で、可能であれば海外合宿もしくは学生自身で実施するスタディーツアーも検討します。

私自身が、「自分が学部時代にこんな研究会があったら良かったなあ…」という研究会にしたいと考えています。ただし、あくまでゼミ生の自主性を尊重したいと考えています。また、青年海外協力隊や、海外留学、国際機関での経験の話なども(もし聞かれたら)ゼミ生とはしたいと思っています。今回で5回目の募集となりますが、4期生までのゼミ生は自主性を大いに発揮し、教員の予想を上回るパフォーマンスを見せてくれています。

将来国際機関で働きたい人や国際的な仕事をしたい人、開発経済・国際経済の研究者を目指す人向けの研究会を念頭に置いています。日本の将来を真剣に考えたいという人も歓迎します。

2. 学生への要望

開発経済学に興味を持たれる学生さんのきっかけ・動機は様々だと思いますし、大

きな心意気をもってゼミを志望してくれることは素晴らしいと思います。ただし、そういった心意気だけで通用するほど世の中は甘くありません。心意気の土台となる様々な能力をこの研究会を通して身に付けて行って欲しいと思います。ゼミの活動は日が経つにつれて本格化し、時間を惜しみなく注ぎ、レベルも上がります。強い問題意識と、ゼミに積極的に参加・貢献したい学生のみを求めます。「緩いゼミ」や「楽勝ゼミ」ではないので、やる気が続かない人の応募はお勧めしません。

また、日吉のミクロ・マクロ・統計といった基礎的な科目をしっかり履修し、取りこぼさないようにして下さい。これらはゼミで学ぶ内容の土台となるだけでなく、再履修のために日吉に通うことになる、本ゼミ以外での活動に支障をきたし他のゼミ員に迷惑がかかる可能性があるからです。

3. 選考について

- ③ 募集人数: 約10名
- ④ 選考内容: レポート、成績、面接
- ⑤ 他学部入ゼミ: 4月から参加可能なら可
PERL生受け入れ: 行わない
- ④選考基準: レポート、志望動機、成績、面接による総合評価

4. ゼミ員構成

- 4年生: 男子5人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)
- 3年生: 男子8人、女子3人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4~5限)
<春学期>『開発経済学—貧困削減へのアプローチ』と『Introduction to Econometrics』の輪読を行い、プレゼン・ディスカッションを通して開発経済学と計量経済学の基礎を学びます。
<秋学期>3年生は三田祭論文の執筆活動を行います。4年生は卒業論文の進捗報告を行います。

② サブゼミ(金曜4～5限)

基本的に3年生のみで行います。春学期はデータ分析に必須のツールとして統計ソフトStataの操作方法を習得します。秋学期は三田祭論文の執筆に取り組みます。

③ パートゼミ

パートゼミは行っていません。

④ インゼミ

例年早稲田大学の戸堂ゼミと行っていません。

⑤ 課外活動

⑥ 三田祭

三田祭論文の出展発表を行います。

⑦ 夏休み

合宿を行います。またグループごとに三田祭論文の執筆準備を進めます。

⑧ 合宿

毎年夏休みに途上国でスタディ・ツアーを行っています。今年はインドに1週間滞在しました。

⑨ ゼミ必修授業

開発経済学a/b

⑩ 経費

ゼミ費5000円、その他合宿費などがかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

事前に発表された課題から各自内容に合わせた参考図書を使用します。

7. 先生が担当している講義

長寿と金融(三田、水曜日2限)

開発経済学a/b(三田、金曜日2限)

8. ゼミHP・SNS

Twitter: @hyamadaseminar

HP:

<https://486915.wixsite.com/hyamadaseminar/about>

9. 連絡先

外ゼミ代表

木村賢一郎(kkimura0822@keio.jp)

入ゼミ担当

那須野栄祐(n-eisuke0608@keio.jp)

応用ミクロ経済学

中嶋亮研究会

藤田康範研究会

赤林英夫研究会

中嶋亮研究会

—応用ミクロ計量経済学—

1. 研究分野

①教員の研究分野

私の研究テーマは社会的相互作用の実証分析で、人々が市場を超えたチャンネルで互いに影響しあうメカニズムと、その相互作用から発生する外部経済性をデータで検証することを行っています。詳しい研究内容については経済学部 web サイトの教員紹介ページとリンクされた私のホームページをご覧ください。

②ゼミでは何を行うか？

経済実証分析の基礎的な手法を身につけることで、データの背後にある経済原理を論理的に理解する能力を身につけることを目的とします。

まず、計量経済学の教科書や経済学に関連した一般書の輪読を行い、経済実証分析の基礎的な手法を学習します。¹

次に、3年生では、少人数(例年四人程度)のグループ研究を通じて、現実の経済・社会問題に計量経済学の分析ツールを適用し、世にあふれるさまざまな仮説を検証する方法について実践的に学習します。三田祭論文(三田論)コンクールでその成果を発表することが求められます。4年生では、自らが行った経済実証分析で明らかになった発見をもとに論文の主張を説得的かつ論理的に論述することを学びます。その成果を卒業論文として提出することがゼミ単位取得の必須要件です。

三田論と卒論で実施する経済実証分析の内容は指導教員である私の研究テーマと一致する必要はありません。私がゼミ生に分析対象を指定することはありません。学生は自ら設定

した問題に自分なりの解答を見いだすために、データを集め、適切なツールをつかって分析することが求められます。

2. 学生への要望

このゼミでは「わかっていること」(知識)より「わかろうとすること」(意欲)を大切にします。よって「わかろうとする」努力を惜しまない学生を歓迎します。具体的に以下のような学生を希望します。

a)常識を疑い、それを自ら検証することを厭わない学生 ——「世間ではXXっていわれているけど、それホント？一丁調べてみるか。よくわからないけど、とりあえずここから調べよう。」という健全な懐疑と迅速な行動力を持つ学生を優遇します。

b)自ら調べて学ぶことができる学生 —— 私は研究者であります、良い教育者ではないようです(教員免許もありません)。ゼミでは実証分析の手法と経済学的な考え方を伝授しますが、三田論・卒論を執筆するためにはそれだけでは不十分です。不足部分は自ら学習する必要があります。私は求められれば手助けしますが、こちらから手取足取り指導することはありません。

c)無駄を楽しめる学生 —— 殆どの学生にとって実証経済分析の手法は将来のキャリアには訳に立たないでしょう。ゼミでの学習が就職活動に有利に働くこともなさそうです。よって、ゼミ活動は「無駄」のように思えるかもしれませんが、²しかし、長い人生「無駄」もたまには必要です。無駄な努力も、それはそれでオモロイと思うことができる人材を求めます。

¹具体的には計量経済学の教科書として Stock and Watson "Introduction to Econometrics"、Angrist and Pischke, "Mastering Metrics"、森田果『実証分析入門』を読みました。経済学一般書としてリチャード セイラー『行動経済額の逆襲』やポール・オイヤー『オンラインデータで学ぶ経済学』を読みまし

た。もちろんこれらすべてを1年で読むわけではありません。輪読する本は毎年変わります。

² とはいえ本当に「無駄」かといと、そうでもないと思います。それに関する私の考えについては数年前の経ゼミ企画「教授インタビュー」で述べました。興味のあるかたは参照してください。

d) 今年から大学院志望の学生も若干名募集してみたくなりました。皆が研究志向である必要はありません。これまでのゼミ生も殆どが就職希望でした(おそらく来年度もそうでしょう)。ただゼミには多様性があったほうがよいように思っております。

3. 選考について

- ① 募集人員:A・B 日程で 10~15 名
- ② 選考内容:研究計画書の提出とレポート課題、および面接。志願者は、自分がゼミで実施してみたい実証分析内容を記した簡単な研究計画書を提出する必要があります(フォーマットはこちらで用意します)。また、これ以外にレポート課題の提出もあります。提出した研究計画と課題内容についてメールで問い合わせをすることがあります。成績表の提出は不要です。
- ③ 他学部および PERL 生受け入れ可能。ただしゼミは日本語で行います。
- ④ 選考基準:入ゼミ希望者の関心、意欲、知性などを総合的に判断し、主観的に選考を行います。

4. ゼミ員構成

4年生:男子1人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子13人、女子3人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4、5限)
経済実証分析の手法を主に勉強しています。3年生では主に統計と経済の二種類の本を輪読しプレゼンを行います。またグループごとの三田論の発表と、4年生の卒業論文発表も行います。
- ② サブゼミ(曜 限)
中嶋ゼミでは基本的にはサブゼミをおこなっていません。
- ③ パートゼミ
- ④ インゼミ
前期では井深ゼミの方々とインゼミを行いました。後期では一橋や日大のゼミとインゼミを行う予定です。
- ⑤ 課外活動
不定期で飲み会を開催します。毎回のゼミごとに飲み会を開くことはないです

が節目となる時期に飲み会を開催します。自由参加ですが参加率は非常に高いです!

⑥ 三田祭

例年通り三田祭に論文を出展いたします!ぜひご覧にいらしてください!

⑦ 夏休み

夏休みの間に夏合宿を行います。今年は千葉での開催でした。三田論の進捗状況の確認と今年は「質問力」をテーマに社会人に必要とされる質問力を高めるゲームなど他のゼミとは一線を画した内容でした!自由時間ではゴーカートや釣りなど思い出作りに大忙しです!

⑧ 合宿

上記の欄をご参照ください。

⑨ ゼミ必修授業

中嶋教授の産業組織論a(水曜3限)
stata演習(春学期 火曜3、4限)

※stata演習の授業は今年はゼミ必須でしたが年からは必修から外すと教授はおっしゃっていました。

⑩ 経費

2000~3000円程度

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

今年は「データ分析のカー因果関係に迫る思考法」伊藤公一郎著 でした。基本的には課題図書が指定されるので決まった参考書はありません。

7. 先生が担当している講義

日吉: (曜 限)
三田: 産業組織論a(水曜3限)

8. ゼミHP・SNS

twitter → @nakajimaryo2019

藤田康範研究会

—経済政策・応用経済理論—

1. 研究分野

本研究会は経済政策・応用経済理論を研究分野とし、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うこと、経済理論の活用方法を身につけて専門論文を執筆できるようになること、そしてその上で、感動を設計できるようになることを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』、「ハーバード・ビジネス・レビュー」等を楽しめるようになることがおおよその目安です。「コトづくり・ココロづくり」やプロモーション方法など、「感動の設計」に関する具体的課題を企業の方々からいただいてその解決案を提示させていただき、評価していただく機会を多く用意しています。

学生一人ひとりが新たな才能を発掘して相互に良い刺激を与え合い、「自他共栄」の中で大学生生活の後半を充実させ、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと思います。(具体的な課題解決のために経済理論がどのように役立つかについて関心のある方は、藤田康範『経済戦略のためのモデル分析入門』(慶應義塾大学出版会)(特に序章と第1章)をご覧ください。)

2. 学生への要望

本研究会は、「独立自尊」の個人によるグループワークを基本としています。各班が担当個所の報告を行い、その上で質疑応答を行なってお互いに高めあうことを目指していますので、建設的な意見交換を行うことに慣れておいて下さい。学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思います。

プレゼンテーションにおいて最善を尽くすのみならず、プレゼンテーションをしていない時でも適切に振舞えることが理想です。

必要なことがらは責任を持って教え、無理なく丁寧に進行するように努めていますので、特に独自に学習を行う必要はありません。慶應義塾大学経済学部の2年生と

して誠実に生活し、交友関係を築いていただければ十分です。

3. 選考について

①募集人数

昨年度までと同様にA日程で約15人を募集しますが、真剣に希望する人にはできる限り入会していただきたいので、応募人数が多い場合には、これまで通り募集人数を増やす予定です。(これまで、ゼミ員数が増えても、少人数を望んで受験された方々が失望しないように、最大限の努力をしています。)

②入ゼミ選考方法

(1) 事前レポート

現実経済や経済学、ものの考え方等に関するレポートです。昨年度と同様の内容であり、複数の課題資料の中から一つを選択し、その課題資料を契機として考えたこと感じたことをA4用紙2枚にまとめていただく予定です。数理的な分析を行う必要はありませんが、論理的な文章構成を心がけて下さい。内容は12月中旬頃に告知します。提出期限は入ゼミ試験日直前の予定です。

(2) 論述試験

応募される方々の力が最も発揮されるよう、「日本の経済」・「ミクロ経済学」・「経営学」の中から1科目を選択して解答していただきます。(科目の選択は試験当日、試験問題を見てからで結構です。また、「ミクロ経済学」については、負担にならないよう、秋学期の学習内容を試験範囲としています。)1時間程度の試験時間、B4用紙1枚程度の解答量を予定しています。それぞれに関しては、本および範囲を明確に定め、12月中旬頃に告知します。

(3) 面接

担当者(=藤田康範)による5~10分程度の個人面接です。夢を抱いていてその実現のために本研究会が役立つ方々の入会を希望しますので、自

分自身を適切にPRできるように考えておいて下さい。

③他学部生 PEARL 生受け入れの可否
他学部、PEAEL 生にも入会していただいています。

④選考基準

様々な背景を持つ人たちが交わって知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えていますので、明るくて前向きである人、新しいことながら驚きと喜びをもって受け入れられる人、意見の共有を好む人の入会を希望します。

⑤連絡先

電子メール : yfujita@econ.keio.ac.jp
住所 : 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45 慶應義塾大学経済学部 藤田康範

4. ゼミ員構成

4年生:男子9人、女子24人
(他学部0人、留学中1人)
3年生:男子7人、女子27人
(他学部2人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4~5限)

月に1つぐらいの頻度で与えられる課題に対して、5~6人のグループで取り組みます。その内容は経営戦略や「感動の設計」に関する実践的なものが多く、また、pptのみならず動画も用いて企業の方々に向けてプレゼンテーションするので、社会で必要な思考能力や表現能力が驚くほど身に付きます。

② サブゼミ

SNSやSkype等が活用可能となり働き方も変わりつつある現状に対応できるように、という先生のご意向の下、サブゼミを設けなくなりましたが、藤田先生の授業の前後等に集まることは多々あります。

③ パートゼミ

本ゼミが主にグループワークであるので、あえてパートゼミを行いませんが、有志メンバーで課題に取り組むこともあります。

(ア) インゼミ

東大大学院工学系研究科の松尾豊研究室。

(イ) 課外活動

慶早戦の応援や、動画作成のための現地訪問。先生を通じての企業の方々との様々な交流。

⑥三田祭

本年度は、論文発表の予定はありません。

⑦夏休み

それぞれの活動に専念して欲しいという先生のご意向の下、ゼミ活動はオフになりますが、必要に応じて就職活動や研究についての相談等を先生にします。

⑧合宿

9月2日から2泊3日。動画を完成させ、テレビ局の方にご講評いただきました。

⑨ゼミ必修授業

月曜2限の経済政策のミクロ分析と木曜3限の金融資産市場論です。

⑩経費

合宿やゼミTシャツ、誕生日会の費用等。その他にかかる経費は特にありません。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

『ゼミナール日本経済入門版』日経新聞社
／『演習ミクロ経済学』新世社／『経済戦略のためのモデル分析入門』慶大出版会

7. 先生が担当している講義

金融リテラシー(日吉、春学期金曜日5限)、インバウンド観光ビジネス創造論(日吉、秋学期金曜日5限)
自由研究セミナー(日吉、月曜日5限)
経済政策のミクロ分析(三田、月曜日2限)、金融資産市場論(三田、木曜日3限)

8. ゼミHP・SNS

<http://seminar.econ.keio.ac.jp/yfujita/>
twitter @fujitasemi

9. 連絡先

外ゼミ代表
姜知恵(rincorinco1111@gmail.com)
入ゼミ担当
原宏彰(hirohiyo_piyopiyo@keio.jp)

赤林英夫研究会

—計量分析と実験による教育の経済学・家族の経済学—

1. 研究分野

教育の経済学・家族の経済学

どのような理論も、現実の問題の解決に対して有効でなければ意味がありません。この研究会では、経済理論を学ぶだけではなく、現実のマイクロデータの計量分析と経済実験を通じ、経済学を社会の改善のために生かす手法と実践を学びます。担当者の現在の関心は教育経済学と家族の経済学ですが、それらの基礎となる労働経済学についても学びます。そこでは、今後の日本にとって最も重要な、しかしお金だけでは解決できない、教育、家族、労働の問題を正面から扱います。

マイクロデータの計量分析は、「ビッグデータ」の基礎技術の一つとして、ビジネスにおいても大きな価値を持っています。研究会で学ぶ視点や分析手法は、シンクタンクや国際機関での政策評価に使えるだけでなく、未来のIT社会におけるデータの価値を理解し、データに基づいた新しいビジネスの可能性を考えるきっかけにもなります。

また、行動経済学・実験経済学の手法の広がりや、教育や家族の分析のアプローチを変容さえつつあります。担当者は、子どもや家族を対象とした経済実験を実施しており、研究会の参加者は、それらのプロジェクトへの積極的関与を期待されます。

卒論・三田祭研究では、上記のアプローチであれば、広い範囲の社会経済問題からテーマを選ぶことができます。そこでは、問題発見・理論構築・データ開発・実証と、オリジナリティを重視します。

英語によるプレゼンテーションと討論

自分の考えを日本語で説明できるということは、もはや社会が皆さんに求めるスキルの十分条件ではありません。グローバル化は、英語で説明し、議論できる能力を要求します。研究会では原則英語の文献を読み、プレゼンテーションの3分の2を英語で行うことを目標にしています。英語に自信のない人も、人一倍のやる気があれば参加できます。また本年度より、PEARLの学生を受け入れる予定です。

さらに研究室のプロジェクトに参加

本研究会では、勉強会方式に加え、教育データの分析や経済実験など、研究室のプロジェクトに参加する意欲のあるゼミ生も募集します。本格的な研究の一端を経験したいと思う人には、是非積極的に参加してもらいたいと思います。

これらの学習を通じた最終目標は、**現実の新しい経済社会事象と向き合う時に必要な、自分の頭で思考し、事実を分析し、人に伝え、社会を変えるための力を獲得すること**です。その力とは、経済学的な視点と論理、データを解析する技術、そしてへたな英語でも臆せず使うパワーです。これらは、皆さんが社会に出てから成長し続けるための、一生の財産になるでしょう。

2. 学生への要望

本研究会では、多様な関心を持つ人を歓迎します。ただし志望するためには、日吉で初級マイクロ経済学又はマイクロ経済学入門と統計学の単位をすべて取得していることを最低条件とします。計量経済学概論の履修も強く勧めます。

・facebook ページ 慶應義塾大学経済学部 赤林英夫ゼミナール

・twitter akbzemi2019

に必ず目を通しておいて下さい。入ゼミの最新情報が発信されています。

・ゼミナール参加者は Stata による統計分析を予定しています。そのため、Stata の購入が必要です。

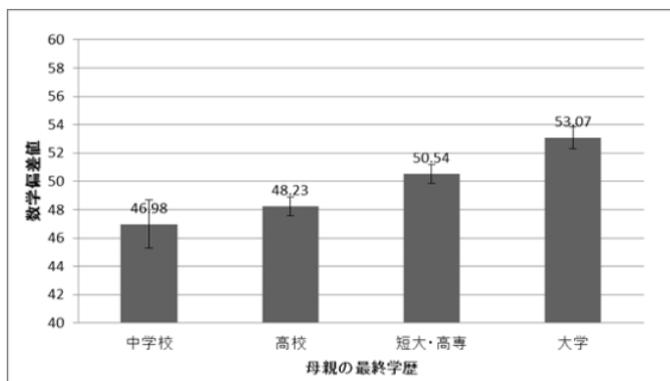
研究内容の紹介

本研究室では、最先端の教育経済学研究を行っています。特に、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター、こどもの機会均等研究センターと連携し、日本で唯一、研究目的で利用可能な、学力を含む子

子どもの追跡データ(JCPS)を収集しています。JCPSは、世代間の格差の伝搬の分析や、家庭内教育の国際比較に利用されています。研究室では、他に、政府や自治体のデータを利用した教育政策の評価分析や、子どもを対象とした経済実験を行っています。



母親の学歴と子どもの数学の偏差値(赤林他 2012)



3. 選考について

- ①募集人数 10人。原則A募集のみ。4年生も可
- ②選考内容 (以下予定)レポート提出・教員面接・日吉の成績表の組み合わせ。
- ③他学部入ゼミ:可、PERL生受け入れ:可
- ④選考基準 1-2年で勉強している証拠があること、自分で問題を考え、明快に説明できること。やる気と行動力。英語力は入ゼミ時には不問だが、強烈な向上心は必要。

4. ゼミ員構成

4年生:男子7人、女子1人
(他学部1人、留学中0人)
3年生:男子1人、女子3人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

- ①ゼミ(水曜4,5限)

今年の春学期は、計量経済学と教育経済学、また統計分析ソフトのStataに関する英語文献やネット上の資料、動画を用い、グループになってそれぞれ要約やデモンストレーションなどを行い発表しました。毎回各グループの発表に対して3・4年生でディスカッションを行い、先生からも意見を伺ったりすることで応用マイクロ経済学全般の知識の獲得と、プレゼン能力の向上を図ることが出来ました。英語の文献や資料、動画を用い、プレゼンと発表後の質疑応答も積極的に英語で行いました。

② サブゼミ

特になし

③ パートゼミ

特になし

④ インゼミ

今年は早稲田大学とのインゼミを12月に行います。3年生は三田祭論文の研究を、4年生は卒業論文の研究を発表して討論する予定です。

⑤ 課外活動

意欲のあるゼミ生は赤林英夫先生の研究室が行っている教育データの分析や経済実験プロジェクトに参加することができます。

⑥ 三田祭

今年のテーマは障害者雇用に決定しました。適宜先生からアドバイスを頂きながら3年生が協力しあって進めています。

⑦ 夏休み

3年生は自主的に集まり、合宿での中間発表にむけて三田論の作業を進めました。

⑧ 合宿

9月の終わりに二泊三日の夏合宿を行い、3年生は三田論の中間発表を、4年生は卒業論文の中間発表をそれぞれ英語と日本語を交えて行う予定です。

⑨ ゼミ必修授業

今年はマイクロ経済学中級I、計量経済学中級、労働経済論がゼミ必修授業でした。

⑩ 経費

テキスト代、新歓・夏合宿代、飲み会代などがかかります。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

去年は参考書は必要ありませんでした。
英語の論文の要約と自分の意見をワード5枚分以上提出しました。

7. 先生が担当している講義

日吉：（曜 限）

三田：労働経済論a

家族と教育の経済学a(水/金

水曜1

1限)

8. ゼミHP・SNS

facebookページ『慶應義塾大学経済学
部赤林英夫ゼミナール』

Twitter アカウント『akbzemi2019』

9. 連絡先

外ゼミ代表 小林稜太

(ryo.koba0722@docomo.ne.jp)

入ゼミ担当 桑原寧子

(yasuko.kuwahara@gmail.com)

財政社会学

井手英策研究会

井手英策研究会

—財政社会学・社会問題—

1. 研究分野

僕の担当科目は財政社会学、社会問題です。歴史的なアプローチから財政や社会の問題、そして日本社会のこれからについて学んでいます。近年、経済のグローバル化にともなって、日本社会のありかたは大きな変化を遂げつつあります。こうした社会の変容を、戦前以来の財政のありかたとの関連から研究しています。とくに、経済的要因だけではなく、信頼や規範、痛税感といった社会的要因が財政運営にどのような影響を与え、そのことが社会にどのような反作用を与えているのかに関心を持っています。

2. 学生への要望

ゼミでは3つのイベントがあります。1)春に広島県の介護施設を訪ねる、2)夏休みに全国の大学と合同ゼミをひらく、3)12月に京都大学との討論会をおこなう、です。これらすべてへの参加が単位取得の前提ですので、サークル等のイベントとの調整をできることが入ゼミの条件となります。

春学期は古典の輪読と合同ゼミへの準備をします。それらをもとに討論会へのペーパーを書き上げるのが秋学期の課題です。サブゼミでの準備もありますし、ゼミの活動は相当活発なものだと思います。

研究会を学生生活の中心にできない諸君には大きな負担になりますが、「2年間思いっきり勉強したい」という意欲のある学生諸君にとってはやりがいのあるゼミです。僕も可能な限り時間を割いて飲み会やイベントに参加しています。やる気のある学生諸君の応募を期待しています。

2. 選考について

- 1 募集人員:10名強
- 2 選考内容:ペーパー提出と面接。
- 3 選考基準:ペーパーや面接の内容はもちろん、応募書類やメールでのやりとりも含めて総合的に判断する。

4. ゼミ員構成

4年生:男子6人、女子5人
(他学部0人、留学中0人)
3年生:男子5人、女子2人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

- ① ゼミ(水曜4,5限)
各個人が予習して臨み、議論を活発にしています。
- ② サブゼミ(金曜5限)
3年生は週に一回、班別の論文発表の準備のためなどに集まっています。時間に関してはメンバーで相談して決められます。
- ③ パートゼミ
なし
- ④ インゼミ
合同インゼミ。京大諸富ゼミと実施。
- ⑤ 課外活動
任意で随時。
- ⑥ 三田祭
特になし
- ⑦ 夏休み
合同インゼミに参加
- ⑧ 合宿
5月、8月、11月に実施
- ⑨ ゼミ必修授業
なし
- ⑩ 経費
合宿費など

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

特に指定なし

7. 先生が担当している講義

日吉: 社会問題(春、火曜5限)
三田: 財政社会学(秋、金曜3,4限)

8. ゼミHP・SNS

<https://twitter.com/ideseminar>
<http://keioideseminar.sakura.ne.jp/2018/>

9. 連絡先

外ゼミ代表 神原惇之介(junnosuke-
kambara@keio.jp)
入ゼミ担当 能條桃子
(nomomoon317@keio.jp)

医療経済学

井深陽子研究会

井深陽子研究会

—(医療経済学)—

1. 研究分野

医療経済学は、英語対訳の Health Economics という呼称が示す通り、人間の経済活動と健康の関わりについて学ぶ経済学の一分野です。

経済は個人や企業、政府の活動から成り立っています。これまで皆さんが学んだ経済の動きを学ぶ理論において、健康という要素を明示的に扱うことは無かったかもしれませんが、実際の経済活動の多くの部分で健康という要素が様々な形で関わってきます。

例えば、ミクロ経済学で学んだ労働と余暇にそれぞれどれだけの時間を投入するかという問題を考えてみましょう。ジムなどで体を動かすことに時間をあてるのか(余暇)、それともその時間をアルバイトにあてるのか(労働)、というような意思決定は、日常的に行われていることでしょう。このような意思決定は、経済活動と個人の健康状態の両方に影響を及ぼします。すなわち、健康状態と経済活動は相互依存関係にあるわけです。

国家は個人の集合体からなりますから、このような個人の単位での健康と経済活動の依存関係は、国の経済政策や医療保健政策を考える上でも重要になります。

本研究会では、医療経済学の諸課題をデータを用いて実証的に分析することを目指します。経済学は人間の意志決定や経済の動きを精緻な理論を用いて分析することが大きな特徴です。同時に、構築された経済理論が妥当であるのかについて、データを用いて検証する実証研究が、1990年前後を境にますます重要になってきていることが専門の学会誌においても指摘されています。

政策の議論において、Evidenced-based という言葉がよく聞かれますが、実際に行

われた政策の有効性を評価する政策評価の分析は実証分析の一つの形態です。実証分析の一つの魅力は、ある政策の効果を評価する場合に、効果があったかどうか、だけではなく、その効果がどの程度の大きさであったか、を定量的に評価することができる点です。

本研究会では、実証分析に必要な計量経済学の手法を学んだ上で、その手法を利用した医療経済分野の研究を学びます。

2. 学生への要望

医療経済学(Health Economics)は、経済学においては、比較的新興の分野であり、未だ解明されていない問題がたくさんあります。最近では、日本でも科学的根拠を提供するのに十分な質の高い個票(主に個人レベル)のデータが入手可能となり、このような諸問題を分析する能力を有する人材の必要性が一層高まっています。研究分野の内容に加え、このような点に魅力を感じる方を歓迎いたします。

積極的であることは、研究会活動を自分にとって、また担当教員を含めたメンバー全員にとって充実したものにするために重要です。研究会活動では特に少人数という利点を活かして、医療経済学における研究を、学び・理解した上で、研究課題や分析手法、結果の解釈を活発に議論し、自身の研究につなげることを目指します。

研究会は少人数で学ぶことの出来る貴重な機会です。少人数であるということは、どの場においても、一人一人の果たす役割が非常に重要になってきます。個人の果たす役割の重要性を十分に理解して、研究会活動を行っていただける方を希望します。

最後に、本研究会は現在3年目の新しい研究会ですので、皆さんのアイデアや行動により盛り上げて下さることを楽しみにしています。教員はそのような活動ができる限りサポートしたいと思います。

3. 選考について

- ① 募集人員：10名程度
- ② 選考内容：A)ミクロ経済学、統計学、英語の筆記試験(合計で90分)、B)面接、C)成績表、D)レポート(B日程のみ)
- ③ 他学部入ゼミ：歓迎します。
PEARL 生入ゼミ：歓迎します。
- ④ 選考基準：願書の内容及びA)からD)より総合的に判断。願書の志望理由を重視します。(詳しくは教授説明会でご説明します。)

4. ゼミ員構成

4年生：男子9人、女子2人
(他学部0人、留学中1人)
3年生：男子11人、女子5人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

- ① **ゼミ(水曜4,5限)**
前期は本の輪読を行います。今年は医療分野から1冊(『誰の健康が優先されるのか』ボグナー、ヒロセ著)、計量経済学分野から1冊(『実証分析のための計量経済学』山本勲著)の計2冊を輪読し、章ごとに担当者が解説を行い、質疑応答などを行うことでゼミ員の間で議論を深めました。後期は引き続き本の輪読と、三田祭論文に向けた準備を行います。4年生は、1年間を通して卒業論文の制作を行います。
- ② **サブゼミ(水曜6限)**
学生のみで主体的に行っています。前期は授業のフォローアップや三田祭論文の準備を行いました。後期は三田祭論文の準備をメインに行う予定です。
- ③ **パートゼミ**
実施しておりません。
- ④ **インゼミ**
本年度は以下の研究室とのインゼミを実施する予定です。
若林研究会(東北大学)
マッケンジーコリン研究会(慶應大学)
河口研究会(成城大学)

菅原研究会(法政大学)
酒井研究会(法政大学)
和久津研究会(名古屋市立大学)
濱秋研究会(法政大学)

⑤ 課外活動

ソフトボール大会参加など、ゼミ生の希望に応じて企画します。

⑥ 三田祭

三田祭論文を作成、発表します。

⑦ 夏休み

夏休みは論文のグループごとに、三田祭論文の準備を行います。

⑧ 合宿

夏休みの終わりに2泊3日でゼミ合宿を行います。3年生は三田祭論文の、4年生は卒業論文の進捗発表を行う他、ディベートなども行います。

⑨ ゼミ必修授業

医療経済学(三田, 春学期水曜日 2限)と HEALTH ECONOMICS(三田, 秋学期水曜日 2限)のいずれか。演習a/b(三田, 春学期火曜日 3限, 4限)(山田, 津谷, 中嶋先生との合同授業)

⑩ 経費

教科書代：約1万円
合宿費：約2万円
計：約3万円が1年間でかかる経費の目安です。

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

ゼミ試験は基本的な内容が問われるので特に指定する参考書はありませんが、以下の参考書を推奨します。『演習ミクロ経済学』武隈慎一(新世社)『はじめての統計学』鳥居泰彦(日本経済新聞出版社)

7. 先生が担当している講義

日吉：（ 曜 限）

三田：医療経済学(春水曜2限)

演習ab(春水曜3,4限)[山田、津
谷、中嶋先生との合同授業]

HEALTH ECONOMICS(秋水曜
2限)

高齢化に伴う諸問題:経済と医
学の視点から(LECTURE
SERIES ON LONGEVITY
STUDIES)(秋水曜 6 限)

8. ゼミHP・SNS

https://twitter.com/ibuka_seminar

行動経済学

大垣昌夫研究会

大垣昌夫研究会

—(行動経済学)—

1. 研究分野

担当者は2005年ごろまではマクロ経済学、計量経済学、国際マクロ経済学を専門分野として研究してきましたが、現在の研究分野は主として行動経済学です。行動経済学は最近になって大きな発展をとげた分野で、2002年には行動経済学の業績でカーネマンが、2013年にシラー、2017年にセイラーがノーベル賞を受賞しました。従来の経済学は、利己的で、無限の計算能力などを持つという意味で超合理的な「経済人」を仮定しています。行動経済学は、心理学などで使われてきたようなアンケート調査や、経済実験を用いて、「経済人」の仮定の下では説明できない多くの重要な経済行動が現実にあることを示してきました。さらに「経済人」の仮定を用いないさまざまな経済理論が構築されてきて、特にファイナンス、発展経済学などの分野で応用されてきました。

本研究会では学生がグループを作り、行動経済学の仮説をアンケート調査やインタビューなどの行動経済学の手法を用いて実証研究を行なうことを目標とします。3年生は特に「世界観が経済行動に与える影響」というテーマの中で見つけた仮説について、4年生は自由なテーマで、それぞれ1年間かけて研究することとします。

世界観とは、哲学者のカントが使い始めた言葉とされていて、哲学や文化人類学で、いろいろな意味で使われています。文化人類学では文化との関係で、倫理や規範などの価値観や、何を美しいと感じるかななどの感情も含めます。ゼミでは文化人類学での一つの定義、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質についての認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」を採用しています。行動経済学の研究に用いる目的上、経済学の選好は世界観に含めないのが注意が必要です。

宗教を含む文化、科学、教育などが人々の知識に影響を与え、知識が世界観に影響を与えて、世界観を形成していきます。広大な世界に比べると、人間の認識力や

知識には限界があるので、世界観を全く持たないで世界を見ることは不可能です。意識していなくても、誰でも自分の世界観を持っています。世界に存在する世界観を大きく分類することは可能ですが、厳密には一人一人が異なる世界観を持っていることになります。

時代により地域により宗教や文化により、人々は大きく異なるさまざまな世界観を持っています。例えば認知面では日本の調査では「あの世」を信じる割合が、20代では1958年の13%から2008年の49%に上昇しています。また、日本では一神教的な神を信じる人は少ないのに対し、ほとんどのアメリカ人は、神あるいは宇宙的な霊の存在を信じています。

世界観は経済行動に影響します。例えば福澤諭吉が教育活動に力を入れたのは、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず。」という世界観が大きく影響したと考えられます

2. 学生への要望

担当者の講義「国際経済と行動経済学ab」は必修かつ要出席とします。「世界観の経済行動への影響」という研究テーマで3年生の一年間研究することに興味のある学生を募集します。グループ研究となるので、自分の特性をグループ研究に生かせることを嬉しく思う学生の参加を期待します。例えば対人関係に積極的な性格な人は、調査対象グループとの交渉の役目をしたり、心理学の授業を取った人は心理学の結果や手法を研究取り入れたり、英語の得意な人は英語の関連研究の論文を研究会で紹介したり、日本語の得意な人はアンケートの調査票でわかりやすい質問を作ったりする、というようなことです。

3. 選考について

- ① 募集人員: 約18名
- ② 選考内容: レポートと面接(学生によるもの、および担当者によるもの)。レポートの課題などの詳細はゼミHPに発表されます。

③ 他学部入ゼミは受け入れ、PEARL 生は受け入れていません。

④ 選考基準

意欲と興味の度合、共同研究の研究能力、リーディング課題での対話能力を中心に、男女比などのゼミ生のバランスを考慮しつつ総合評価します。バランス上、体育会所属学生は数人までとする予定です。

4. ゼミ員構成

4年生:男子8人、女子10人
(他学部0人、留学中3人)

3年生:男子14人、女子4人
(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(月曜4,5限)

3年生の本ゼミ活動は以下の二つに分かれます。

1. リーディング課題の発表

・ディスカッション

ディスカッション課題を読んでディスカッションします。例えば春学期は、入ゼミ課題本でもあるマイケル・サンデルの『これから「正義」の話をしよう』から学んだ世界観を基に、事例に対してグループごとに賛成・反対庭から、意見を発表しディスカッションを行います。教授の考えやアドバイスをもらうこともできるので、既存の経済学とは違う行動経済学の観点をより深く理解することができます。

《扱った事例(一部)》

・日本政府は死刑を廃止するべきか
・アメリカでの奴隷制への補償について、先祖が奴隷を保有した人であっても、本人が奴隷を保有したことのない人に補償のための税を課すべきか
・公共部門の道徳的・宗教的不一致に対して、政府は積極的に関与すべきか

2. 三田論に向けた研究発表

4人一組の研究グループごとに、「世界観が経済行動に与える影響」に関して、自由にテーマを設定します。三田論に向け、各グループの研究の進捗状況を発表していきます。教授は学生の主体的な研究活動を励まし、的確なリードバックをくださいます。

《本年度研究テーマ一覧》

・開拓主義の世界観がSNS広告の活用に与える影響

・他人の意見を重視する世界観が購買行動での情報収集に与える影響

・共同体感覚と応報性の世界観がカンパ制に与える影響

・個人情報に関する世界観がターゲティング広告のクリック行動に与える影響

・自己肯定感と体裁主義の世界観が就職活動に与える影響

・加点主義の世界観がレビュー鑑賞後の購買行動に与える影響

・4年生は広く行動経済学のテーマで卒業論文研究を中心に活動しています。

② サブゼミ(木曜4,5限)

本ゼミでのディスカッションや三田論に向け、リーディンググループ、研究グループに分かれて課題発表の準備、研究を進めています。

③ パートゼミ

特になし

④ インゼミ

近畿大学経済学部経済心理コースの山根承子ゼミとのインゼミ活動を始めました。

⑤ 課外活動

行動経済学会での研究発表
実験補助等

⑥ 三田祭

三田論の発表を行います。ブースも設けているので、興味のある方はぜひお越しください。

⑦ 夏休み

三田論に向けた研究をグループごとに進めます。

⑧ 合宿

毎年2泊3日の合宿を行っています。合宿では研究のみならず、レクリエーション等を通じてゼミ員の交流を図ります。

⑨ ゼミ必修授業

大垣先生の火曜日1,2限「国際経済と行動経済学」の履修が必要です。(三田キャンパス/要出席)

⑩ 経費

特になし

6. **ゼミ試験対策で使用した参考書**
『これから「正義」の話をしよう』(マイケル・サンデル著)
7. **先生が担当している講義**
日吉： (曜 限)
三田： 国際経済と行動経済学a,b(春火曜1,2限)
8. **ゼミHP・SNS**
HP <http://seminar.econ.keio.ac.jp/ogaki>
Blog <http://mogakisemi.exblog.jp>
9. **連絡先**
外ゼミ代表
田代 陽太郎(gromit1536@gmail.com)
入ゼミ担当
中込 昂佑(tkg683060@gmail.com)

環境経済学

大沼あゆみ研究会

大沼あゆみ研究会

—環境経済学—

1. 研究分野

当研究会では、環境経済学についての研究を行います。現在、地球温暖化、生物多様性減少、廃棄物処理などを始め、さまざまな環境問題が存在していますが、その背景にはその主要要因として多くの経済活動があることがほとんどなのです。

環境経済学は、どのような経済活動が環境問題をもたらしているのか、そしてどのような経済政策を行うことで環境問題が緩和・解決できるのかを探求するものです。それぞれの環境問題に特徴的な経済学的アプローチもあれば、多くの環境問題に共通するアプローチもあります。

本研究会では、三年時は、主に自然保全(生物多様性保全)の問題についての研究を行い、環境経済学の考え方を学ぶとともに、現実の自然劣化について幅広く知識(現状・対策・国際的取組・関連ビジネスなど)を吸収してもらいます。夏合宿では国立公園を訪問するなど、さまざまな現場を見ることを計画しています。一方、四年時に執筆する各自の卒論は広く環境問題の中からテーマを選び研究を進めてもらいます。

ちなみに、私の研究のテーマは、「持続可能な発展」と「生物多様性保全」についてです。生物多様性の持続可能な保全システムにや生物多様性を経済に活用したさまざまな事例も研究しています。

2. 学生への要望

環境問題は純粋な気持ちから心を痛める人が多いものです。しかし、環境保全に対して行われる提言の中には、こうした気持ちを反映してか若干情緒的な提言も少なくありません。そして、そうした提言は、持続的なシステムづくりという観点からは評価できないものも多いのです。持続可能な保全システムの設計には経済学的な論理的考えは欠かせません。一方で、環境問題のほとんどは、適切な保全システムがまだ完成途上にあります。経済学への需要は高く、学

生諸君にもさまざまな観点から提言を行ってくださることを期待しています。

3. 選考について

選考について①募集人数②選考内容③他学部入ゼミ、PERAL生受け入れの可否④選考基準の紹介をお願い致します。

① 募集人数 A日程とB日程を合計して15名程度。

② 選考内容 課題レポートと面接および成績表(B日程は面接・成績表)

③他学部入ゼミ:受け入れる
PERL生受け入れ:原則として受け入れない(日本語で授業を行うため)。

④選考基準
レポートと面接の総合評価。自然や環境問題に対する関心など幅広くお話してもらいます。これまで環境問題に実際に取り組んだことがあったり、自然や野生生物が好きな学生諸君を歓迎します。

4. ゼミ員構成

4年生:男子2人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

3年生:男子0人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

① ゼミ(曜 限)

指定された教科書に基づいて輪読を行います。また、環境問題に関する新聞記事を見つけ、経済学的観点から解決策を考える、「新聞発表」という課題もあります。

② サブゼミ(曜 限)

主にインゼミ論文のための活動に充てられます。

③ パートゼミ

特になし。

④ インゼミ

早稲田大学や上智大学の環境経済学ゼミと合同で論文の発表会を行います。

およそ8カ月かけて、班ごとに論文を執筆します。

⑤課外活動

⑥三田祭

インゼミ論文の展示を行います。

⑦夏休み

夏休み中に、夏合宿があります。また、インゼミ論文のために集まっている班もありました。

⑧合宿

年一回、9月に合宿を行います。

⑨ゼミ必修授業

指定あり

⑩経費

ゼミ費:2000円

合宿費:30000円程度

6. ゼミ試験対策で使用了参考書

ミクロ経済学授業のレジュメ

7. 先生が担当している講義

日吉： (曜 限)

三田： (曜 限)

8. ゼミHP・SNS

HP:<https://onumaseminar.com/nyuzemi.html>

Twitter:@onumazemi2015

9. 連絡先

外ゼミ代表 ()

入ゼミ担当 土田慧

(satoshitsuchida1213@outlook.jp)

都市計画

長谷川淳一研究会

長谷川淳一研究会

—都市政策・都市文化—

1. 研究分野

私は、授業では欧米経済史関係の科目を担当しており、そこでは産業革命以降を中心に話をしているが、自分自身の研究では現代の日本とイギリス、とくにそれぞれの都市政策や都市文化に注目してきた。そもそも、イギリスの戦災都市(第二次世界大戦中にドイツ軍の空襲で破壊された都市)の再建を研究し、そこから、福祉国家志向のイギリスの戦後再建やイギリスの都市について検討してきた。

また、日本についても戦災復興を皮切りに、1950年の首都建設法や国土総合開発法の制定を、戦後復興の一環として都市計画・国土計画関連の分野でも新しいシステムが構築されたのか否かという観点から検討してきた。いずれの国においても、ここ30年ほどの規制緩和路線以前の時期の土台を築いた時期であり、改革とはいっても、規制緩和路線とは性質的にむしろ正反対といえるものがすすめられようとした時期ではあった。

最近では、まず、高度成長期であった1960年代に関心を持っている。イギリスに関しては、ウィルソン政権期の改革志向の強い経済政策や、寛容社会の到来についての検討を進めようとしている。この経済政策とは、軍需産業での先端技術を普通の民間産業に広めることで生産性を向上させようとしたテクノロジー省の試みである。寛容社会とは、モッズやスウィング・ロンドンといったことばに象徴されるような、奔放な若者文化のことである。

日本に関しては、佐藤政権期の1968年に、高度成長期の都市問題対策として制定された都市計画法について検討している。また、太陽族、六本木族、みゆき族、原宿族、フーテン族等々、高度成長期の若者文化についての共同研究を進めている。

2. 学生への要望

ゼミにおいても、日本やイギリスの戦後史やいま現在の都市に関する政策や文化といったトピックは大いに歓迎したい。

3年生は、いくつかの文献を輪読した後、にテーマを決めて、三田祭論文および12月に開催する他ゼミとのインターゼミに向けての作業を行なう。昨年は、三田祭論文は東京近県のニュータウン開発についての論文作成を行ない、インターゼミでは、若者文化についての口頭報告を行なった。今年の3年生は、山手線の新駅開発について検討している。

4年生は例年、各自がトピックを考えて、卒論作成に邁進する。

ゼミでは、この三田祭論文やインターゼミをはじめ、ゼミにおける共同作業・活動に積極的に取り組んでほしい。そのうえで、自分自身で課題を決め、様々な資料を捜し求めて、卒論に取り組めるようになってほしい。

3. 選考について

- ① 募集人数: 若干名～10名
- ② 選考内容: 筆記試験、面接
- ③ 他学部入ゼミ: 可

PERL生受け入れ: 否

④ 選考基準

筆記試験は、都市政策に関する内容を中心としたものにする予定である。また、面接では、どういった研究課題をやりたいのかについて、問題意識、研究上の意義を含め、具体的且つ詳細に述べられるかどうかを重視したい。その際には、どういう先行研究や、具体的な政策や計画、さらには問題点があるのかを、よりくわしく調べ、したがって、より多く語ることのできる者が、より高く評価される。

4. ゼミ員構成

4年生: 男子5人、女子1人
(他学部0人、留学中0人)
3年生: 男子6人、女子2人
(他学部1人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ(水曜4～5限)

まず、都市計画についての書籍を用意し、メンバー全員で1冊を読み切れるように分担を行い、読み込みます。その後、自分の読んだパートを他のメンバーに共有するためにプレゼン作りを行います。全員のプレゼンにより1冊分の情報が共有されると、最後に仕上げとして、メンバーで先生に学んだことを一つのプレゼンにまとめて発表を行います。このようなサイクルを今年2周行い、残りの時間で三田論文の準備に取り掛かりました。

② サブゼミ

長谷川ゼミではサブゼミを行っていません。

自由な時間をお過ごしください。

③ パートゼミ

長谷川ゼミではパートゼミを行っていません。以下同文。

④ インゼミ

12月初旬にあります。頑張っています。

⑤ 課外活動

特にありません。

⑥ 三田祭

三田祭で論文を発表します。そのために授業や夏休みの時間を使って準備を行います。

⑦ 夏休み

今年は一回集まりました。年によってバラバラです。

⑧ 合宿

特にないです。企画してください。

⑨ ゼミ必修授業

なし。

⑩ 経費

ゼミ旅行がない場合は課外活動で使うカフェ代や交通費しかかかりません。

6. ゼミ試験対策で使った参考書

ゼミの試験問題となる論文をTwitterで配信する予定なのでそれをダウンロードして印刷してください。

7. 先生が担当している講義

経済史概論 I (日吉、月曜日3限)

欧米経済史ab(三田、前期集中・火、水曜日1,2限)

8. ゼミHP・SNS

ツイッターアカウント: @keiohasegawa

9. 連絡先

外ゼミ代表

近藤里奈(dneuf.lm@gmail.com)

入ゼミ担当

野崎淳之介(miwanoza@yahoo.co.jp)

PCP

研究プロジェクト

Professional Career Program

—英語による実践的な経済学—

・PCPとは？

Professional Career Program(PCP)とは、慶應義塾大学経済学部が、カリキュラム改革の一環として、2005年度に学部内に設置したプログラムです。新カリキュラムは、卒業後のキャリア・パスを明確に意識させることによって学生の学習意欲を喚起し、同時に教育サービスを向上させるために導入されました。

原則として経済学部の3・4年生を対象に、将来のキャリア形成に役立つ実践的な経済学教育を少人数クラスでかつ英語で提供します。講義・授業中の質疑応答・試験のほか、コーディネーターとの会話・連絡はすべて英語で行われます。

2. PCPの目的

PCP は、職業人として世界的に活躍するキャリアを築くことを目指す学生および、国内外の大学院・専門職大学院(法科大学院、行政大学院、ビジネススクール、開発関連大学院などのプロフェッショナル・スクール)に進学することを視野に入れている学生のために開設されました。以下の2つの側面において学生の指導を行うことにより、国際的な視野に立つ人材・未来への先導を行う真のリーダーを育成します。経済学専門科目の学習・リサーチ・スキルの習得:このプログラムに参加する学生は、まず基礎となる経済学的な考え方および数量的分析手法を習得します。その後、各自の興味に従って複数の専攻コースの中から一つを選択し、より専門的な領域の基礎知識を学びます。各設置科目の中では政策論が積極的に取り入れられているため、学生は政策分析の枠組についての理解を深めることができます。そして共同研究と個別研究を通じて、リサーチ・スキルを高めます。語学スキルの向上:授業や試験は勿論、コーディネーターとの会話や連絡が全て英語で行われます。さらに、英語以外の外国語を学習することも奨励されています。将来のキャリア計画を見据えたうえで語学能力を向上させることができます。履修許可は選抜された学部3・4年生のみに与えます(選抜は2

年次の終わりに行います)。PCP の履修科目は全て卒業単位として計算され、プログラム内の科目全てに合格した学生には、塾長と学部長連名の修了証が発行されます。研究会・研究プロジェクトとの並行履修も、制度上は可能です。なお、研究プロジェクトとの同時履修をする場合は、それぞれのプログラムコーディネーターに申し出て、研究テーマの内容などについて事前に相談してください(単位履修その他の評価に影響する場合があります)。

・教育目標

PCP では、次のような教育目標の達成を目指しています。・基礎となる経済学的な考え方の習得。・数量的分析手法の習得。・関連する経済学領域の基礎の習得、政策論の分析枠組みの理解。・共同研究・個別研究を通じての、論文作成・プレゼンテーションを含むリサーチ・スキルの学習。・プロフェッショナル・キャリアを見据えた語学スキル(英語・第二外国語)の習得。

ゼミを基軸にした大学教育との違い

従来、慶應義塾大学経済学部の教育サービスは、「講義科目」のほか、少人数教育としては「研究志向の強いゼミ」のみがありました。これに対しPCPを加えた新しい教育サービスでは、少人数教育の選択肢として、ゼミのほかに「研究プロジェクト」と「PCP」があります。PCPでは、英語による実践的な経済学教育を少人数で行うことによって、国際社会で活躍する人材・研究能力の高い人材を育成します。

選考方法

願書のみ。ただし第二学年までの成績においてGPA3.3を取得していること。TOEFL iBT 79点またはIELTS 6.5以上を取得していることが応募条件です。

ゼミ員構成

4年生：男子12人、女子6人
(留学中・留学予定者4人)
3年生：男子12人、女子21人
(留学中・留学予定者12人)

活動内容

- ① 課外活動 毎年、韓国の延世大学、中国の精華大学と 合同で、ABF というプログラムを開いており、参加しています。今年は韓国が舞台でした。
- ② 三田祭 PCP として三田祭で活動することはありません。
- ③ 夏休み PCP で強制的に集まるイベントはありません が、ABF に参加する生徒や、インターン、別の サマースクールに参加する生徒等、様々です。
- ④ 合宿 四年生主催で年に一度行います。
- ⑤ 授業 Academic Writing, FPGE, Independent Study の必修科目に加え PCP 設置の Major Classes の中から最低 8 科目選択してもらいます。
- ⑥ 経費 教科書代、合宿費等で 3 万円ほど

先生が担当している講義

PCP 設置科目をご覧ください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/e/pcp/curriculum>

ゼミ HP

<http://www.econ.keio.ac.jp/en/undergraduate/a/te/pcp>

連絡先

外ゼミ代表

Arisa Sasaki (arisa.sasaki@gmail.com)

入ゼミ担当

殿木誠(mtonoki0431@keio.jp)

研究プロジェクト

・研究プロジェクトとは？

経済学部で2005年度に始まった研究プロジェクトは、学生が自らのテーマを選び、学部選任教員の指導のもと、1年間で論文や作品を完成させるコースです。テーマは経済学に限りません。社会科学、自然科学、人文科学、どの学術分野を選んでも構いませんし、芸術作品などの創作を行うこともできます。今までに100人以上の学生が履修し、街づくりや現代医療、さらには音楽、映画、建築など幅広いテーマで研究成果を発表してきました。過去の研究成果に関しては、経済学部HPの研究プロジェクトのサイトをご覧ください。研究プロジェクトは研究プロジェクトab研究プロジェクトCの2つの科目から成り立っています。研究プロジェクトabでは、指導教員に論文や作品を完成するまで指導してもらいます。この大きな特徴は、徹底した少人数制です。1人の教員がこのプロジェクトで指導できる学生は5人までとなっています。そのため、学術的な問いの立て方から文献の調べ方、論文を書く際の作法まできめ細やかな個別指導を受けることができます。一方、研究プロジェクトCは、研究プロジェクトを履修した学生全員を対象に、論文の書き方講習会や、各自の研究の報告会など2~3か月ごとに開催します。これらは、プロジェクト履修生間の交流の場になると同時に、自分の研究の進捗状況がどのあたりなのかを客観的に把握してもらう機会となります。特に、中間報告会と最終報告会は一般公開となりますので、門外漢にも自分の研究内容を正確に伝えることが要求されます。例年、これらの報告会では、履修生やその他の聴衆から活発な意見交換が行われ、知的刺激に満ちた場となっています。また、最終成果の要旨は全員インターネット上で公開することが義務付けられています。履修生の研究成果を広く知ってもらうことが主な目的ですが、それと同時に、履修生には研究内容に対する責任を意識してもらうことが求められます。

・履修までの手順

(1) 指導教員を探す 研究プロジェクトを履修するためにはまず指導してくれる教員を探さなくてはなりません。経済学部船員教員の中から自分のテーマに近い研究を探し、指導を依頼してください。指導教員がうまく見つからない、依頼したい教員への連絡の取り方が分からないといった場合は、研究プロジェクトのサイトから「問い合わせ用紙」をダウンロードし、必要事項を記入した後、後述のコーディネーター問い合わせ先までご相談ください。

(2) 履修申し込み 指導教員が決まったら、今度は「申込用紙」をダウンロードし、記入したうえで学生部に提出してください。申し込み手続きの詳細については、研究プロジェクトのサイトの「履修申し込みについて」に書かれていますのでご覧ください

(3) 履修登録 履修許可を得て、4月に履修登録を済ませれば履修のための手続きは全て完了です。履修についてのよくある質問は、経済学部HPにある、研究プロジェクトの頁のQ&Aにもまとめてあります。こちらも参考にしてください。

1. ゼミ員構成

7人

2. 活動紹介

① 研究プロジェクト a.b 担当教授の少人数授業。曜日や時間帯は教授との相談の上で決めることができる。授業としては自分の研究成果を報告し、教授から助言をもらう。173 あくまで研究は学生主導で行われるため、自己管理能力と自発性が求められる。教授との議論が白熱し、数時間がすでに経っていたということも少なくない。

② 研究プロジェクト c (土曜日 3,4 限) 受講生全体が集まって行う授業。基本的に年に6回程度、土曜に行われる。基本的に研究プロジェクトは一人で研究を行うものであるが、ここでは研究の進捗状況

や情報を共有することが求められている。論文の書き方講習やプレゼンの仕方などの学術的成果発表の様式を学ぶ事が目的となっている。なお、③以降は研究プロジェクト C の具体的な講座について記述する。

③ 課外活動 なし

④ 三田祭 なし

⑤夏休み 各教授の指導方針による。夏休み明けに控えた中間報告会に向けて、各自が準備を進める。

⑥合宿 各教授により、合宿の有無が異なる。

⑦授業 研究プロジェクト c への参加は必須。また、研究プロジェクト a.b は各期 14 コマ分を満たす事が必要。

⑧ 経費 特になし。

3.ゼミ試験対策でを使用した参考書
各自の研究内容による。

④ 先生が担当している講義 指導を依頼する教授による。

5. ゼミHP・SNS

<http://www.econ.keio.ac.jp/undergraduate/research-project>

6. 連絡先

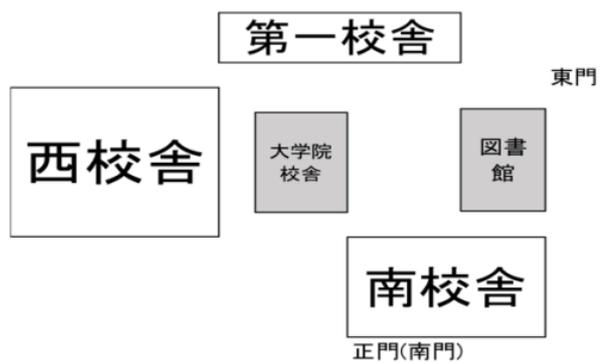
コーディネーター問い合わせ先

kpro-group@keio.jp

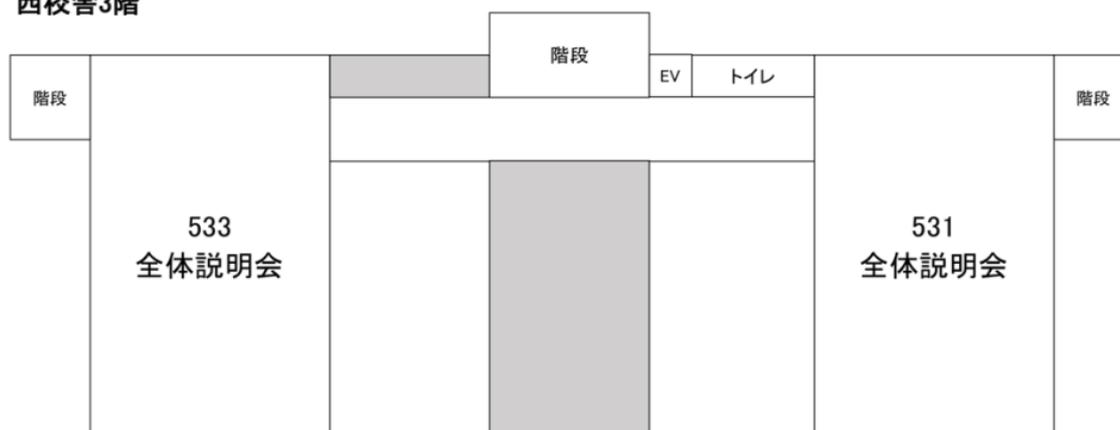
TA 問い合わせ先

kpro_ta-group@keio.jp

ゼミ説明会会場全体図



西校舎3階



経済学部第2回入ゼミ説明会冊子

発行年月日:2018年11月10日

発行責任者:澤田剛志

編集責任者:石本昭君

大畑滉貴

関川なつみ

澤田剛志

松村美希

印刷:梅沢印刷所

企画・発行:慶應義塾大学 経済学部ゼミナール委員会



Keio University

1858

CALAMVS
GLADIO
FORTIOR